

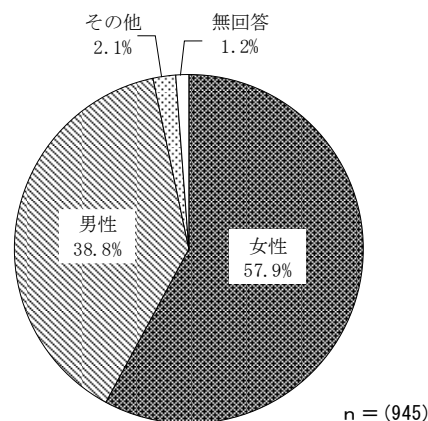
## 第2章 調査結果の詳細



## 1. ご自身のことについて

### (1) 性別

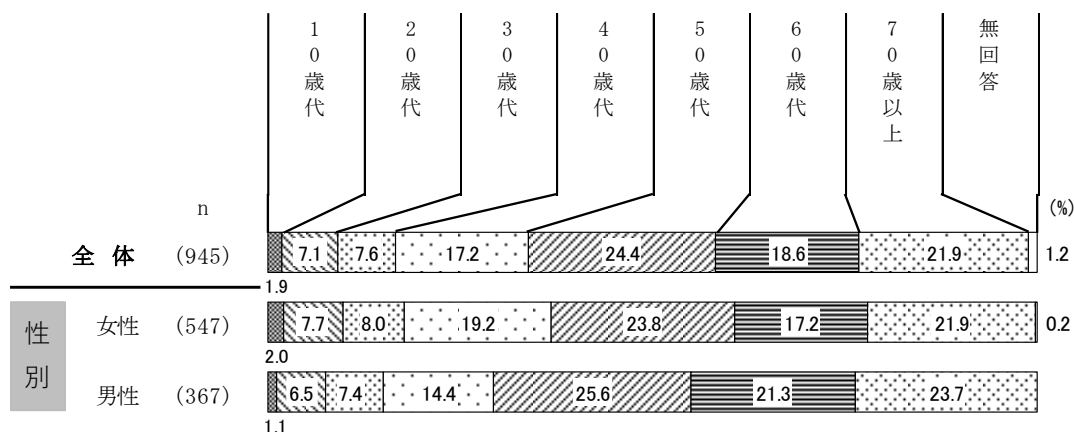
性別についてみると、「女性」が57.9%で最も高く、次いで、「男性」(38.8%)、「その他」(2.1%)となっている。



### (2) 年齢

年齢についてみると、「50歳代」が24.4%で最も高く、次いで、「70歳以上」(21.9%)、「60歳代」(18.6%)、「40歳代」(17.2%)となっている。

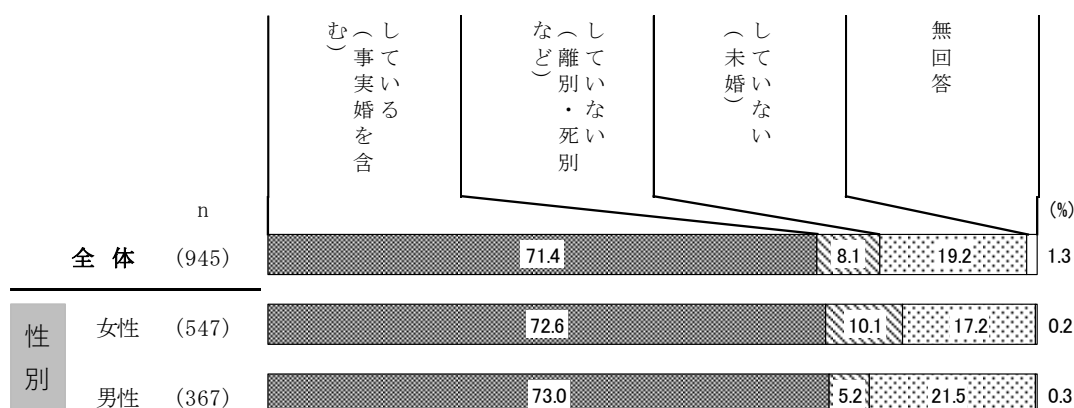
性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



### (3) 婚姻の有無

婚姻の有無についてみると、「している (事実婚を含む)」が71.4%で最も高く、次いで、「していない (未婚)」(19.2%)、「していない (離別・死別など)」(8.1%)となっている。

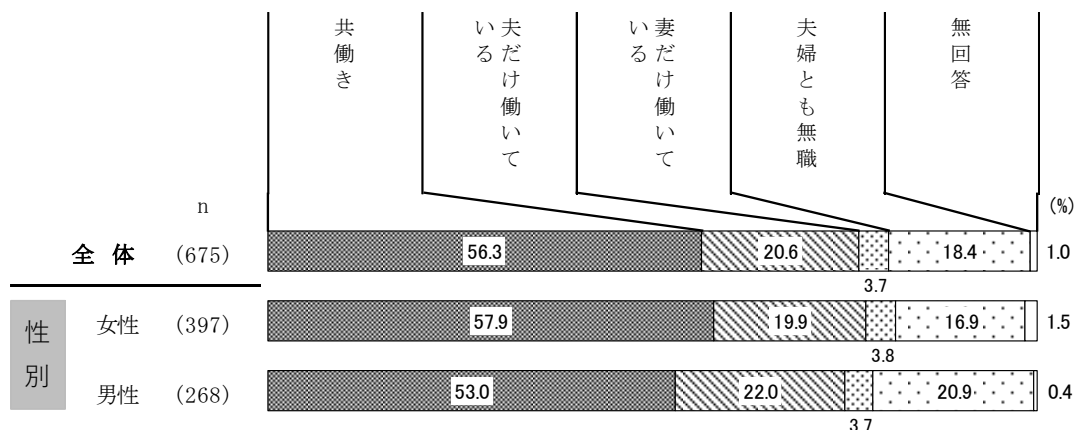
性別にみると、男女ともに「している (事実婚を含む)」が7割以上で最も高くなっている。女性は「していない (未婚)」(17.2%)、「していない (離別・死別など)」(10.1%)となっており、男性は次いで「していない (未婚)」(21.5%)が高くなっている。



### (4) 夫婦の働き方

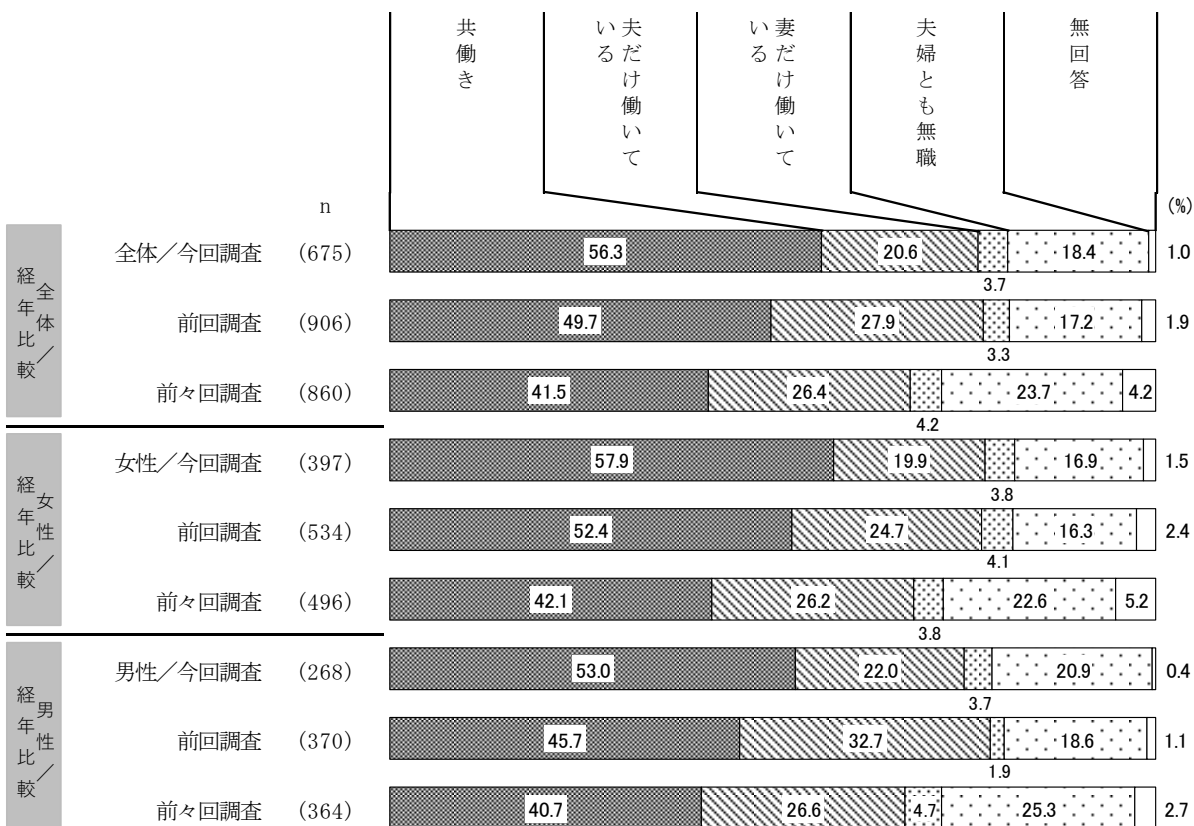
夫婦の働き方についてみると、「共働き」が56.3%で最も高く、次いで、「夫だけ働いている」(20.6%)、「夫婦とも無職」(18.4%)となっている。

性別にみると、男女ともに「共働き」が最も高くなっているが、女性(57.9%)が男性(53.0%)より4.9ポイント高くなっている。また、「夫だけ働いている」は男性(22.0%)が女性(19.9%)より2.1ポイント高くなっている。



### ■経年比較

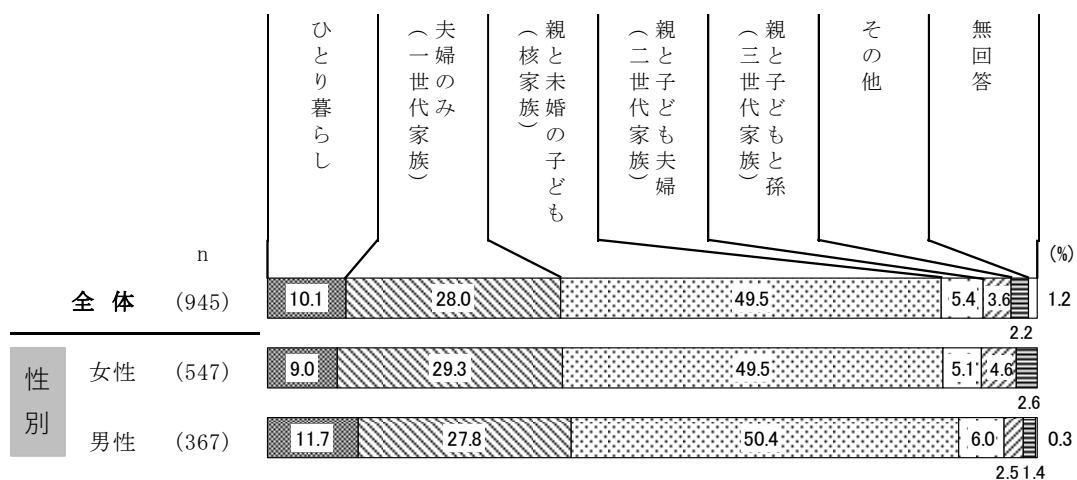
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「共働き」が増加しており、前回調査から6.6ポイント増加している。



(5) 世帯構成

世帯構成についてみると、「親と未婚の子ども（核家族）」が49.5%で最も高く、次いで、「夫婦のみ（一世代家族）」（28.0%）、「ひとり暮らし」（10.1%）、「親と子ども夫婦（二世世代家族）」（5.4%）となっている。

性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



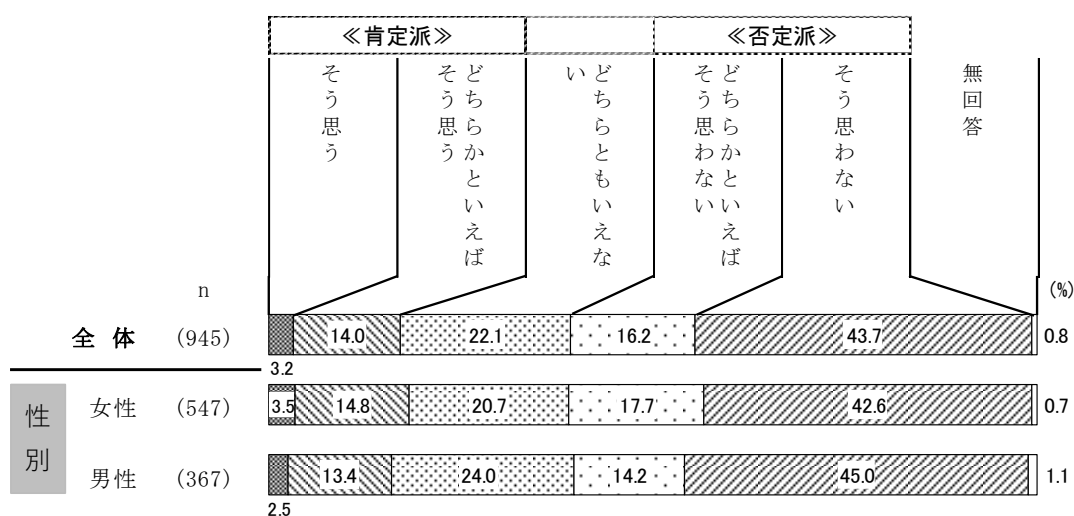
## 2. 家庭内の役割分担について

### (1) 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についての意識

問1 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。  
(○は1つ)

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についての意識についてみると、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《否定派》が59.9%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《肯定派》が17.2%となっており、《否定派》が《肯定派》を上回っている。

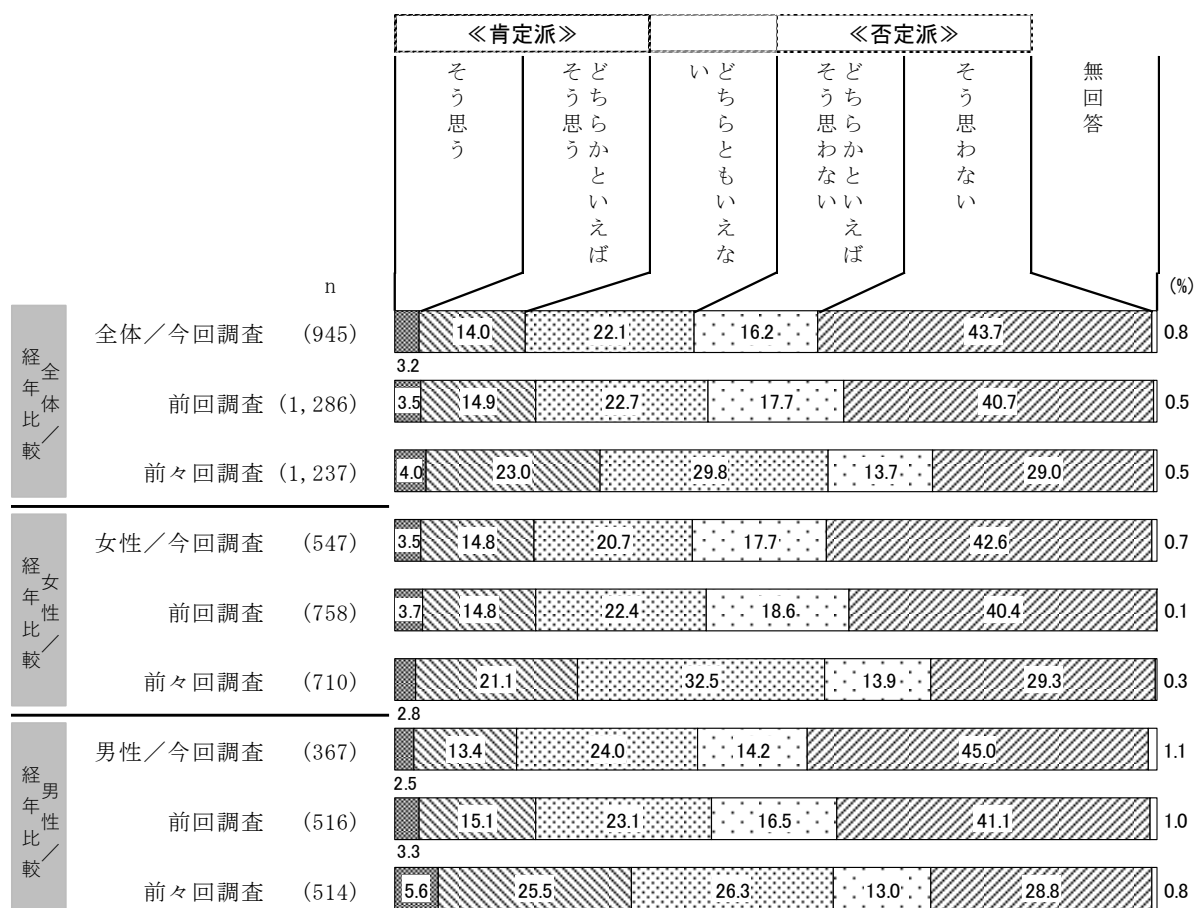
性別にみても同様の傾向がうかがえ、男女間に大きな違いはみられない。



■経年比較

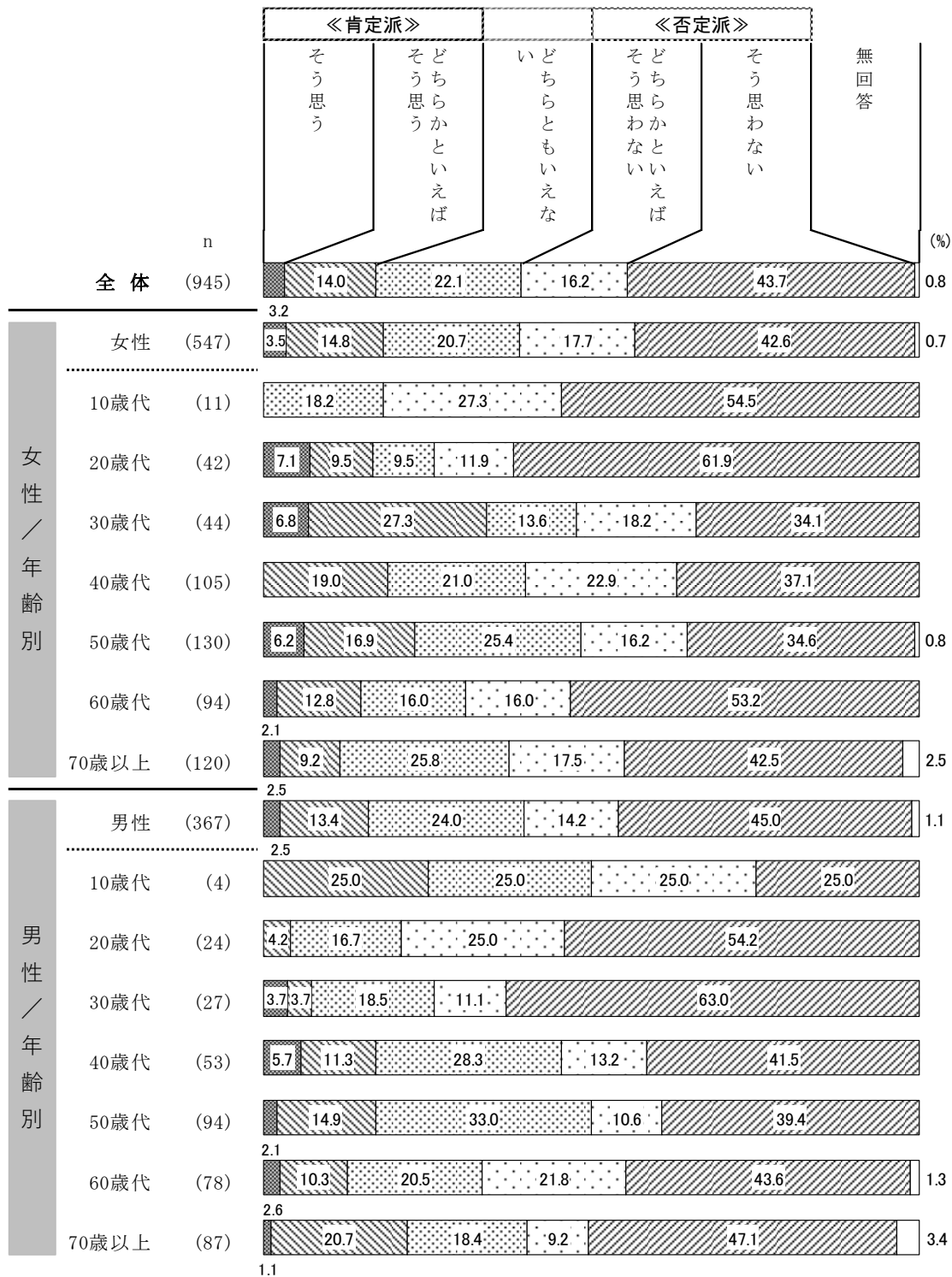
経年比較をみると、前々回調査から今回の調査にかけて《肯定派》は減少しており、前々回調査から9.8ポイント減少している。また、《否定派》は増加しており、前々回調査から17.2ポイント増加している。

性別にみても同様の傾向がうかがえる。前々回調査と比較すると《肯定派》は女性が5.6ポイント、男性が15.2ポイント減少し、《否定派》は女性が17.1ポイント、男性が17.4ポイント増加している。



■性年齢別

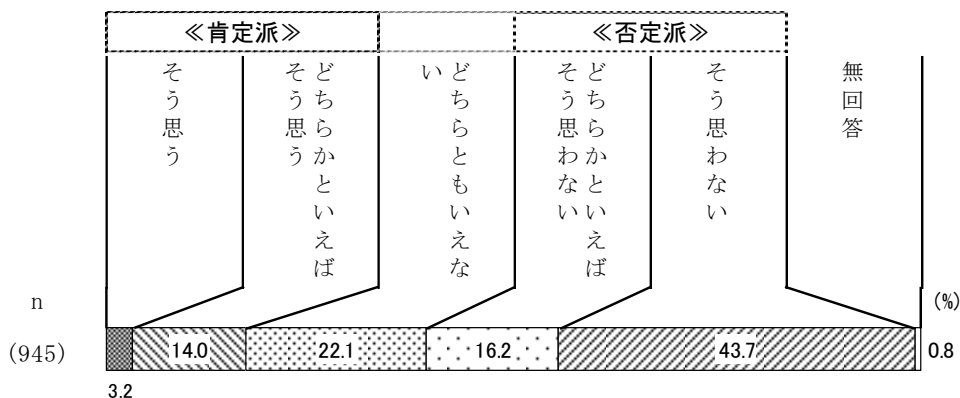
性年齢別にみると、20歳代では《否定派》が女性で7割超（73.8%）、男性で約8割（79.2%）と他の年代より高くなっている。《肯定派》では女性が30歳代で3割半ば（34.1%）、男性の70歳代で約2割（21.8%）と最も高くなっている。



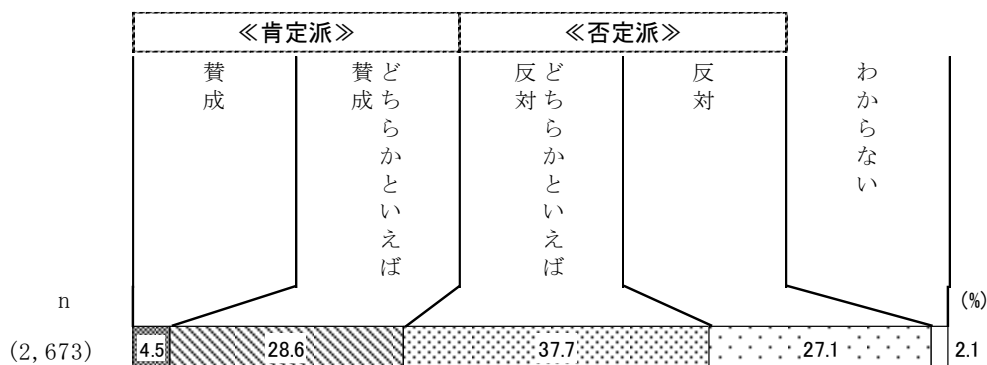
■国比較

内閣府が2024年に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」とは文章表現や選択肢が異なることを考慮する必要があるが、参考として内閣府の調査と比較すると、町田市で「そう思わない」、国で「どちらかといえば反対」が最も高くなっている。また、町田市の「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《否定派》（59.9%）と、国の「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた《否定派》（64.8%）は、ともに過半数を占めている。

【町田市】



【国】

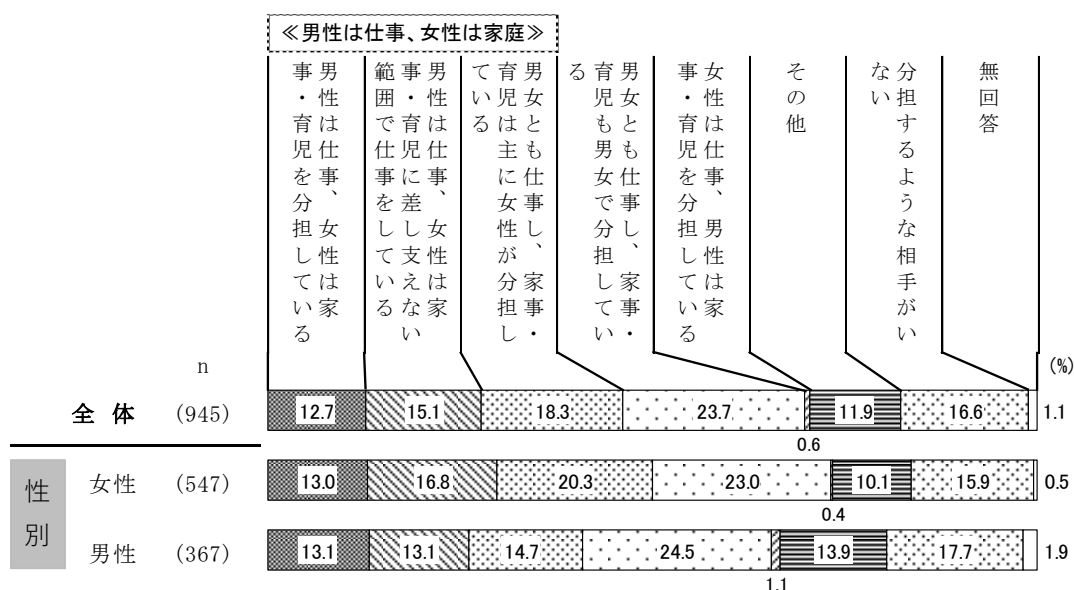


(2) 家庭での役割分担

問2 あなたのご家庭での役割分担はどうなっていますか。最も近いものを1つお選びください。(○は1つ)

家庭での役割分担についてみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」、「男性は仕事、女性は家事・育児に差し支えのない範囲で仕事をしている」、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が分担している」を合わせた《男性は仕事、女性は家庭》が46.1%となっている。また、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」は23.7%となっている。

性別にみると、《男性は仕事、女性は家庭》は女性（50.1%）が男性（40.9%）より9.2ポイント高くなっている。



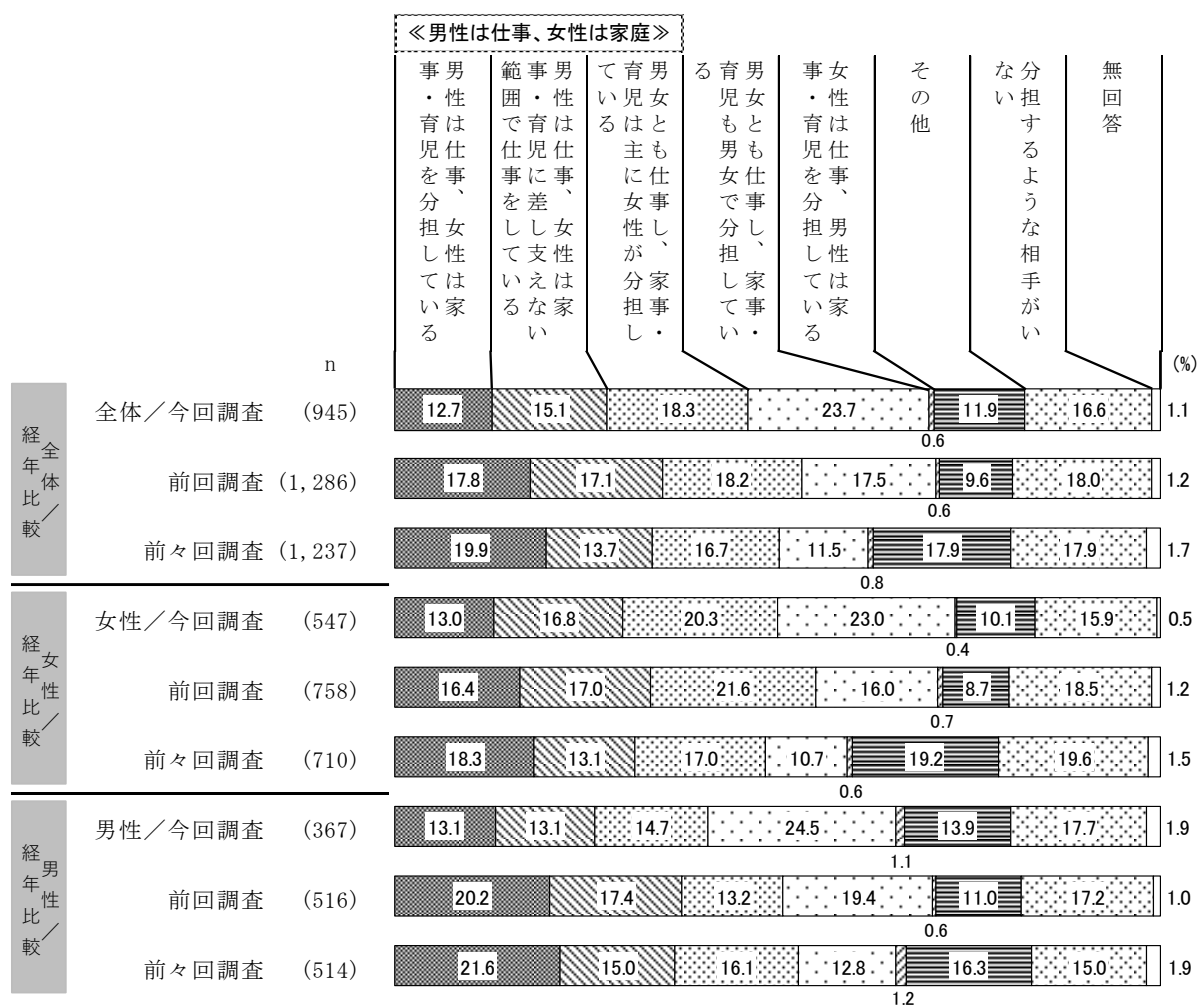
■主な「その他」の回答

<b>現在、無職（35件）</b>
・男性が定年退職し、家事を男女で分担している。
・夫婦とも高齢で仕事はしていない。家事はお互いに分担している。
・息子2人が独立し、リタイアした現在、妻は家事を、夫はそれ以外を分担。
・共に無職。家事分担は夫1対妻2。
・定年前は妻が専業主婦でしたが、以後は完全分担。
・男女ともに仕事をしていない。家事は分担しているが、どちらかといえば女性の方が多い。
<b>特に役割分担は決まっていない（8件）</b>
・仕事はしていない。お互い病気のため、できることをやっている。
・それぞれできる事をしている。
・男女ともに仕事をし、家事は子ども達・男・女で助け合っている。
・男性が仕事、家事・育児は男女問わず実施

■経年比較

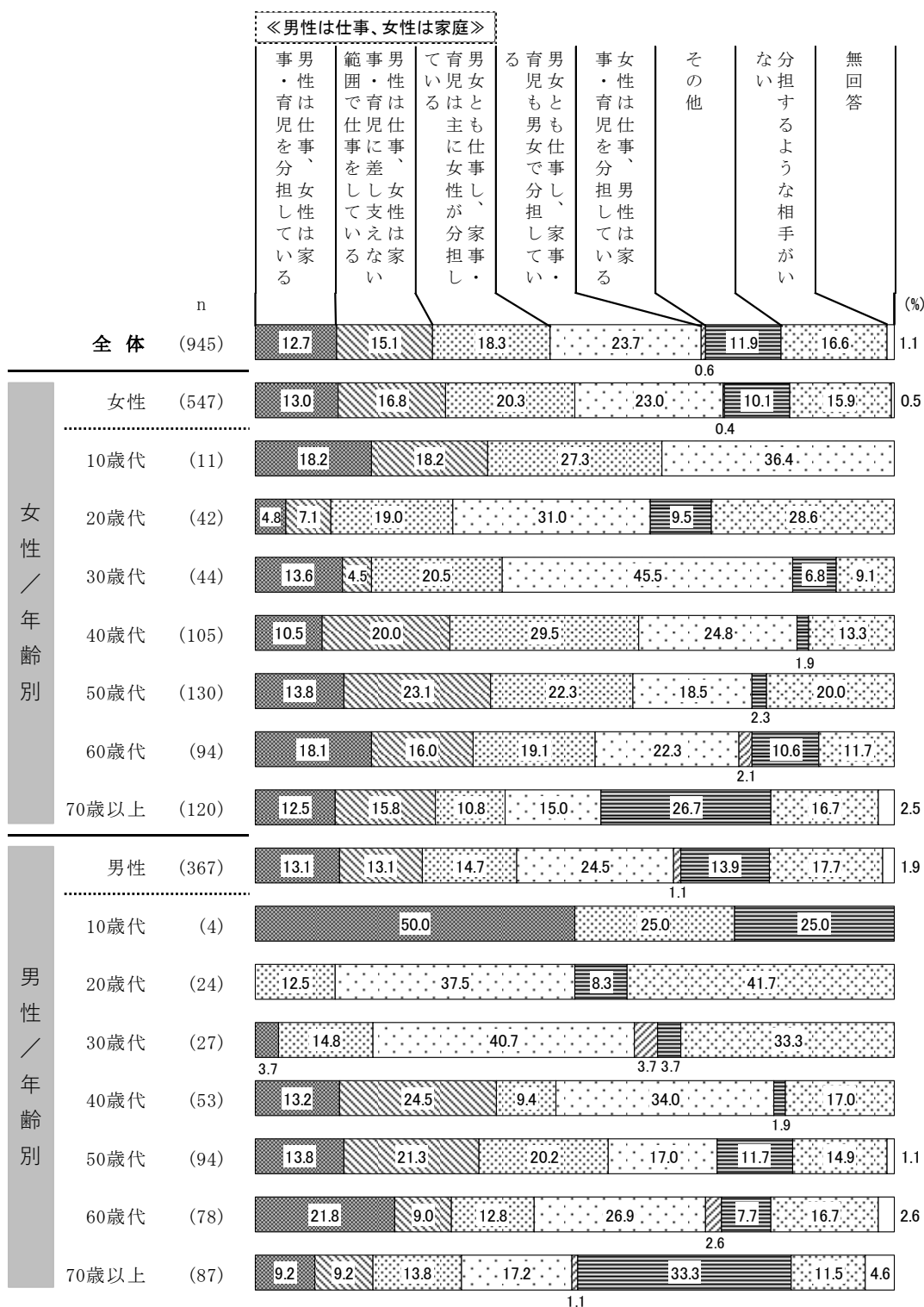
経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が増加していることがうかがえる。前回調査と比較すると、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が6.2ポイント増加している。また、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」は5.1ポイント減少している。

性別にみると、男女ともに「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が増加している。



■性年齢別

性年齢別にみると、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が女性の20歳代、30歳代、男性の20歳代、30歳代、40歳代で3割以上と、他の年代より高くなっている。女性では、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」が30歳代で約4割半ば、40歳代で2割半ば、50歳代、60歳代で約2割、70歳以上で1割半ばと、年代が上がるほど低くなる傾向がうかがえる。《男性は仕事、女性は家庭》が女性の40歳代、50歳代、60歳代、男性の50歳代で5割以上と、他の年代より高くなっている。



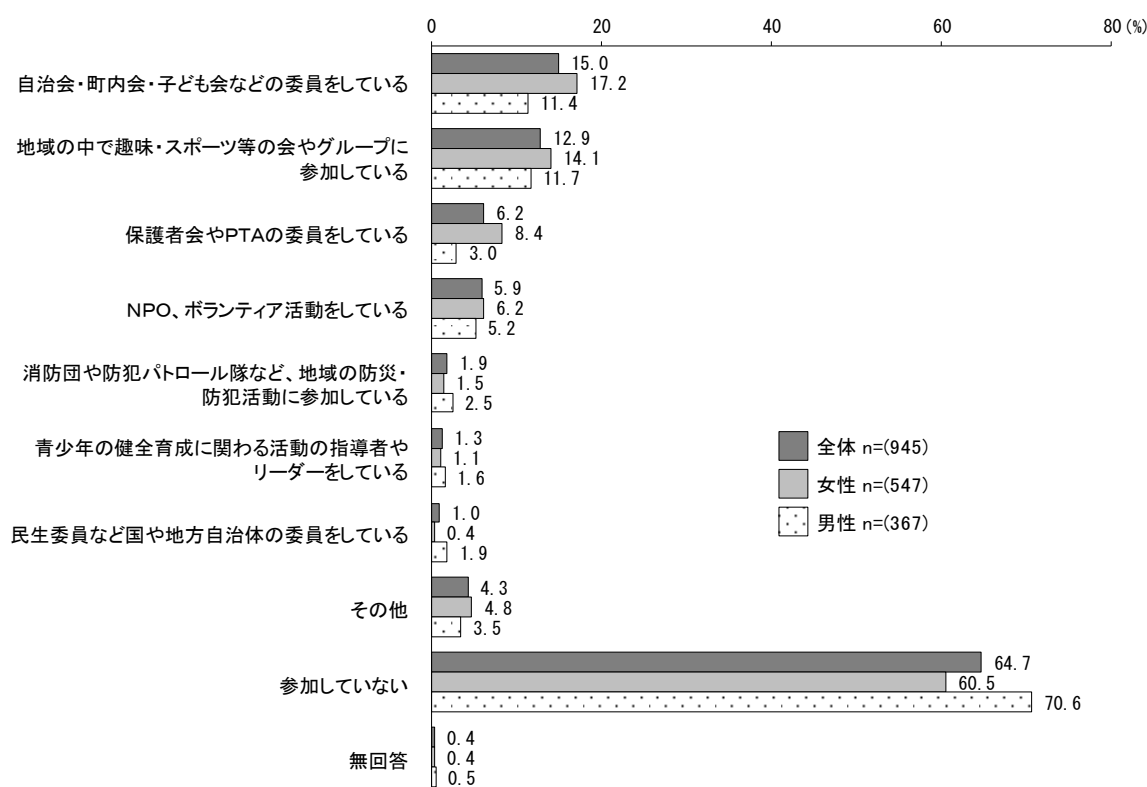
### 3. ワーク・ライフ・バランスについて

#### (1) 地域活動や社会活動への参加状況

問3 地域活動や社会活動などに参加していますか。(〇はいくつでも)

地域活動や社会活動への参加状況についてみると、「参加していない」が64.7%を占めている。参加している活動については、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」(15.0%)が最も高く、次いで、「地域の中で趣味・スポーツ等の会やグループに参加している」(12.9%)、「保護者会やPTAの委員をしている」(6.2%)となっている。

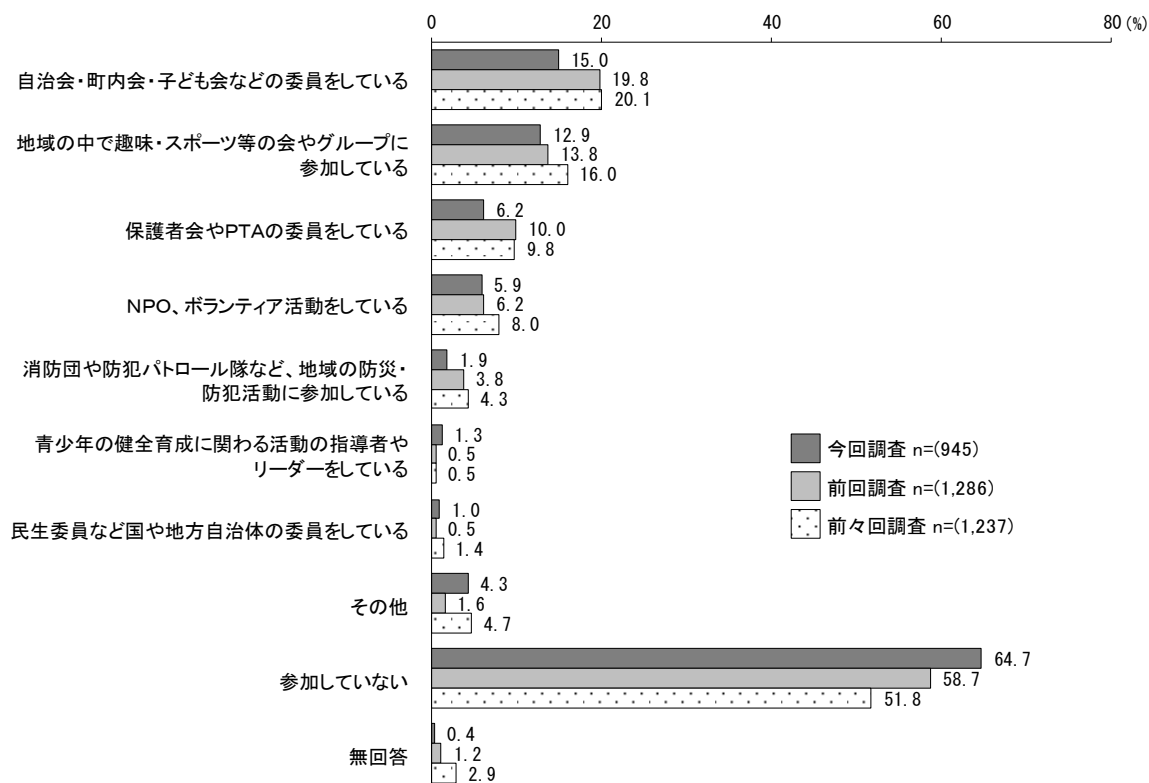
性別にみると、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」は女性(17.2%)が男性(11.4%)より5.8ポイント高くなっている。一方、「参加していない」は男性(70.6%)が女性(60.5%)より10.1ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」、「地域の中で趣味・スポーツ等のグループに参加している」、「NPO、ボランティア活動をしている」、「消防団や防犯パトロール隊など、地域の防災・防犯活動に参加している」が減少している。

前回調査と比較すると、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」が4.8ポイント、「保護者会やPTAの委員をしている」が3.8ポイント減少している。また、「参加していない」は6.0ポイント増加している。



## ■性年齢別

性年齢別にみると、すべての年代で「参加していない」が最も高く、特に女性の20歳代、30歳代、男性の20歳代、30歳代、40歳代で8割以上となっている。参加している活動については、「保護者会やPTAの委員をしている」が女性40歳代で2割以上となっているが、男性ではすべての年代で1割未満となっている。「地域の中で趣味・スポーツ等の会やグループに参加している」は、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなっている。また、「自治会・町内会・子ども会などの委員をしている」は、女性の50歳以上で約2割以上、男性の70歳以上で約2割弱となっている。

	調査数	子ども会・町内会・自治会などの委員をしている	民生委員などや地方自治体の委員をしている	保護者会やPTAの委員をしている	青少年の健全育成に関わる活動の指導者やリーダーをしている	NPO、ボランティア活動をしている	消防団や防犯活動に参加している	地域の会やグループに参加している	その他	参加していない	無回答	
女性	10歳代	11	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	20歳代	42	4.8	-	-	-	2.4	2.4	2.4	90.5	-	
	30歳代	44	6.8	2.3	-	-	2.3	-	4.5	86.4	-	
	40歳代	105	12.4	-	21.9	-	2.9	-	6.7	4.8	61.9	-
	50歳代	130	21.5	0.8	10.8	1.5	3.8	1.5	11.5	3.1	60.0	-
	60歳代	94	23.4	-	5.3	2.1	13.8	2.1	18.1	2.1	54.3	-
	70歳以上	120	21.7	-	3.3	1.7	10.0	2.5	29.2	11.7	40.8	1.7
男性	10歳代	4	50.0	-	-	-	-	-	-	75.0	-	
	20歳代	24	4.2	-	-	-	4.2	-	8.3	-	87.5	-
	30歳代	27	3.7	-	3.7	-	-	-	3.7	3.7	85.2	-
	40歳代	53	5.7	-	7.5	1.9	-	-	3.8	1.9	81.1	-
	50歳代	94	11.7	1.1	4.3	3.2	4.3	4.3	8.5	3.2	72.3	-
	60歳代	78	9.0	2.6	1.3	-	10.3	1.3	12.8	2.6	69.2	-
	70歳以上	87	19.5	4.6	1.1	2.3	6.9	4.6	23.0	6.9	54.0	2.3

1番目に高い

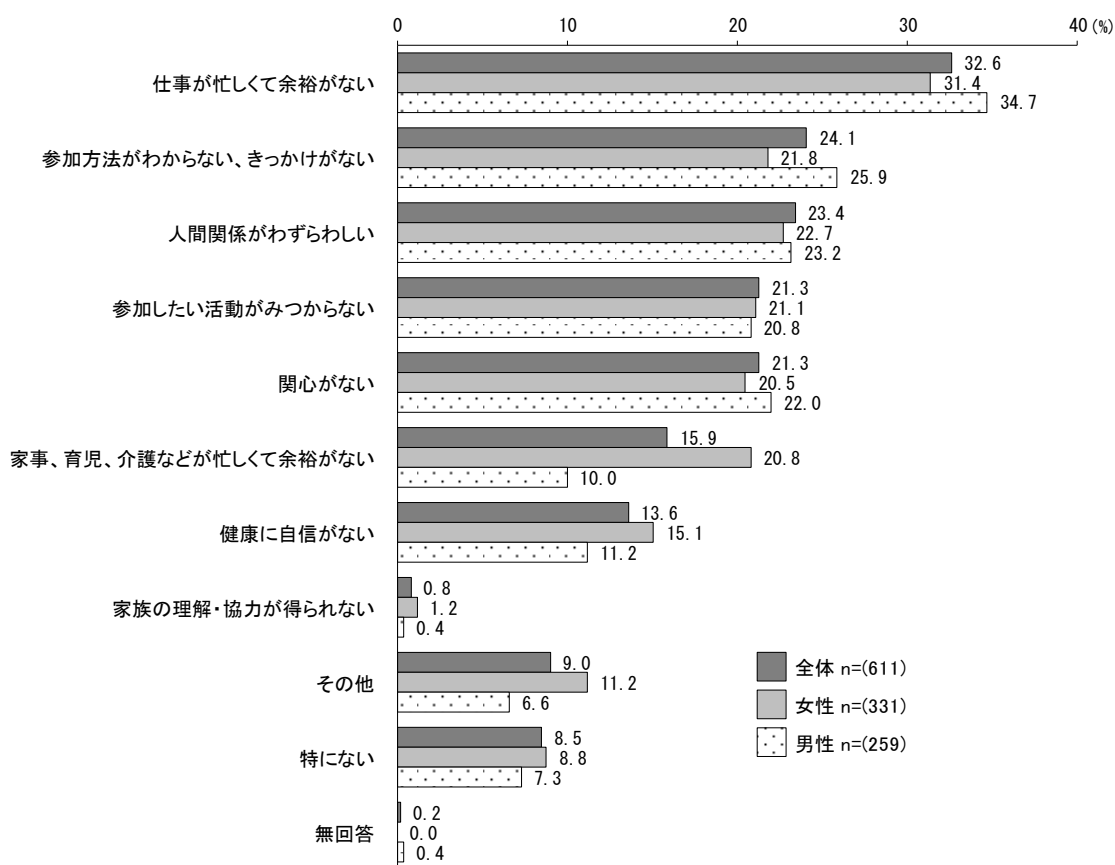
2番目に高い

(2) 参加していない理由

問3で「9. 参加していない」とお答えの方に)  
 問3-1 地域活動や社会活動に参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

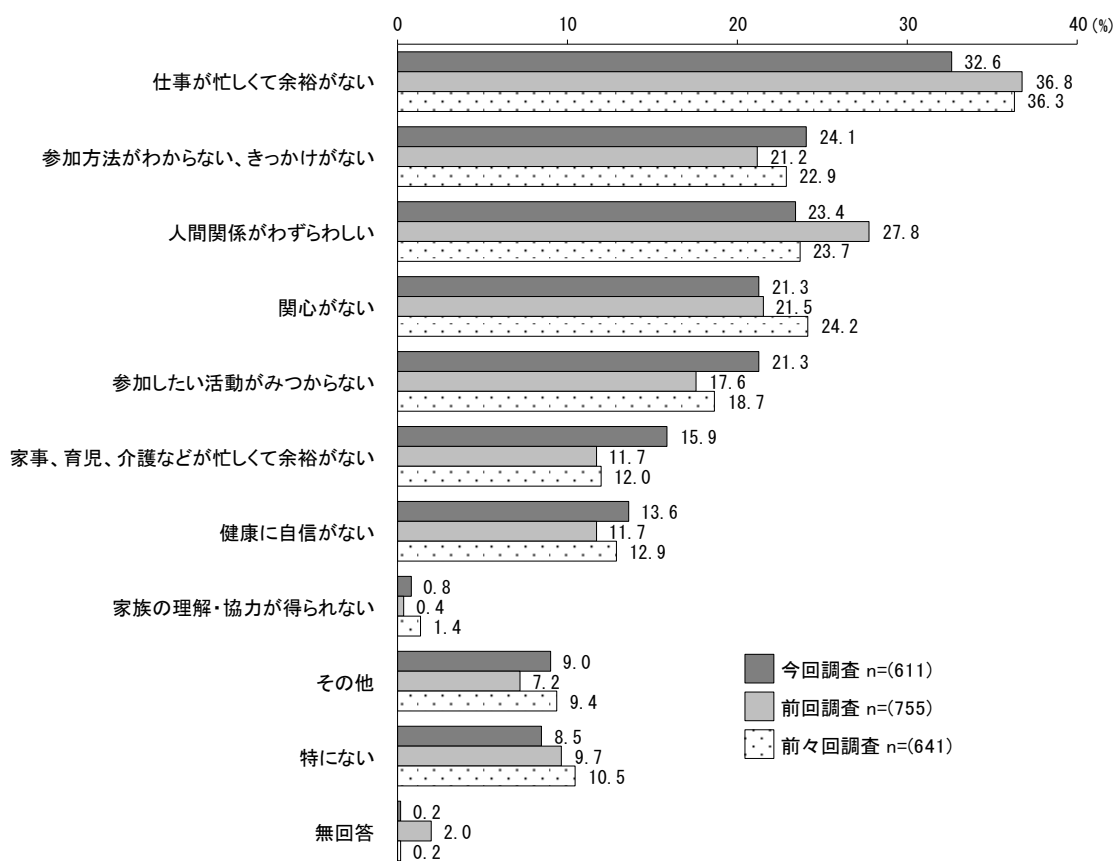
参加していない理由についてみると、「仕事が忙しくて余裕がない」が32.6%で最も高く、次いで、「参加方法がわからない、きっかけがない」(24.1%)、「人間関係がわずらわしい」(23.4%)、「参加したい活動が見つからない」、「関心がない」(21.3%)となっている。

性別にみると、男女ともに「仕事が忙しくて余裕がない」が最も高くなっており、男性(34.7%)が女性(31.4%)より3.3ポイント高くなっている。一方で、「家事、育児、介護などが忙しくて余裕がない」は女性(20.8%)が男性(10.0%)より10.8ポイント高くなっている。



■経年比較

前々回調査から今回調査にかけて「仕事が忙しくて余裕がない」(32.6%)が最も高くなっている。前回調査と比較すると、「家事、育児、介護などが忙しくて余裕がない」(15.9%)が4.2ポイント、「参加したい活動が見つからない」(21.3%)が3.7ポイント、「参加方法がわからない、きっかけがない」(24.1%)が2.9ポイント増加している。また、「人間関係がわずらわしい」が4.4ポイント減少している。

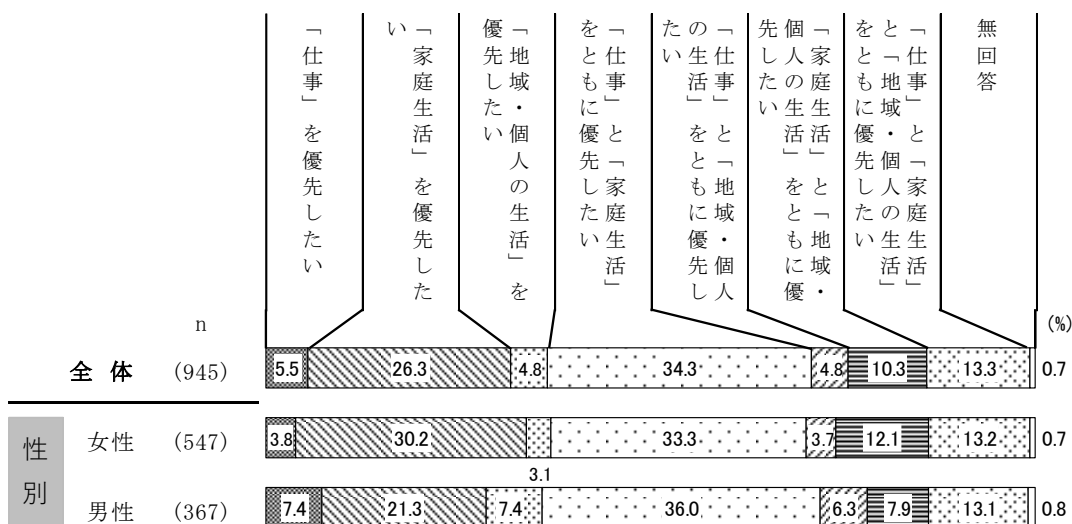


(3) 生活の中での優先度（希望）

問4 生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の希望に最も近いものを1つだけお選びください。(○は1つ)

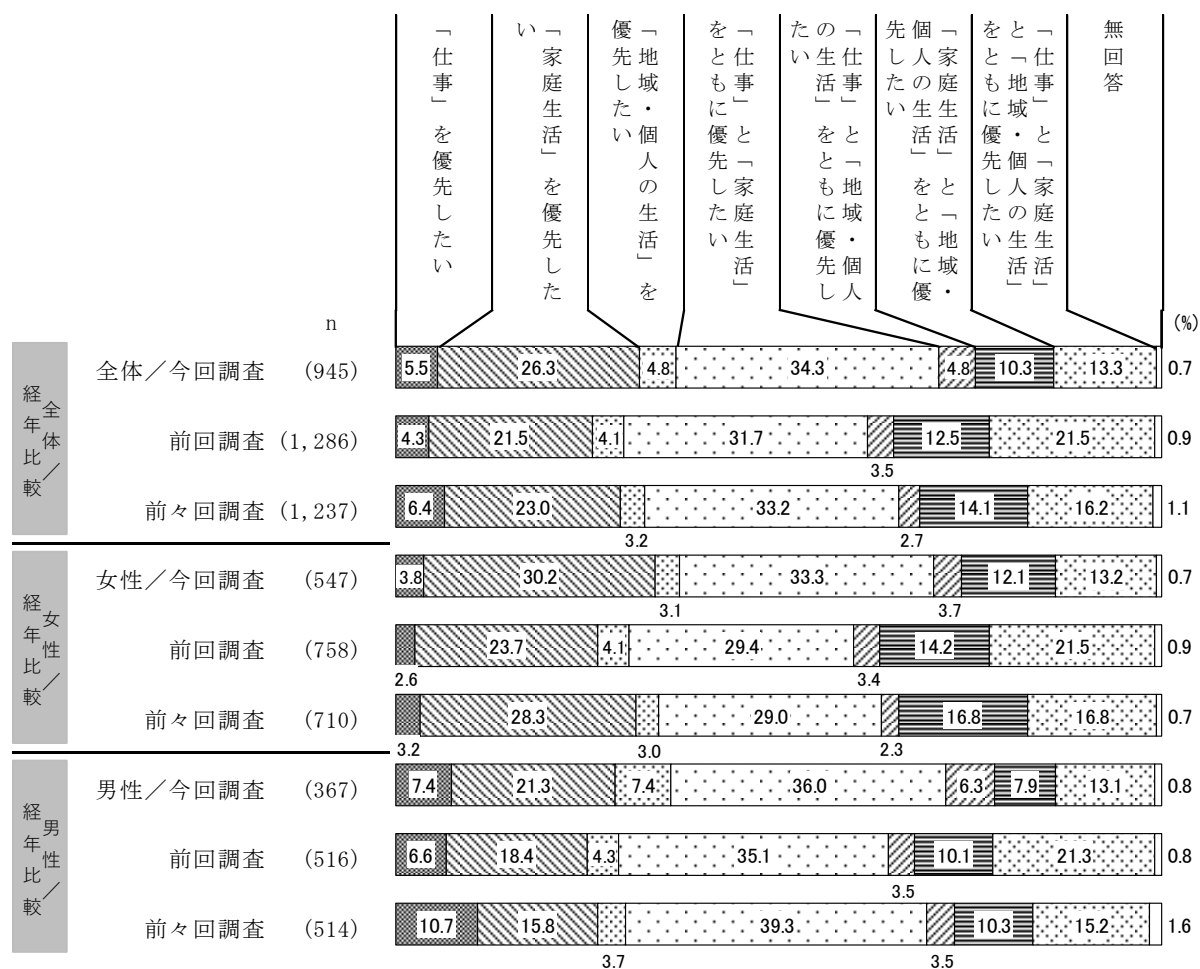
生活の中での優先度（希望）についてみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が34.3%で最も高く、次いで、「『家庭生活』を優先したい」(26.3%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(13.3%)となっている。

性別にみると、男女ともに「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」は男性(36.0%)が女性(33.3%)より2.7ポイント高くなっている。一方で、「『家庭生活』を優先したい」は女性(30.2%)が男性(21.3%)より8.9ポイント高くなっている。



■経年比較

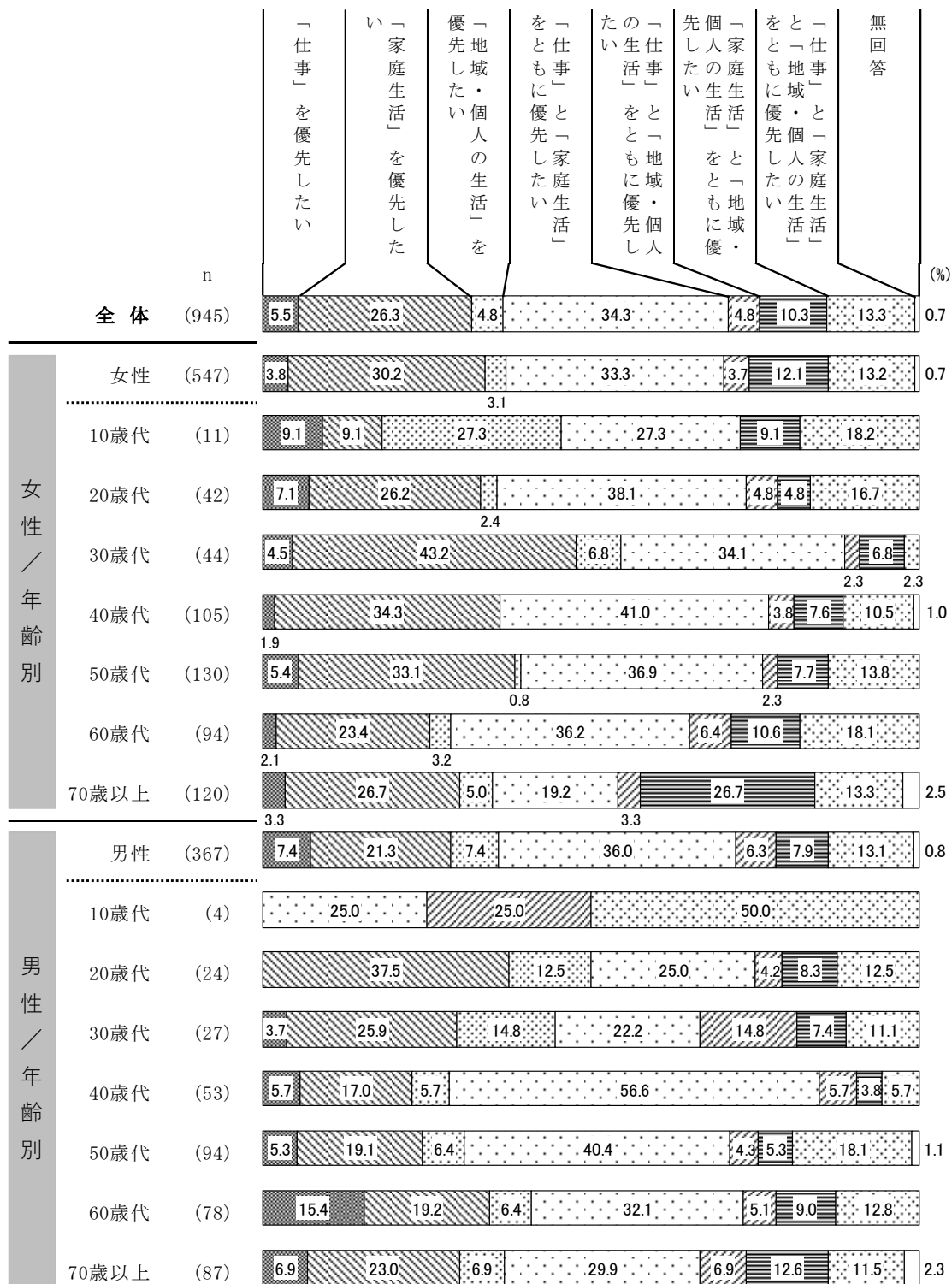
経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、女性の『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい、男性の『家庭生活』を優先したいが増加している。前回調査と比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいでは、女性が8.3ポイント、男性が8.2ポイント減少している。



■性年齢別

性年齢別にみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが男性の40歳代で5割半ば、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが女性の70歳以上で2割半ばと、他の年代よりも高くなっている。

女性は30歳代、70歳以上を除くすべての年代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが最も高くなっており、30歳代で『家庭生活』を優先したいが4割以上と最も高くなっている。

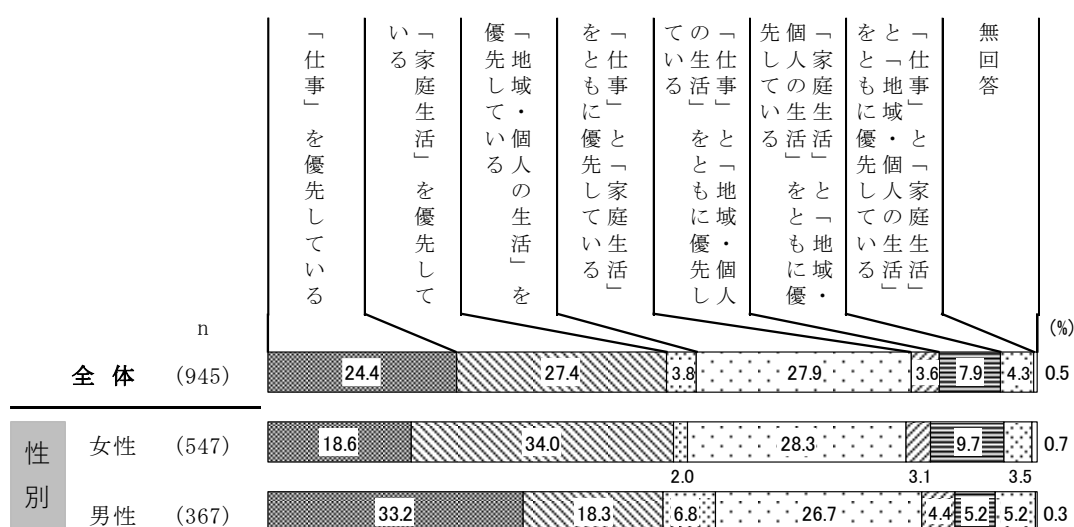


(4) 生活の中での優先度（現実）

問5 生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現実（現状）に最も近いものを1つだけお選びください。（○は1つ）

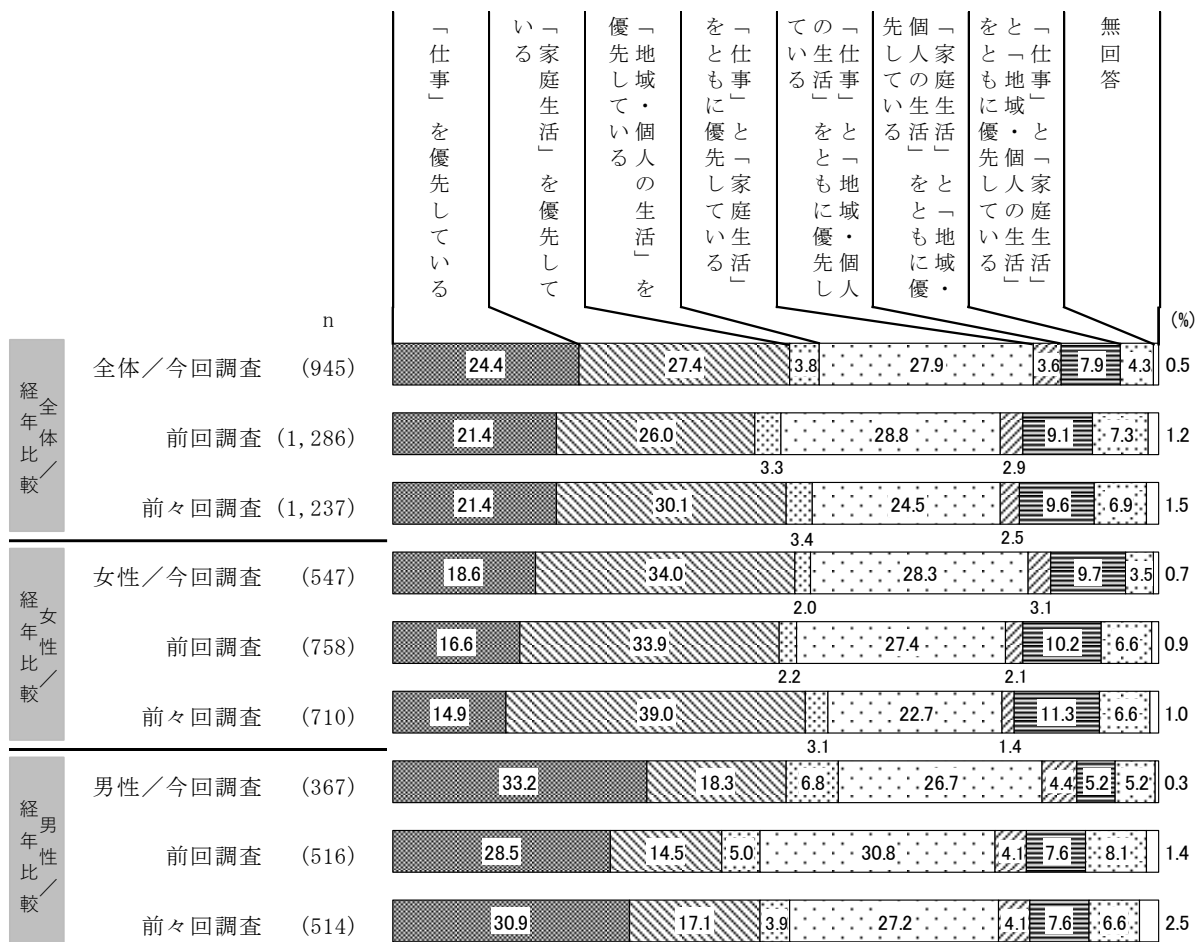
生活の中での優先度（現実）についてみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が27.9%で最も高く、次いで、「『家庭生活』を優先している」（27.4%）、「『仕事』を優先している」（24.4%）となっている。

性別にみると、女性で「『家庭生活』を優先している」が34.0%と最も高く、男性（18.3%）より15.7ポイント高くなっている。一方、男性で「『仕事』を優先している」が33.2%と最も高く、女性（18.6%）より14.6ポイント高くなっている。



■経年比較

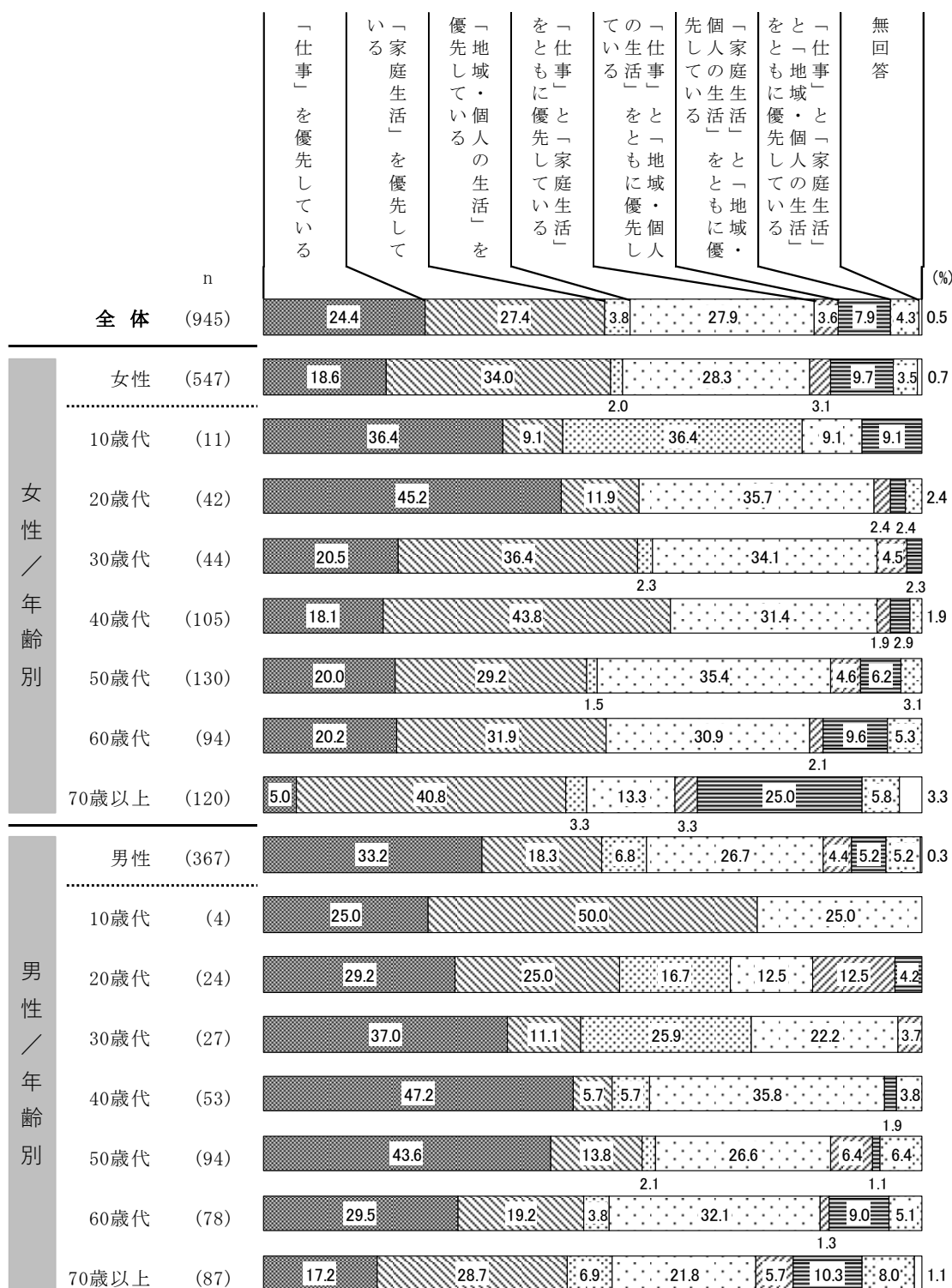
経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、女性の「『仕事』を優先している」、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が増加している。前回調査と比較すると、「『仕事』を優先している」では、女性が2.0ポイント、男性が4.7ポイント増加している。一方、男性の「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が4.1ポイント減少している。



■性年齢別

性年齢別にみると、『仕事』を優先している」は女性の20歳代、男性の30歳代～50歳代で4割前後と、他の年代より高くなっている。また、女性は20歳代、50歳代を除くすべての年代で『家庭生活』を優先している」が最も高くなっているが、20歳代～60歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が3割以上と高くなっている。

男性は『仕事』を優先している」が60歳代、70歳以上を除くすべての年代で最も高くなっているが、40歳代、60歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が3割以上と高くなっている。



■現状の生活優先度（問5）ごとにみる、希望の生活優先度（問4）

希望の生活優先度を、現状の生活優先度別にみると、現状で「『家庭生活』を優先している」、「『地域・個人の生活』を優先している」、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」では、現状と希望の生活優先度が一致している人は半数を超えているものの、現状で「『仕事』を優先している」と回答した人の希望の生活優先度は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が約4割となっている。

		調査数	希望の生活優先度（問4）							無回答
			「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	優先したい「地域・個人の生活」を	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	優先したい「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	
現状の生活優先度（問5）	「仕事」を優先している	231	15.6	18.2	3.5	41.1	6.9	3.0	11.7	-
	「家庭生活」を優先している	259	1.5	54.8	1.9	22.0	0.8	10.0	8.1	0.8
	「地域・個人の生活」を優先している	36	-	5.6	50.0	2.8	11.1	16.7	13.9	-
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	264	4.2	20.8	0.4	60.6	0.8	3.0	10.2	-
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	34	-	2.9	11.8	8.8	41.2	8.8	23.5	2.9
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	75	-	8.0	12.0	2.7	4.0	60.0	13.3	-
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	41	2.4	2.4	-	14.6	9.8	4.9	65.9	-

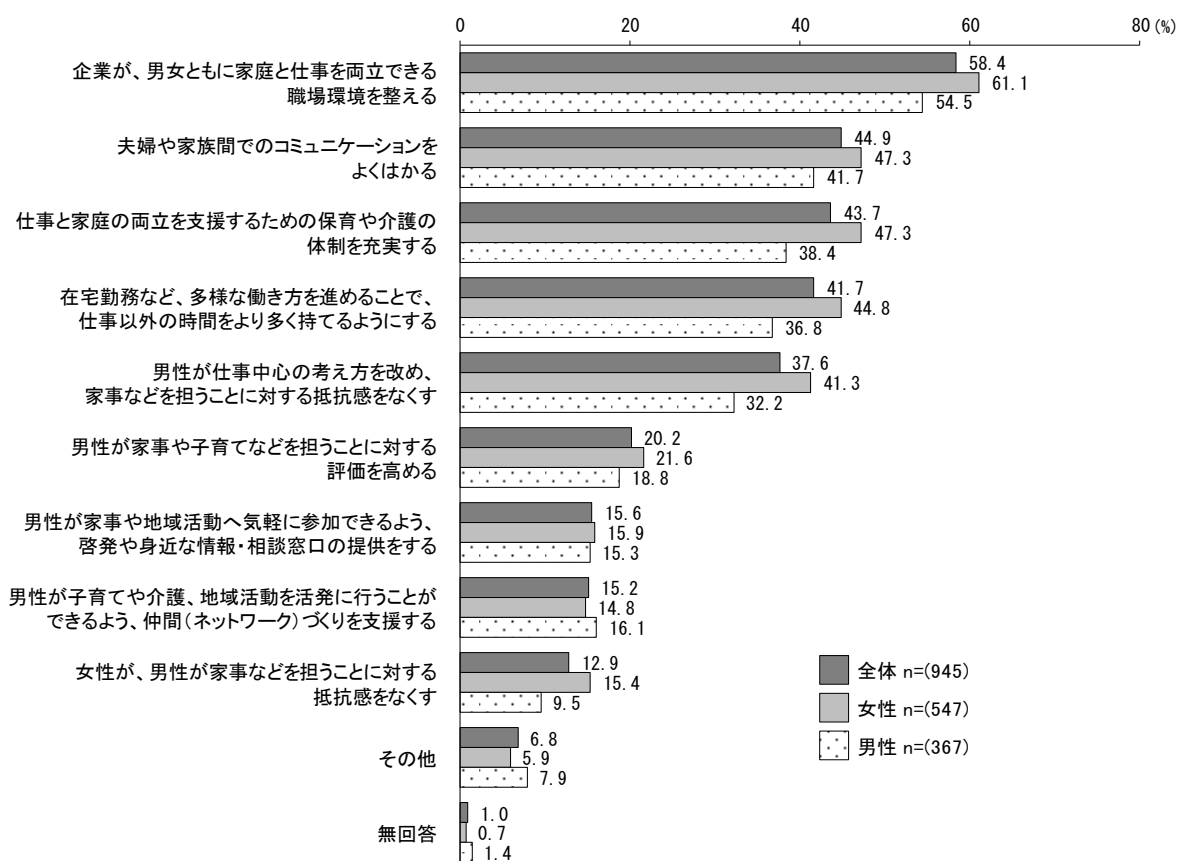
現状と希望の優先度が一致

(5) 男女が家事等を積極的に担うために必要なこと

問6 男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動を積極的に担うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

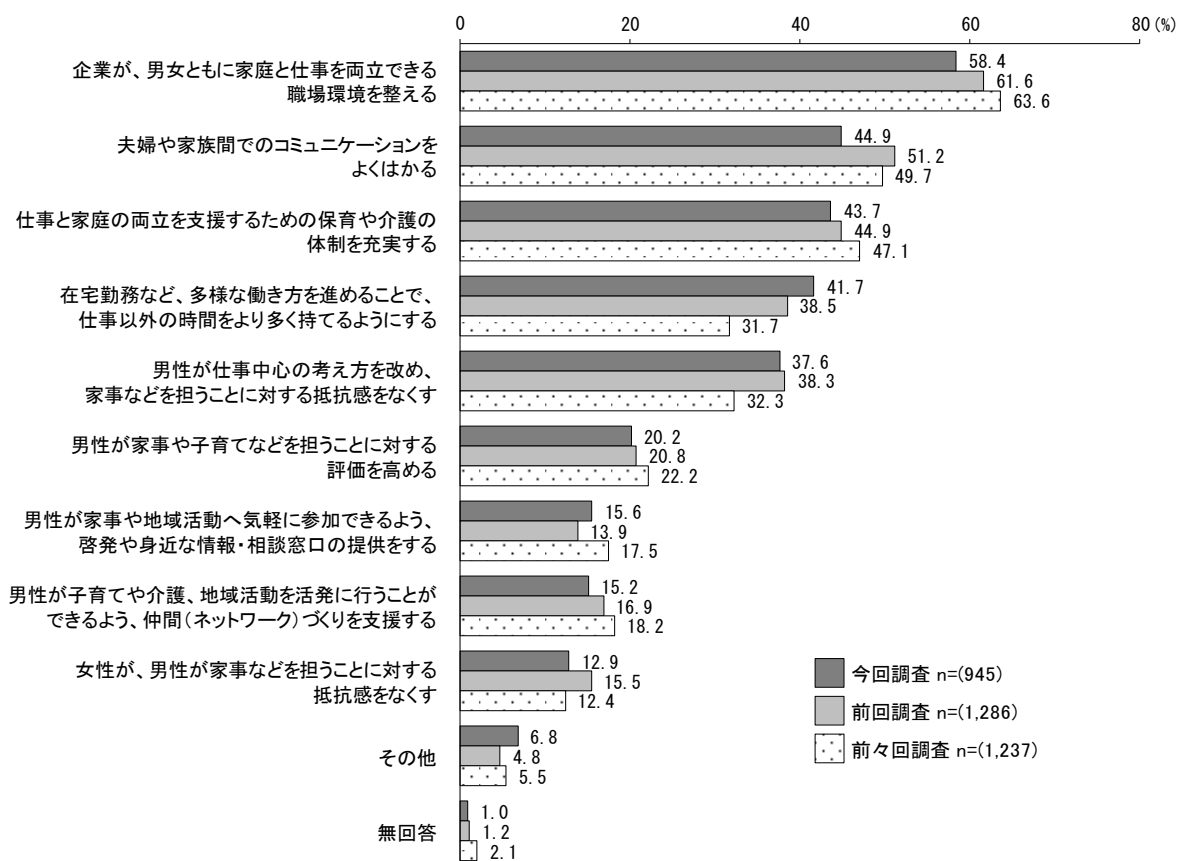
男女が家事等を積極的に担うために必要なことについてみると、「企業が、男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整える」が58.4%で最も高く、次いで、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(44.9%)、「仕事と家庭の両立を支援するための保育や介護の体制を充実する」(43.7%)となっている。

性別にみると、「男性が仕事中心の考え方を改め、家事などを担うことに対する抵抗感をなくす」は女性(41.3%)が男性(32.2%)より9.1ポイント、「仕事と家庭の両立を支援するための保育や介護の体制を充実する」は女性(47.3%)が男性(38.4%)より8.9ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、「在宅勤務など、多様な働き方を進めることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が増加している。前回調査と比較すると、「在宅勤務など、多様な働き方を進めることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が3.2ポイント、「男性が家事や地域活動へ気軽に参加できるよう、啓発や身近な情報・相談窓口の提供をする」が1.7ポイント増加している。



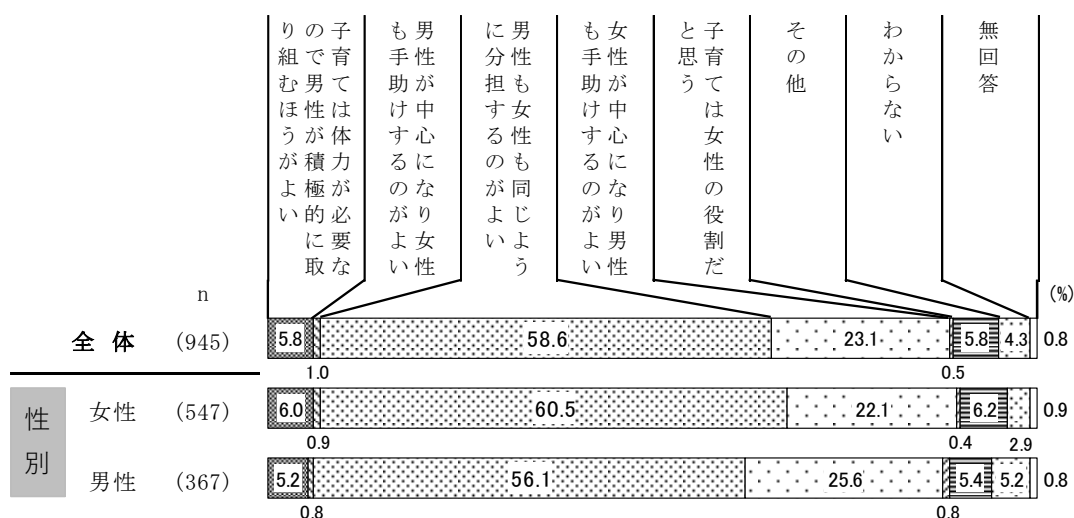
## 4. 子育て・介護について

### (1) 子育ての役割

問7 子育ての役割についてどう思いますか。(〇は1つ)

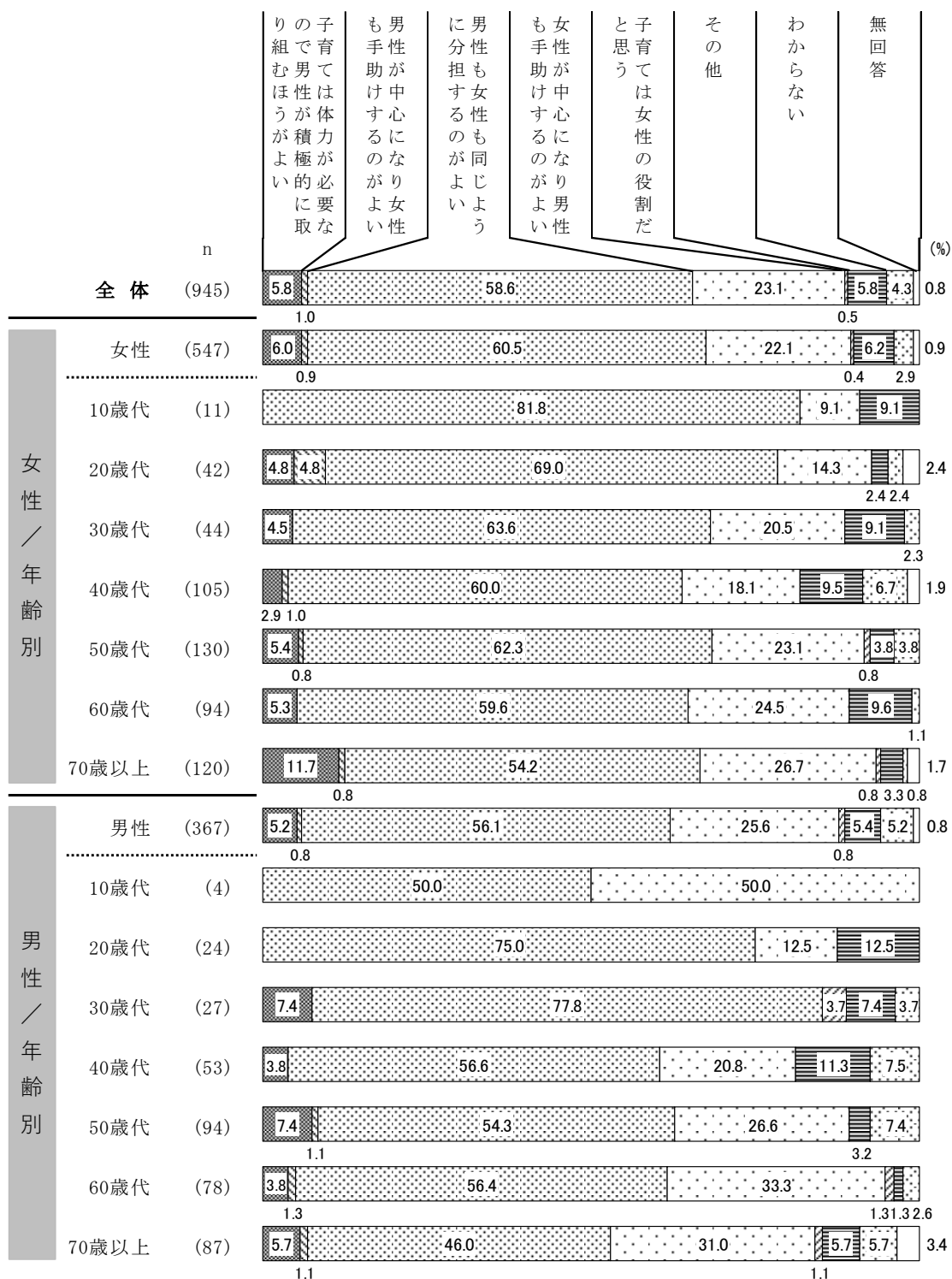
子育ての役割についてみると、「男性も女性も同じように分担するのがよい」が58.6%で最も高く、次いで、「女性が中心になり男性も手助けするのがよい」(23.1%)、「子育ては体力が必要なので男性が積極的に取り組むほうがよい」(5.8%)となっている。

性別にみると、男女ともに「男性も女性も同じように分担するのがよい」が最も高くなっており、女性(60.5%)が男性(56.1%)より4.5ポイント高くなっている。一方で、「女性が中心になり男性も手助けするのがよい」は男性(25.6%)が女性(22.1%)より3.5ポイント高くなっている。



■性年齢別

性年齢別にみると、すべての年代で「男性も女性も同じように分担するのがよい」が最も高く、特に男性の20歳代、30歳代で7割以上となっている。「子育ては女性の役割だ」と思うは、男女ともに年代が上がるほど割合が高くなる傾向があり、60歳代、70歳以上で女性が2割半ば、男性が3割以上となっている。



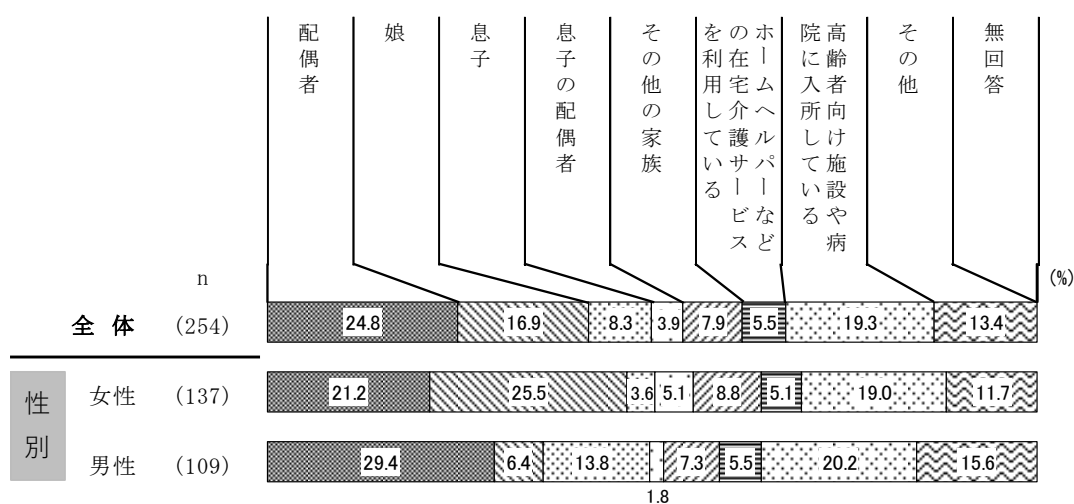
(2) 家庭内で主に介護を行っている人

(介護が必要なご家族がいる方に)

問8 あなたの家庭では、その方の介護は、主にどなたが行っていますか。(介護される方から見た続き柄をお選びください)(○は1つ)

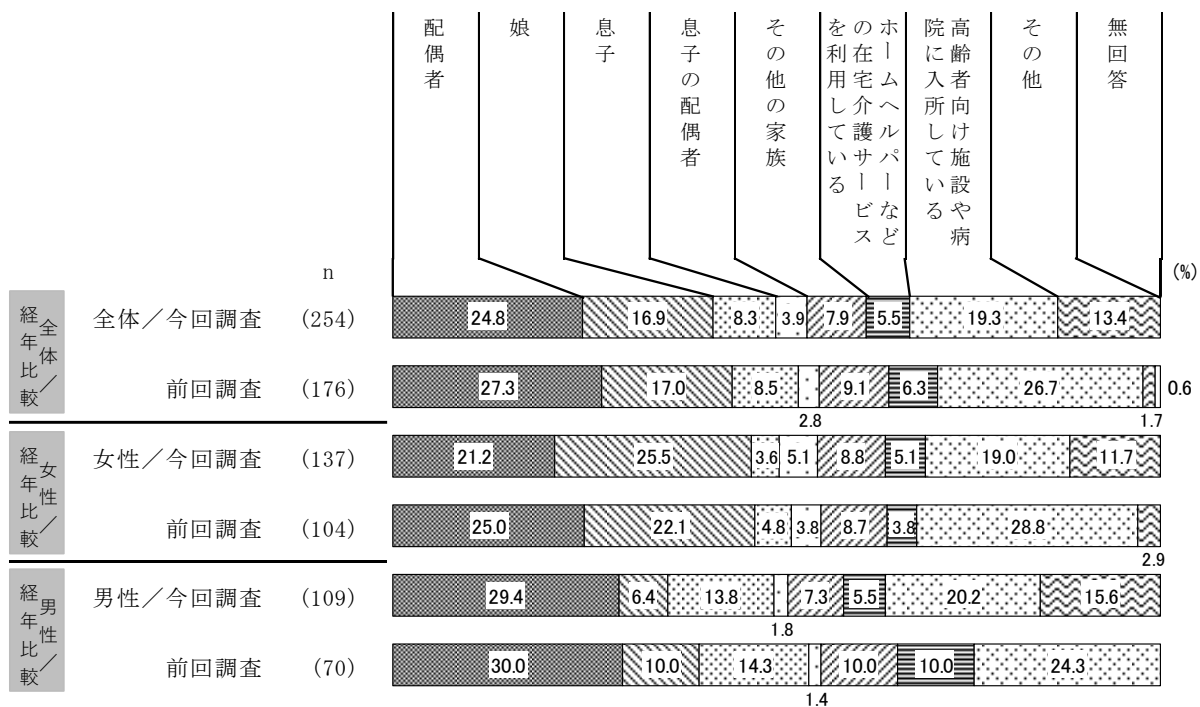
家庭内で主に介護を行っている人についてみると、「配偶者」が24.8%で最も高く、次いで、「高齢者向け施設や病院に入所している」(19.3%)、「娘」(16.9%)となっている。

性別にみると、女性では「娘」が25.5%と最も高く、次いで、「配偶者」(21.2%)となっている。男性では「配偶者」が29.4%と最も高く、次いで、「高齢者向け施設や病院に入所している」(20.2%)となっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、男女とも「高齢者向け施設や病院に入所している」が減少しており、女性が9.8ポイント、男性が4.1ポイント減少している。また、「娘」では女性が3.4ポイント増加しており、「配偶者」では男性が0.6ポイント減少しているが、約3割で大きな変化はない。

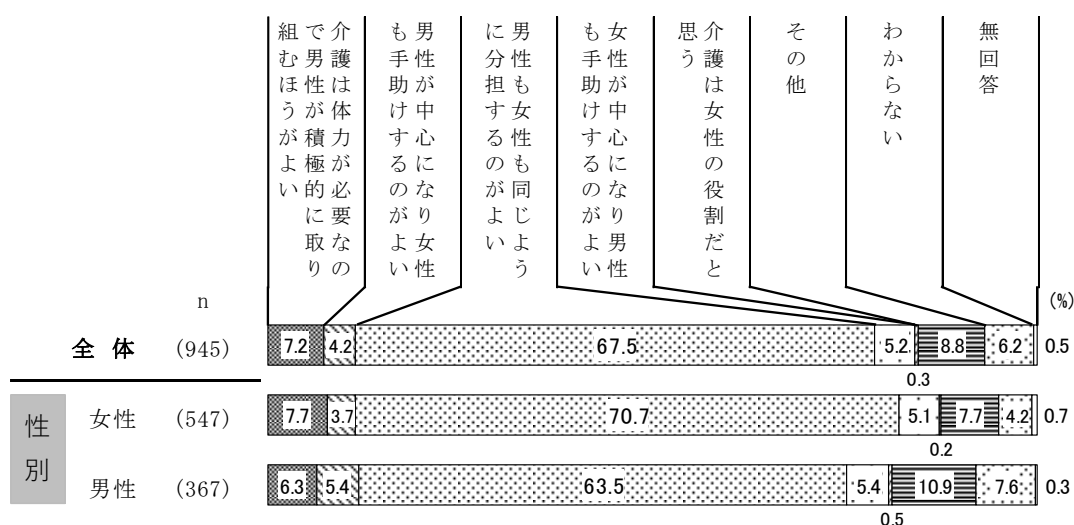


### (3) 家庭での高齢者や病人の介護の役割

問9 家庭での高齢者や病人の介護の役割についてどう思いますか。(○は1つ)

家庭での高齢者や病人の介護の役割についてみると、「男性も女性も同じように分担するのがよい」が67.5%で最も高く、次いで、「介護は体力が必要なので男性が積極的に取り組むほうがよい」(7.2%)となっている。

性別にみると、男女とも「男性も女性も同じように分担するのがよい」が最も高く、女性(70.7%)が男性(63.5%)より7.2ポイント高くなっている。

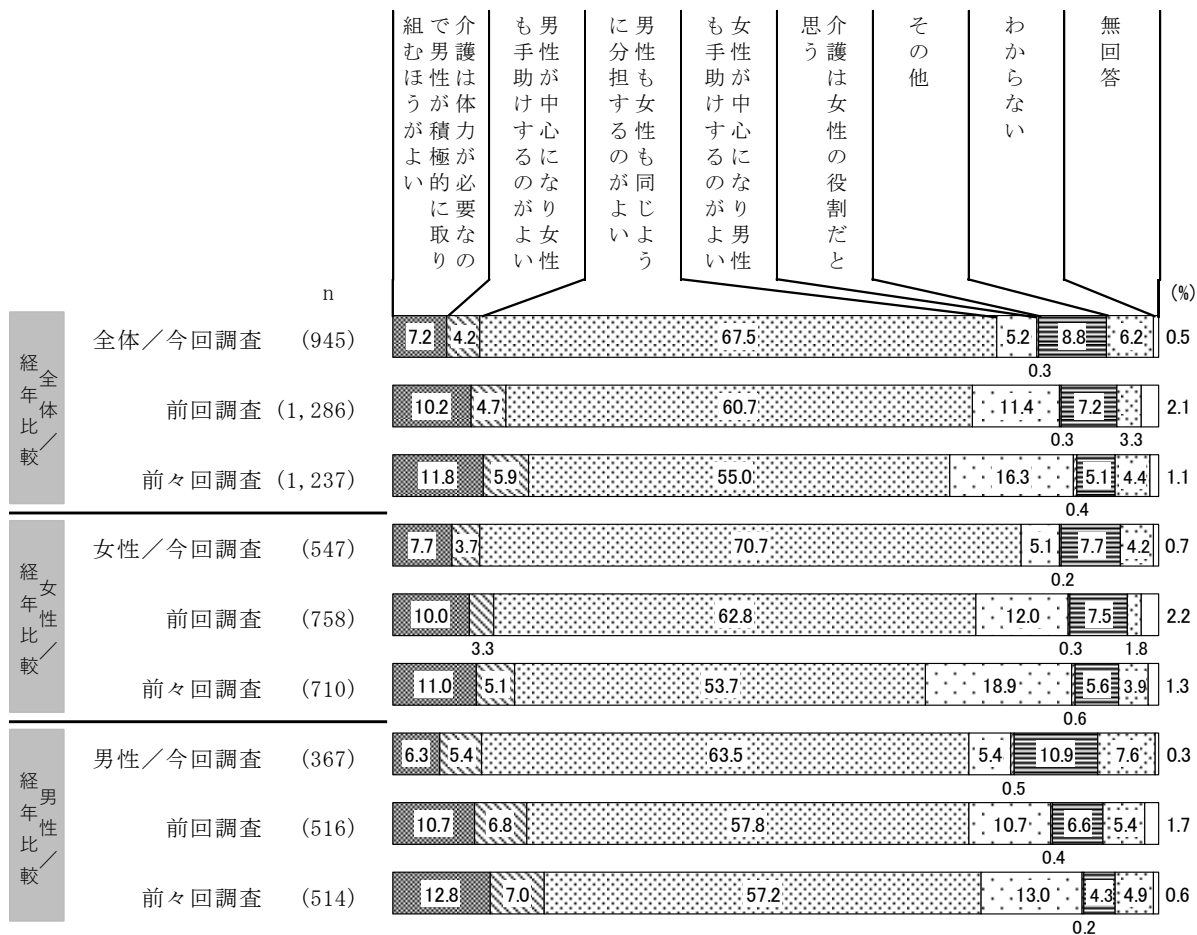


#### ■主な「その他」の回答

<b>福祉サービスによる支援、利用 (25件)</b>
・ 通常の生活に支障が出るなら、行政サービスや施設を頼る。
・ 基本的には施設等専門機関が介護を担うのがよい。
・ 介護は専門性が高い上に、家族が行うと仕事や生活に支障がでるため、専門家に任せるべき。
・ 専門職の手助けを受け入れ、家庭での負担を少なくしてほしい。
・ ホームヘルパーを気軽に依頼できるようにしてほしい
<b>男女に関わらず、適任(時間、力量)者がするのがよい (17件)</b>
・ できる人ができることを分担して行うのが一番よい。
・ 分担するが、時間、得意、不得意部分話し合いで。
・ それぞれの状況に応じて可能な者が対応するしかない。
・ 男女という括りではなくそれぞれ得意な作業を担当するのが理想。
<b>夫婦や家族で協力するのがよい (13件)</b>
・ 協力して本人・家族が行う。
・ それぞれの状況により助け合って分担するのがよい。
・ 家族で相談して、それぞれ似合う形を見つければ良いと思う。

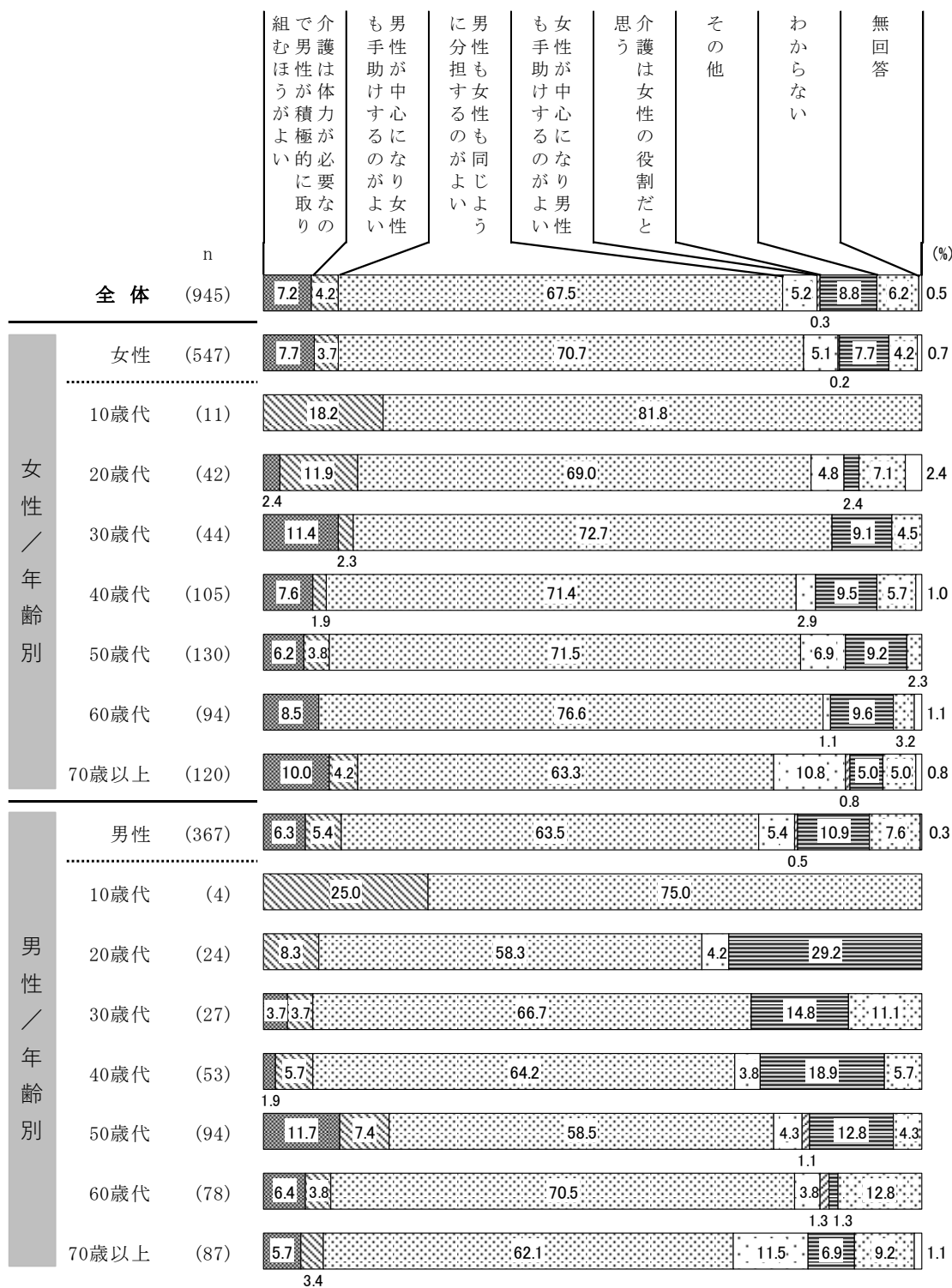
■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、「男性も女性も同じように分担するのがよい」が増加している。前回調査と比較すると、「男性も女性も同じように分担するのがよい」は、女性が6.8ポイント、男性が5.7ポイント増加している。また、「女性が中心になり男性も手助けするのがよい」は、女性が6.9ポイント、男性が5.3ポイント減少している。



■性年齢別

性年齢別にみると、「男性も女性も同じように分担するのがよい」が女性の20歳代は約7割で、30歳代～60歳代、男性の60歳代で7割以上と、他の年代より高くなっている。また、「介護は体力が必要なので男性は積極的に取り組むほうがよい」では女性の30歳代、70歳以上、男性の50歳代が1割以上となっている。



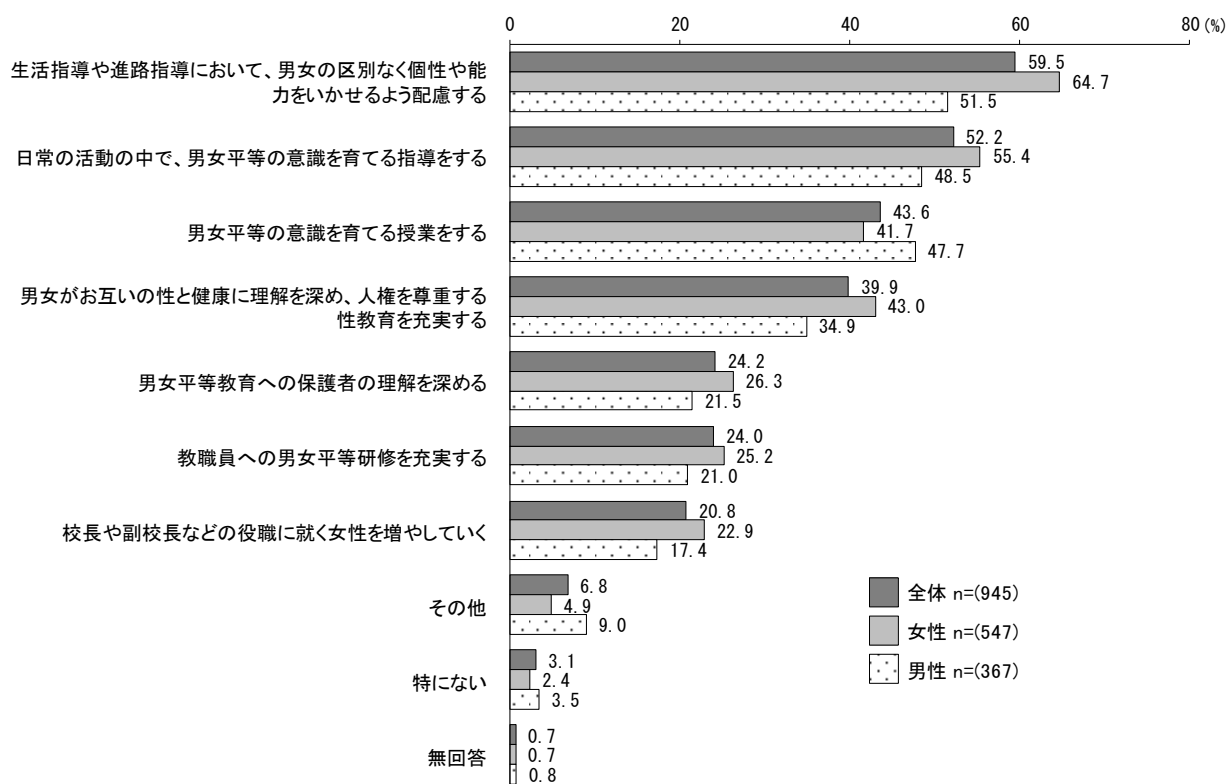
## 5. 教育について

### (1) 学校教育で特に力を入れるべきこと

問10 男女平等を推進していくために、学校教育ではどのようなことに力を入れると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

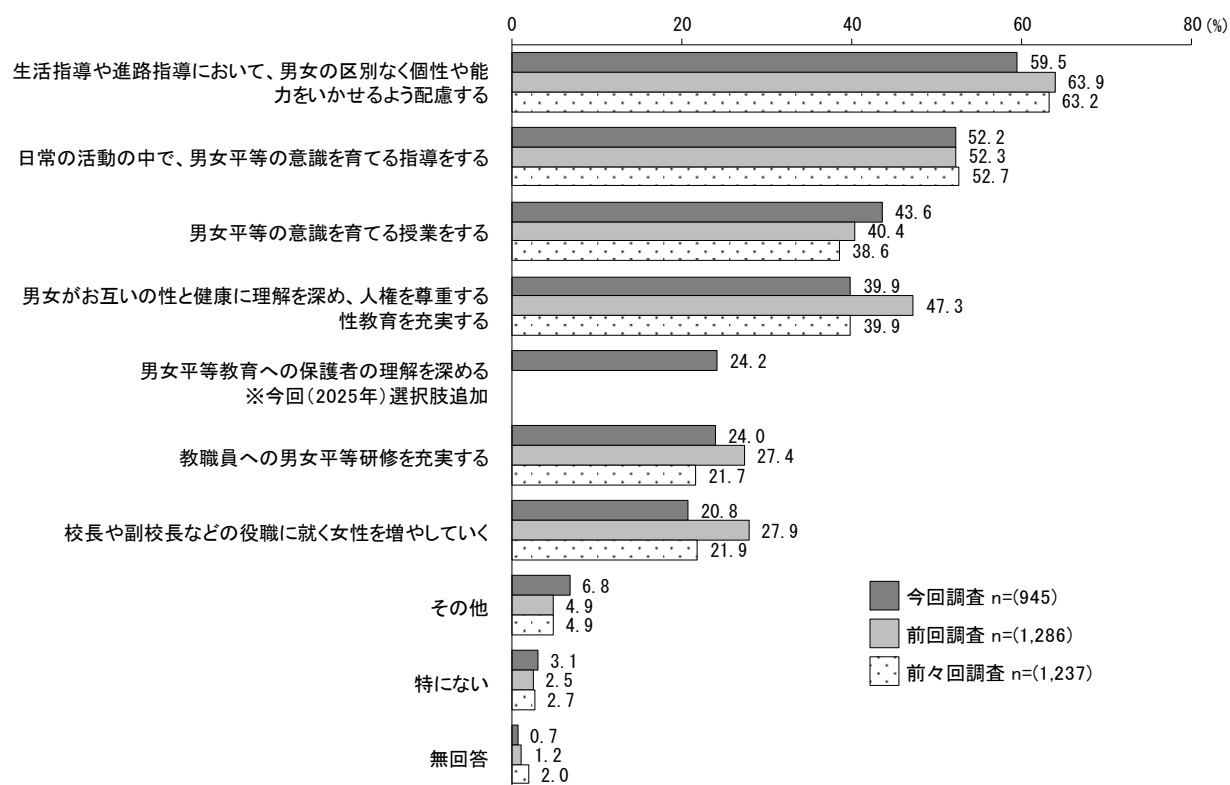
男女平等を推進していくために、学校教育で特に力を入れるべきことについてみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく個性や能力をいかせるよう配慮する」が59.5%で最も高く、次いで、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする」(52.2%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(43.6%)となっている。

性別にみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく個性や能力をいかせるよう配慮する」は女性(64.7%)が男性(51.5%)より13.2ポイント高く、「男女平等の意識を育てる授業をする」は男性(47.7%)が女性(41.7%)より6.0ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、「男女平等の意識を育てる授業をする」が増加している。前回調査と比較すると、「男女平等の意識を育てる授業をする」が3.2ポイント増加している。一方、「男女がお互いの性と健康に理解を深め、人権を尊重する性教育を充実する」が7.4ポイント、「校長や副校長などの役職に就く女性を増やしていく」が7.1ポイント減少している。



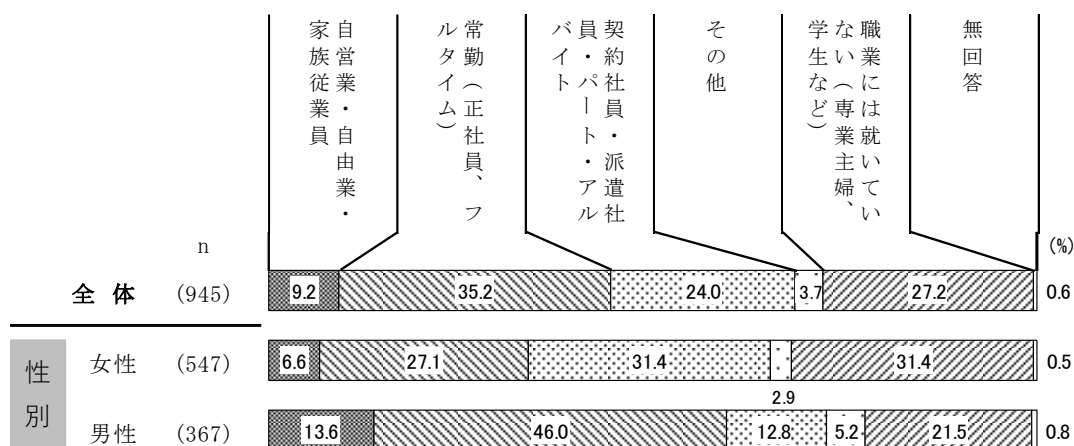
## 6. 就労について

### (1) 現在の職業

問11 あなたの職業を1つお選びください。複数あてはまる場合は、主なものを1つだけお選びください。(出産休暇や育児・介護休暇中の方も含む。)(○は1つ)

現在の職業についてみると、「常勤（正社員、フルタイム）」が35.2%で最も高く、次いで、「職業には就いていない（専業主婦、学生など）」(27.2%)、「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」(24.0%)となっている。

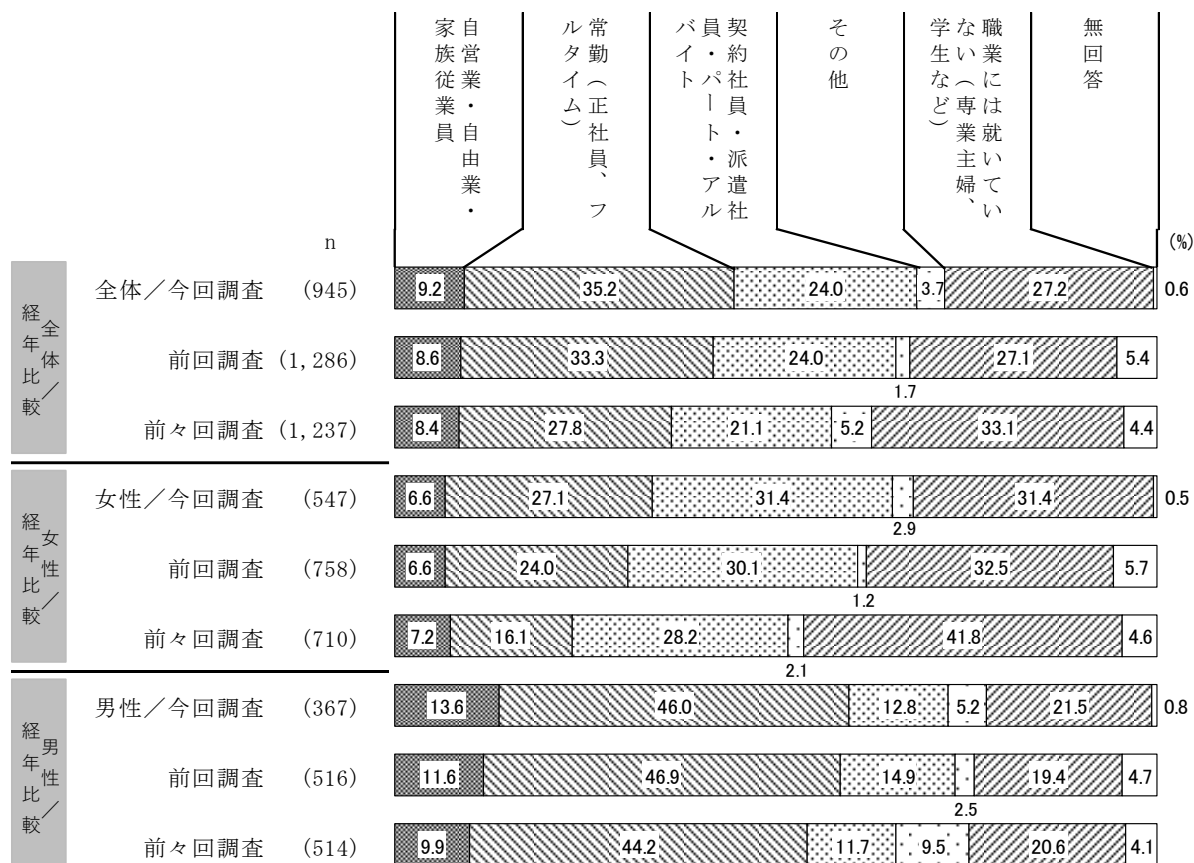
性別にみると、女性では「職業には就いていない（専業主婦、学生など）」と「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」が31.4%、男性では「常勤（正社員、フルタイム）」が46.0%と最も高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「常勤（正社員、フルタイム）」は増加しており、前々回調査から7.4ポイント、前回調査から1.9ポイント増加している。

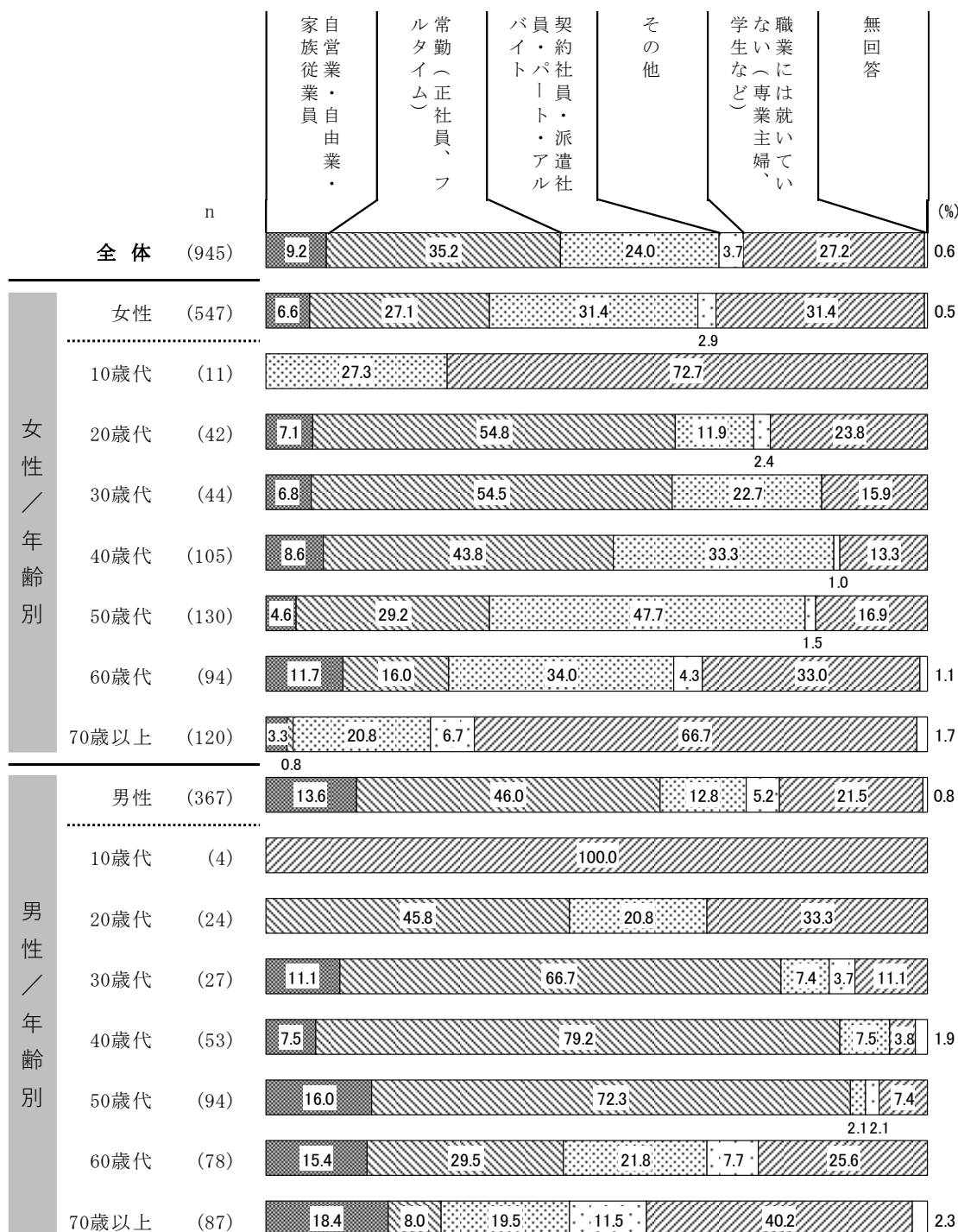
性別にみると、「常勤（正社員、フルタイム）」は女性で同じ傾向がうかがえ、前々回調査と比較すると11.0ポイント、前回調査と比較すると3.1ポイント増加している。一方、男性には大きな変化は見られない。



■性年齢別

性年齢別にみると、女性の20歳代～40歳代で「常勤（正社員、フルタイム）」、50歳代、60歳代で「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」、70歳以上で「職業にはついていない（専業主婦、学生など）」が最も高くなっている。女性の20歳代、30歳代では「常勤（正社員、フルタイム）」が5割以上、40歳代で4割以上と高くなっており、50歳代で「契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」が5割弱、「常勤（正社員、フルタイム）」も40歳代で3割以上、50歳代で5割弱と次いで高くなっている。

男性では、20歳代～60歳代までで「常勤（正社員、フルタイム）」が最も高く、特に40歳代で約8割、50歳代で7割以上となっている。70歳以上では「職業にはついていない（専業主婦、学生など）」が最も高くなっている。

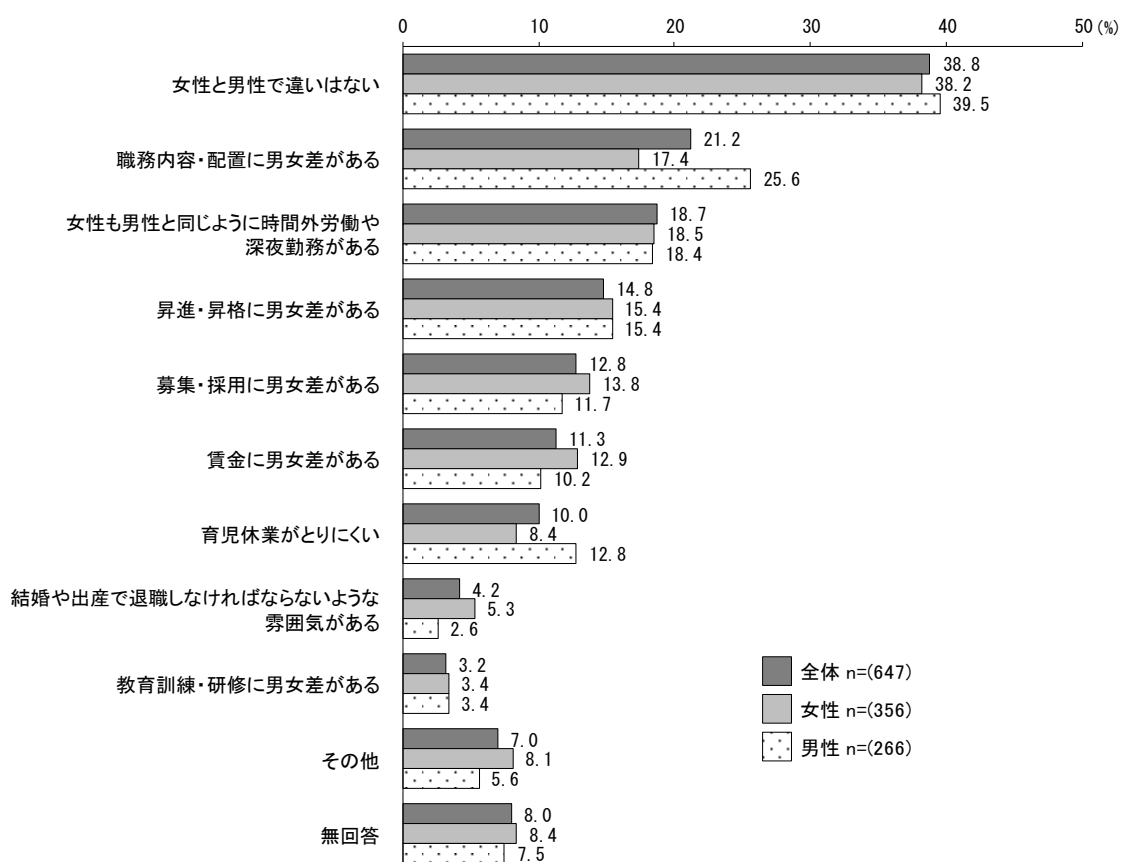


(2) 職場での男女差

(問11で「1. 自営業・自由業・家族従業員」「2. 常勤(正社員、フルタイム)」「3. 契約社員・派遣社員・パート・アルバイト」とお答えの方に)  
 問11-1 あなたの職場では、次のようなことがありますか。(〇はいくつでも)

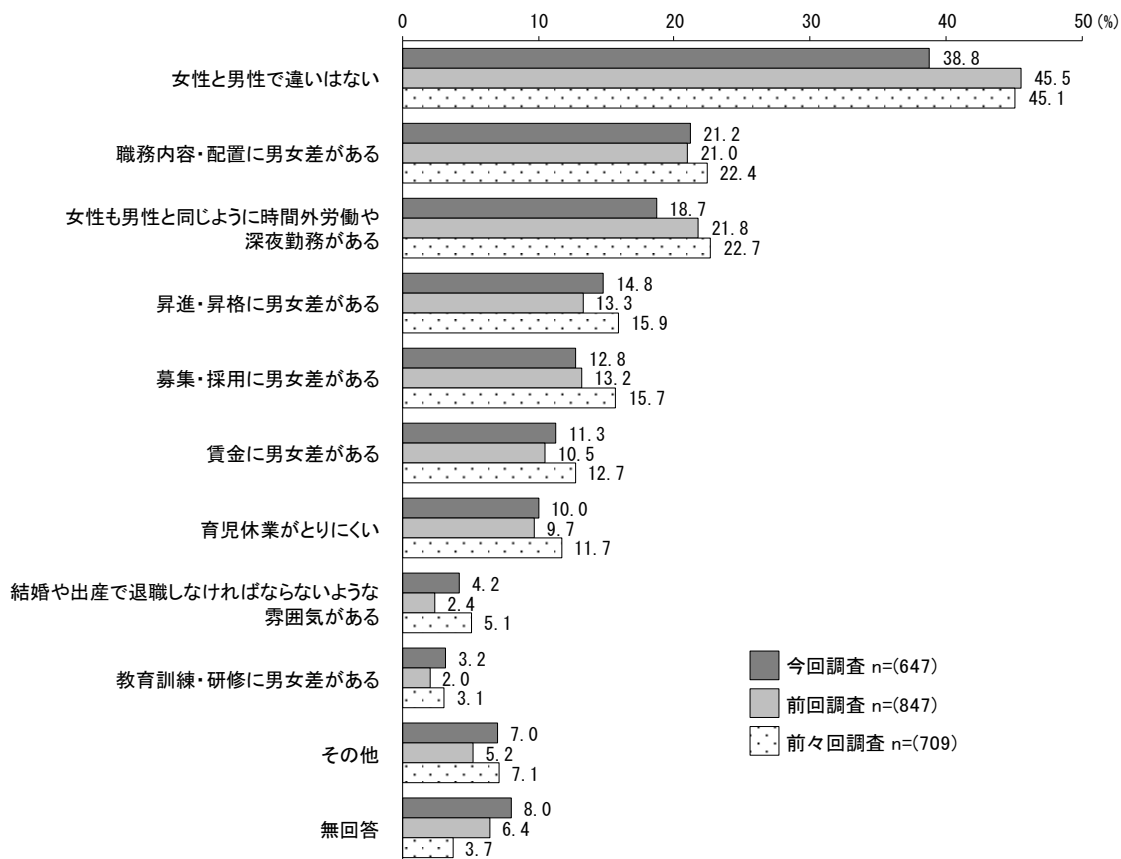
職場での男女差についてみると、「女性と男性で違いはない」が38.8%で最も高く、次いで「職務内容・配置に男女差がある」(21.2%)となっている。

性別にみると、「職務内容・配置に男女差がある」は男性(25.6%)が女性(17.4%)より8.2ポイント、「育児休業がとりにくい」は男性(12.8%)が女性(8.4%)より4.4ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、「女性も男性と同じように時間外労働や深夜勤務がある」、「募集・採用に男女差がある」が減少している。前回調査と比較すると、「男性と女性で違いはない」が6.7ポイント、「女性も男性と同じように時間外労働や深夜勤務がある」が3.1ポイント減少している。一方、「結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある」が1.8ポイント増加している。

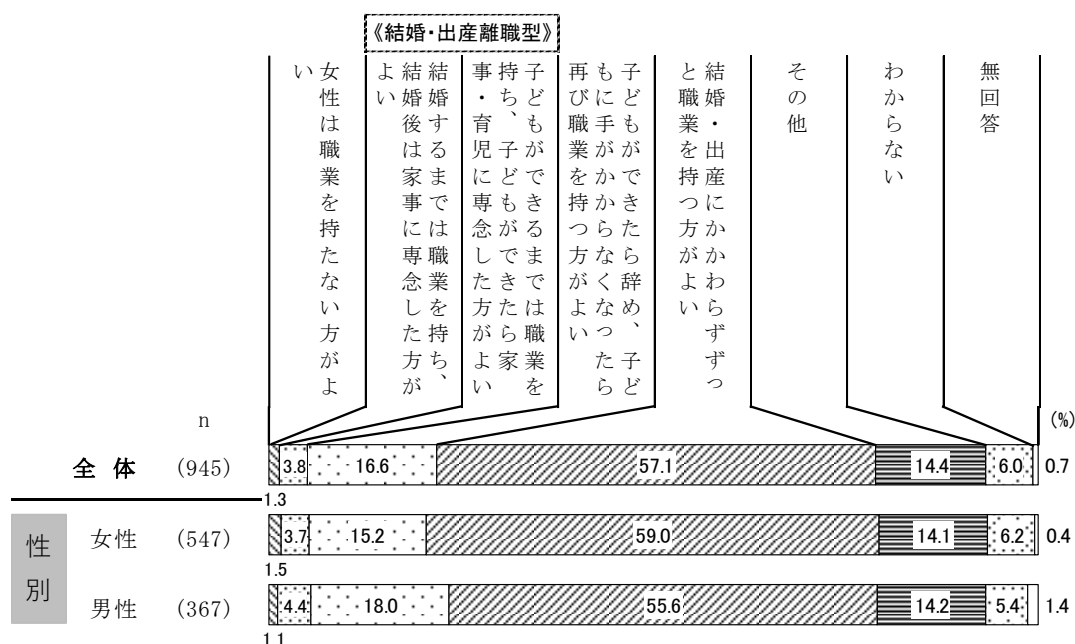


### (3) 女性が職業を持つことについての考え方

問12 女性が職業を持つことについてどう思いますか。(○は1つ)

女性が職業を持つことについての考え方についてみると、「結婚・出産にかかわらずずっと職業を持つ方がよい」が57.1%で最も高く、次いで、「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業を持つ方がよい」(16.6%)となっている。「結婚するまでは職業を持ち、結婚後は家事に専念した方がよい」と「子どもができるまでは職業を持ち、子どもができたなら家事・育児に専念した方がよい」を合わせた《結婚・出産離職型》は5.1%となっている。

性別にみても同様の傾向がうかがえ、男女間に大きな違いはみられない。



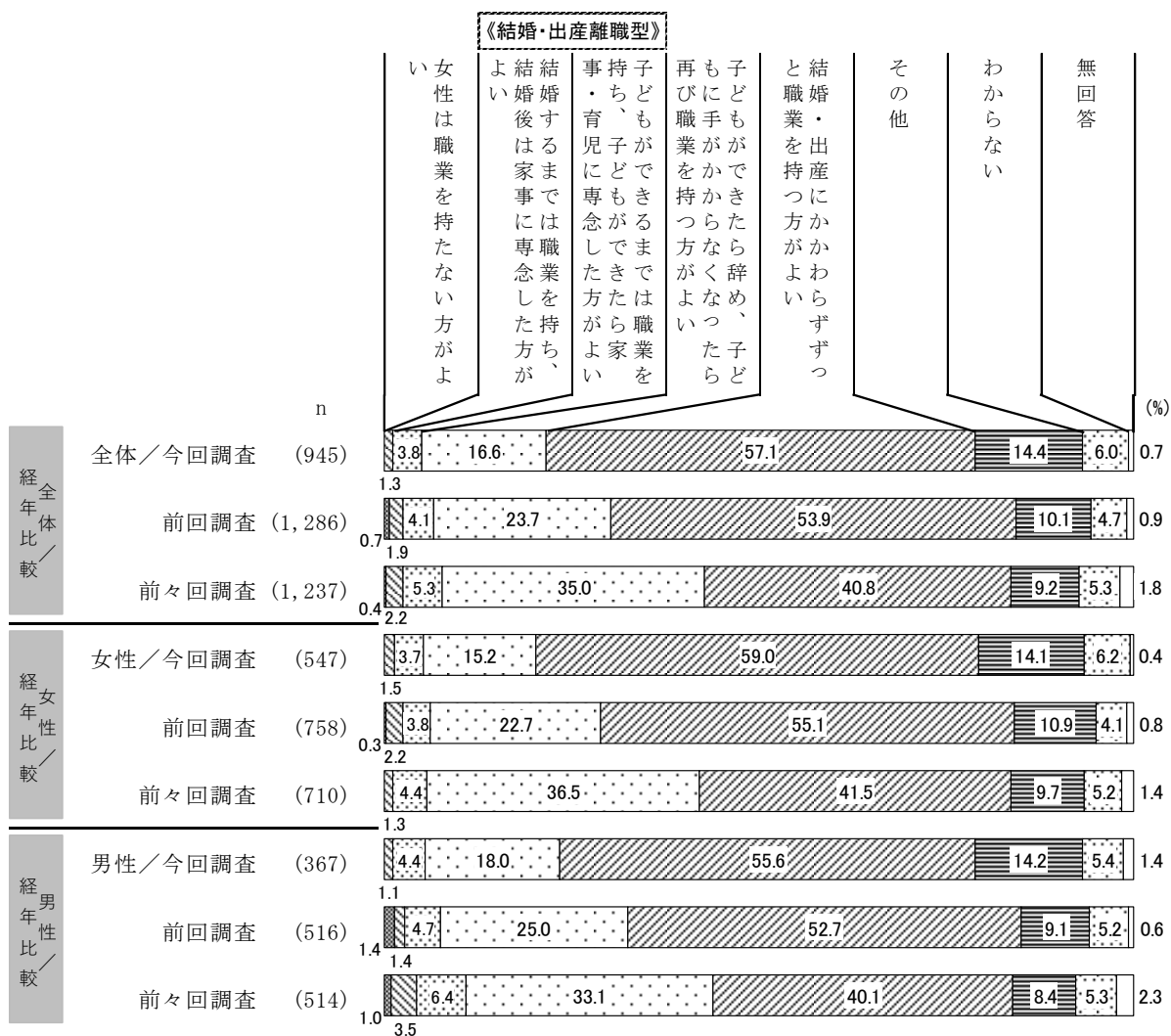
#### ■主な「その他」の回答

<b>本人の意思を尊重／本人の自由 (82件)</b>
・人それぞれに生き方を選ぶのがよい。
・持ちたいのであれば持てばよい。本人の希望で自由に。
・女性の意思を尊重し、決めつけることではないと思う。
・その人が望むスタイルを選べると良い。選んだものがずっと続くわけではなく、時々で選び直せると良い。
・性別関係なく個々に選択した道を歩むべき
・家庭のことを考えたうえで個人の好きなようにするのがいいと思う。
<b>家庭の状況や生活環境に応じて (33件)</b>
・それぞれの家庭の状況にあわせればよいと思う。
・その時の状況に応じて。企業も家庭もそのスタンスでいてくれないとできない。
・その家庭の事情によって家族で話し合っ決めてほうが良いと思います。
・家計の経済状況を鑑みたらうで家庭内で合意の取れる範囲で好きにすれば良い。

■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「結婚・出産にかかわらずずっと職業をもつ方がよい」が増加しており、前回調査から3.2ポイント増加している。また、「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」は減少しており、前回調査から7.1ポイント減少している。

性別にみると、男女ともに「結婚・出産にかかわらずずっと職業をもつ方がよい」が増加している。また、「子どもができたなら辞め、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」が、前回調査から女性が7.5ポイント、男性が7.0ポイント減少している。



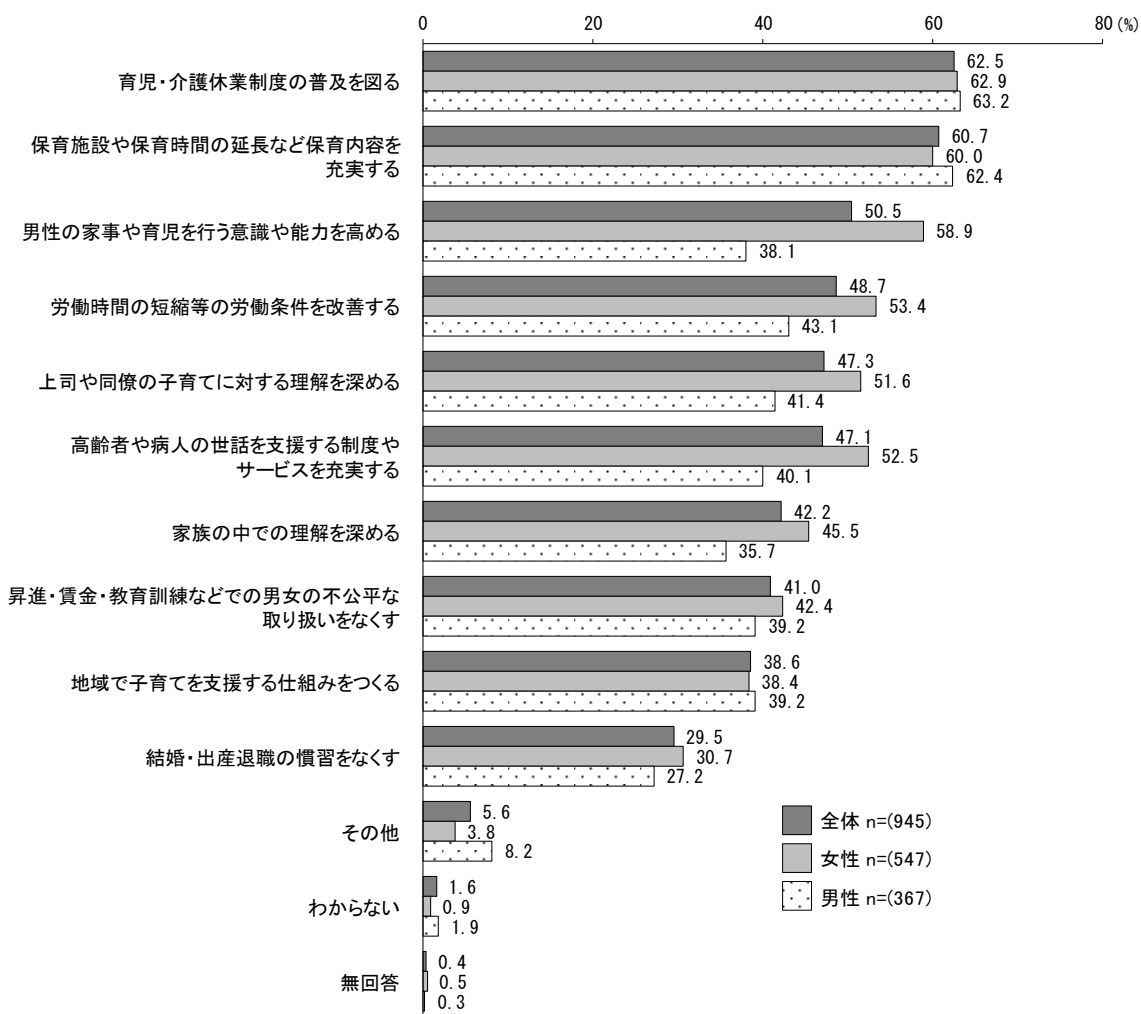


(4) 女性が働き続けるために必要なこと

問13 女性が働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

女性が働き続けるために必要なことについてみると、「育児・介護休業制度の普及を図る」が62.5%で最も高く、次いで、「保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実する」(60.7%)、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」(50.5%)、「労働時間の短縮等の労働条件を改善する」(48.7%)となっている。

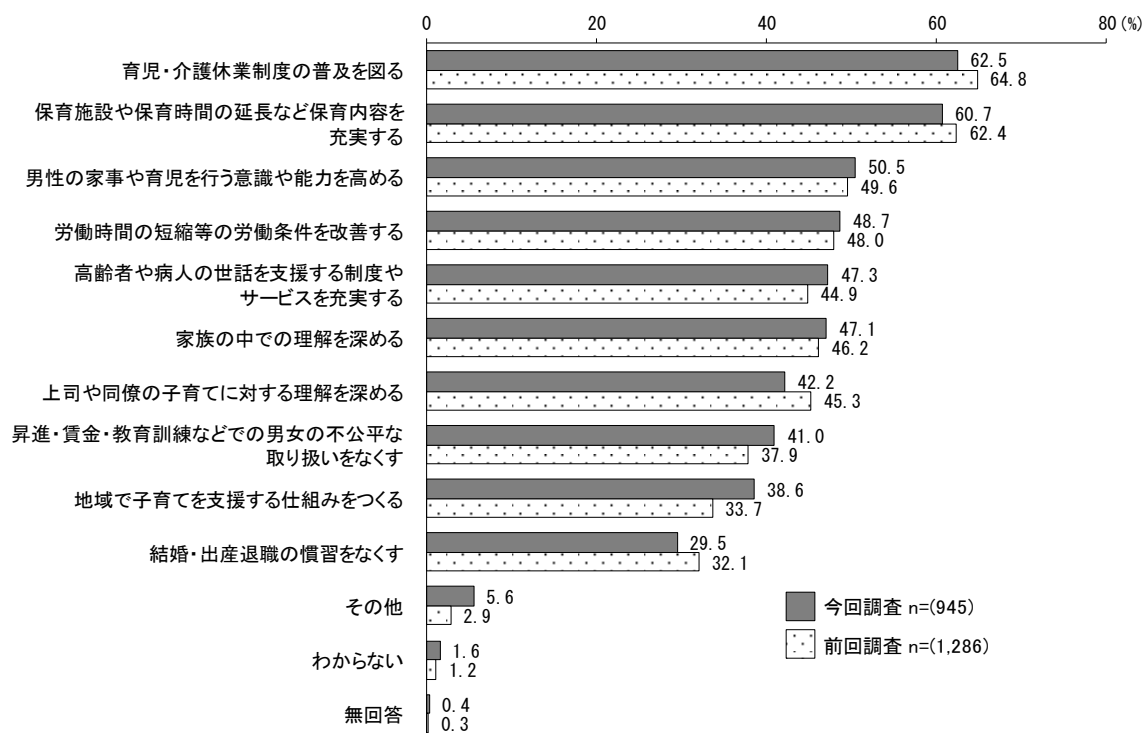
性別にみると、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」は女性が男性より20ポイント以上、「高齢者や病人の世話を支援する制度やサービスを充実する」、「労働時間の短縮等の労働条件を改善する」、「上司や同僚の子育てに対する理解を深める」は女性が男性より10ポイント以上高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前回調査から「地域で子育てを支援する仕組みをつくる」が4.9ポイント、「昇進・賃金・教育訓練などでの男女の不公平な取扱いをなくす」が3.1ポイント増加している。

また、「上司や同僚の子育てに対する理解を深める」が3.1ポイント、「結婚・出産退職の慣習をなくす」が2.6ポイント減少している。

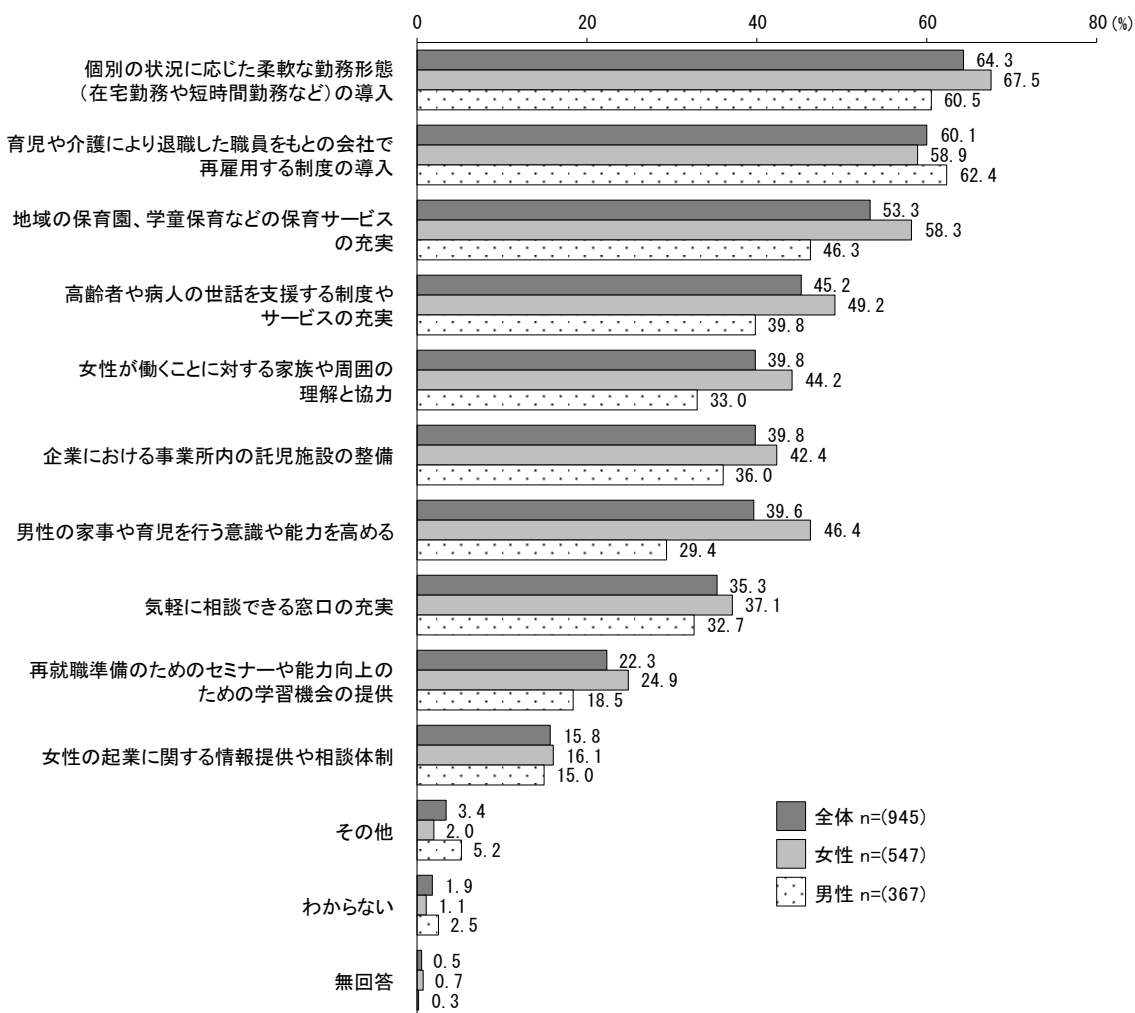


(5) 女性が再就職や起業するために必要なこと

問14 子育てや介護によりいったん離職した女性が再就職や起業するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

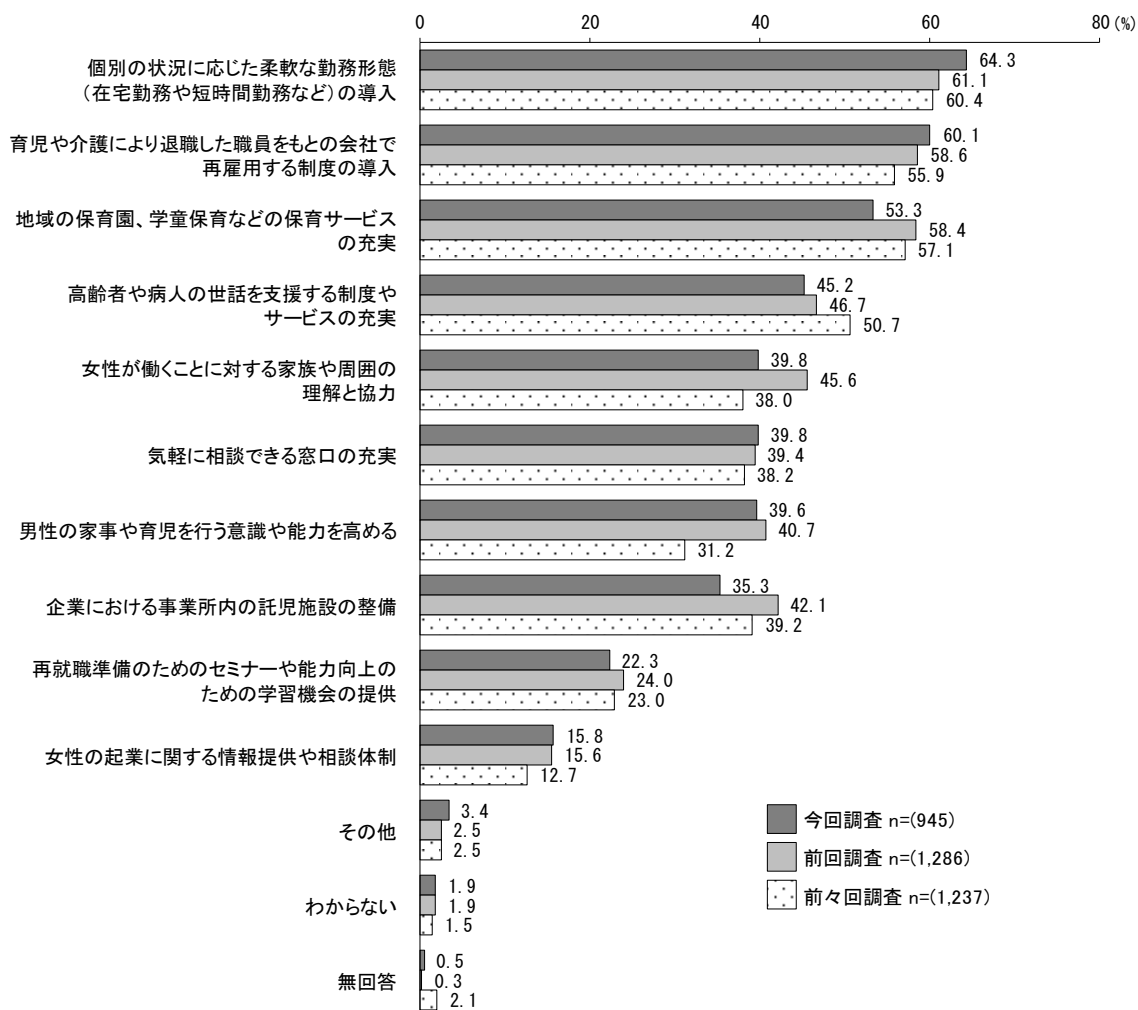
女性が再就職や起業にチャレンジするために必要なことについてみると、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入」が64.3%で最も高く、次いで、「育児や介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度の導入」（60.1%）、「地域の保育園、学童保育などの保育サービスの充実」（53.3%）となっている。

性別にみると、「男性の家事や育児を行う意識や能力を高める」や「地域の保育園、学童保育などの保育サービス」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」は女性が男性より10ポイント以上高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（在宅勤務や短時間勤務など）の導入」、「育児や介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度の導入」が増加している。前回調査と比較すると、「企業における事業所内の託児施設の整備」が6.8ポイント、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が6.2ポイント減少している。



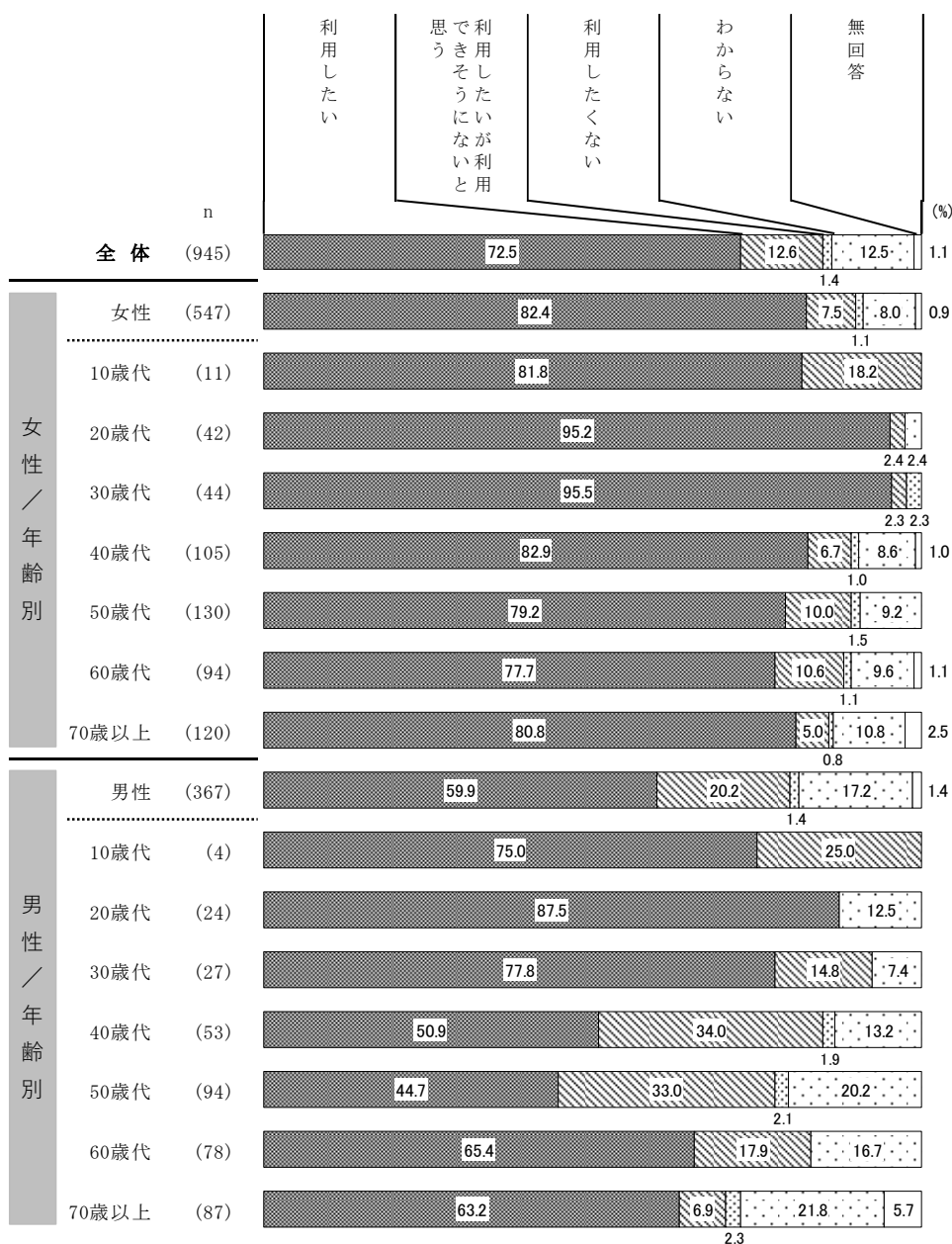
(6) 育児休業制度を利用することへの意識

問15 育児を行うために、自分自身が「育児休業制度」を利用することについてどう思いますか。(現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。)  
(○は1つ)

育児休業制度を利用することへの意識についてみると、「利用したい」が72.5%で最も高く、次いで、「利用したいが利用できそうにないと思う」(12.6%)となっている。

性別にみると、「利用したい」は女性(82.4%)が男性(59.9%)より22.5ポイント高くなっている。一方、「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性(20.2%)が女性(12.6%)より7.6ポイント高くなっている。

性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「利用したい」が最も高くなっているが、男性は女性に比べて割合が低く、40歳代~50歳代で5割前後となっている。男性の40歳代~50歳代で「利用したいが利用できそうにないと思う」が3割以上となっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、男女ともに「利用したい」が増加しており、「利用したいが利用できそうにないと思う」が減少している。前回調査と比較すると、「利用したい」は女性で8.7ポイント、男性で6.6ポイント増加している。



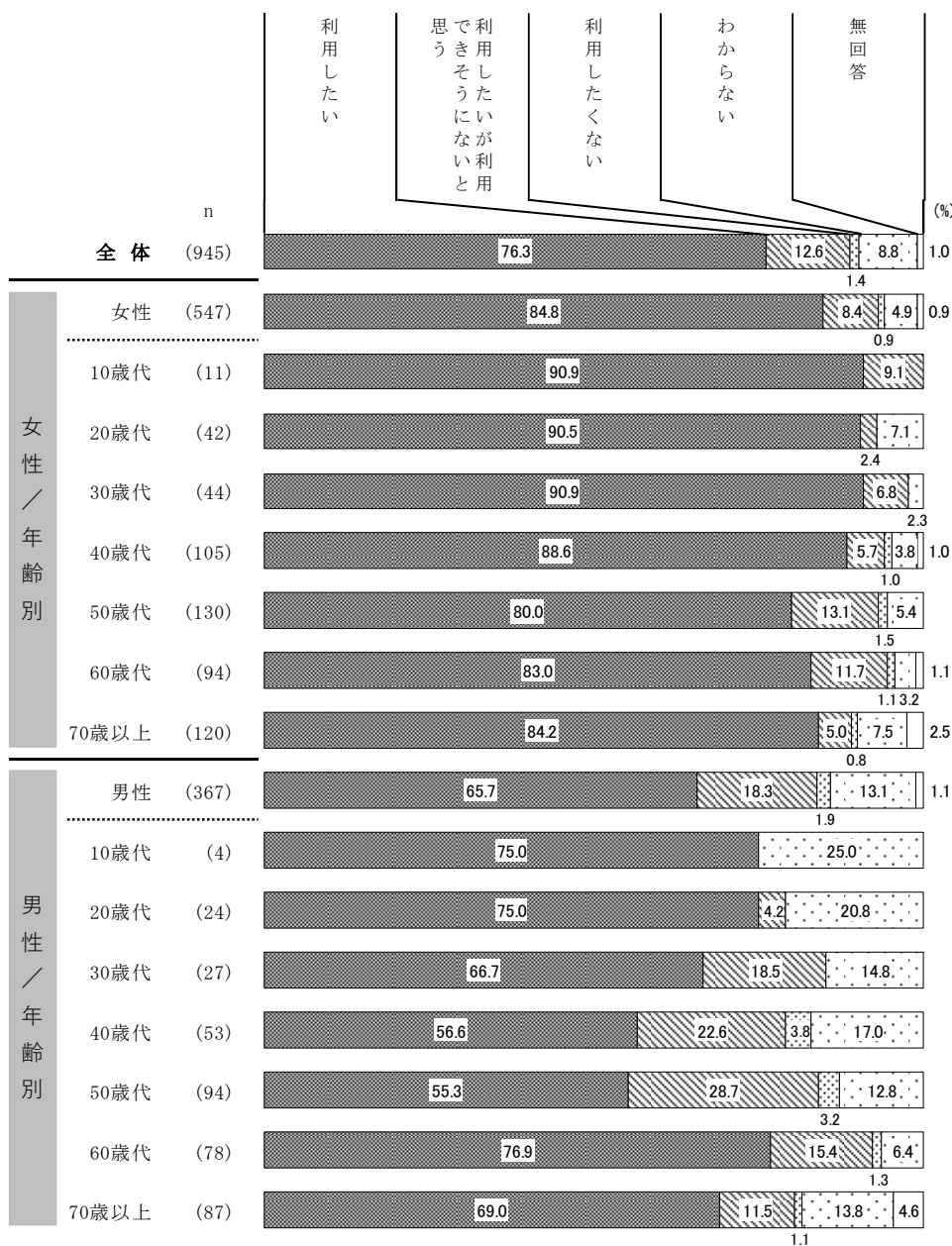
(7) 介護休業制度を利用することへの意識

問16 家族介護を行うために、自分自身が「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。(現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。)  
(○は1つ)

介護休業制度を利用することへの意識についてみると、「利用したい」が76.3%で最も高く、次いで、「利用したいが利用できそうにないと思う」(12.6%)となっている。

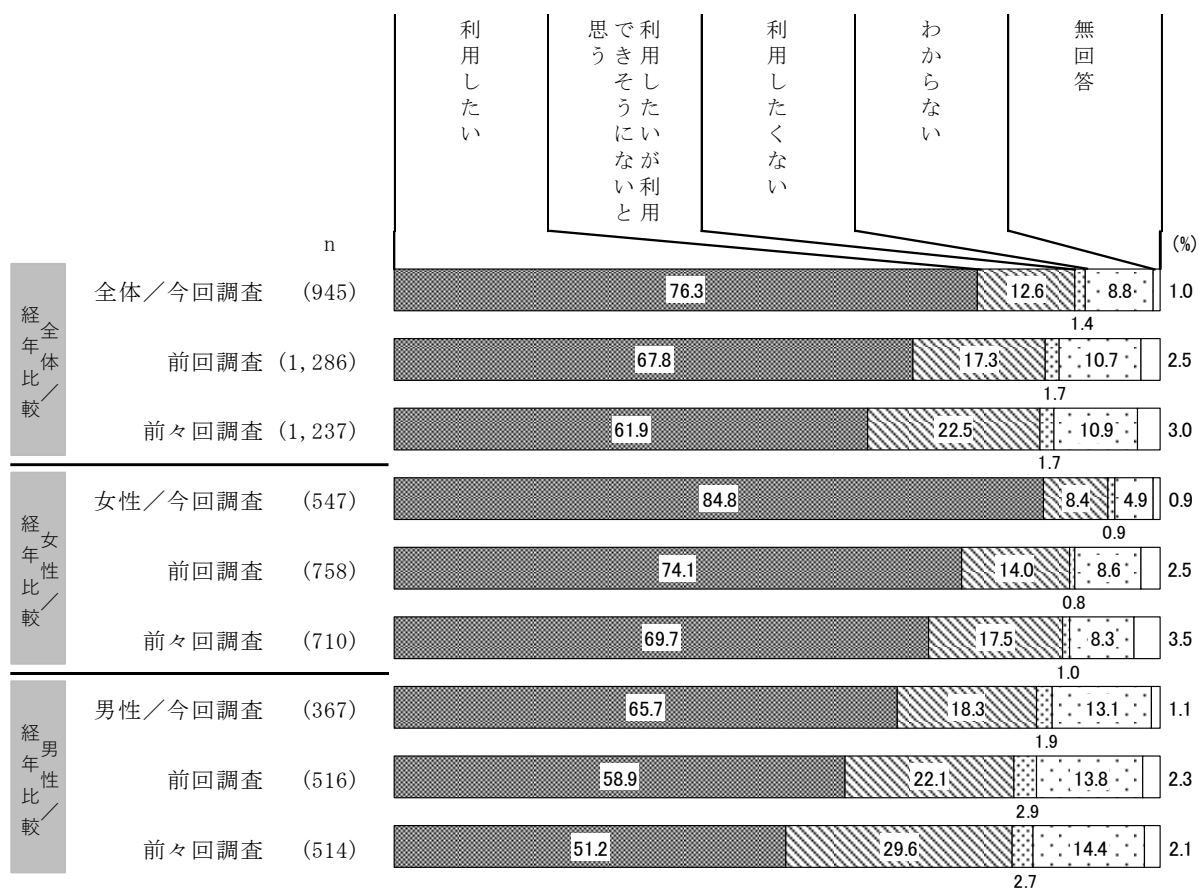
性別にみると、「利用したい」は女性(84.8%)が男性(65.7%)より19.1ポイント高くなっている。一方、「利用したいが利用できそうにないと思う」は男性(18.3%)が女性(8.4%)より9.9ポイント高くなっている。

性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「利用したい」が最も高くなっているが、男性は女性に比べて割合が低く、40歳代~50歳代で5割半ばとなっている。男性の50歳代で「利用したいが利用できそうにないと思う」が約3割となっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、男女ともに「利用したい」が増加しており、「利用したいが利用できそうにないと思う」が減少している。前回調査と比較すると、「利用したい」は女性で10.7ポイント、男性で6.8ポイント増加している。



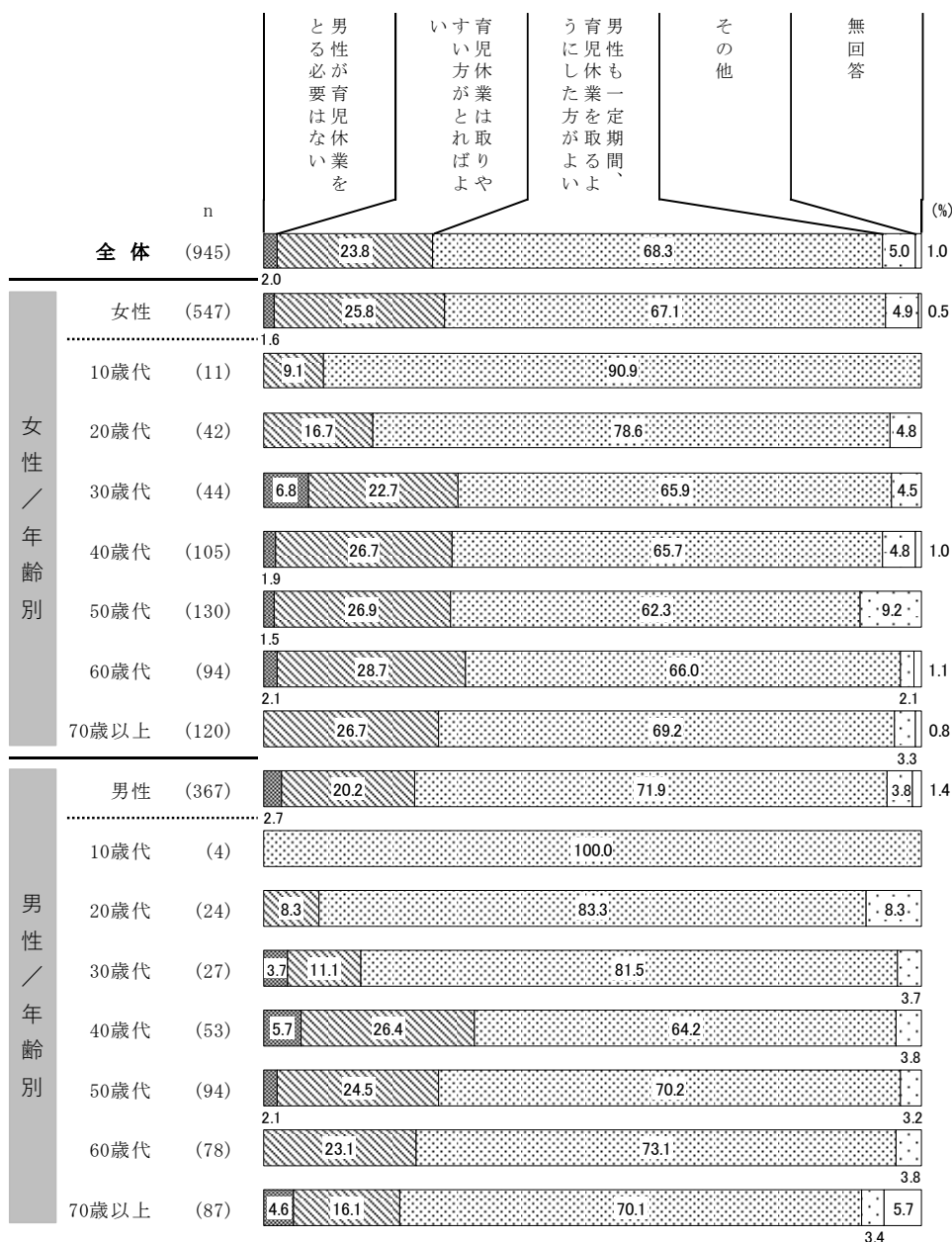
(8) 男性が育児休業を取得することへの意識

問17 男性が育児休業をとることについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

男性が育児休業を取得することへの意識についてみると、「男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい」が68.3%で最も高く、次いで、「育児休業は取りやすい方がとればよい」(23.8%)となっている。

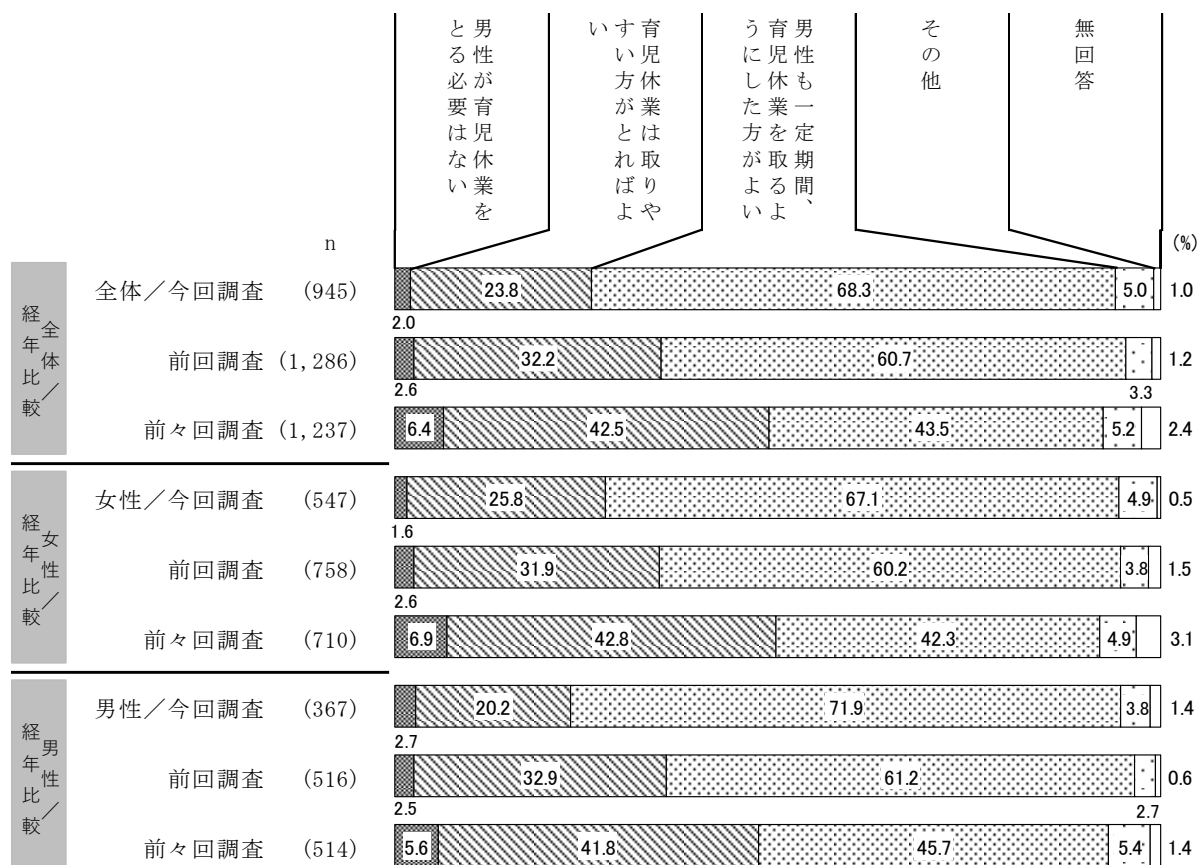
性別にみると、「育児休業は取りやすい方がとればよい」は女性(25.8%)が男性(20.2%)より5.6ポイント高くなっている。一方、「男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい」は男性(71.9%)が女性(67.1%)より4.8ポイント高くなっている。

性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「男性も一定期間、育児休業を取るようにした方がよい」が過半数を占めており、女性の20歳代で約8割、男性の20歳代、30歳代で8割以上と他の年代より高くなっている。また、男性の40歳代~60歳代で「育児休業は取りやすい方がとればよい」が2割以上となっており、男性の他の年代より高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、男女ともに「男性も一定期間、育児休業を取るようになった方がよい」が増加しており、「育児休業は取りやすい方が取ればよい」が減少している。前回調査と比較すると、「男性も一定期間、育児休業を取るようになった方がよい」は男性が10.7ポイント、女性が6.9ポイント増加している。



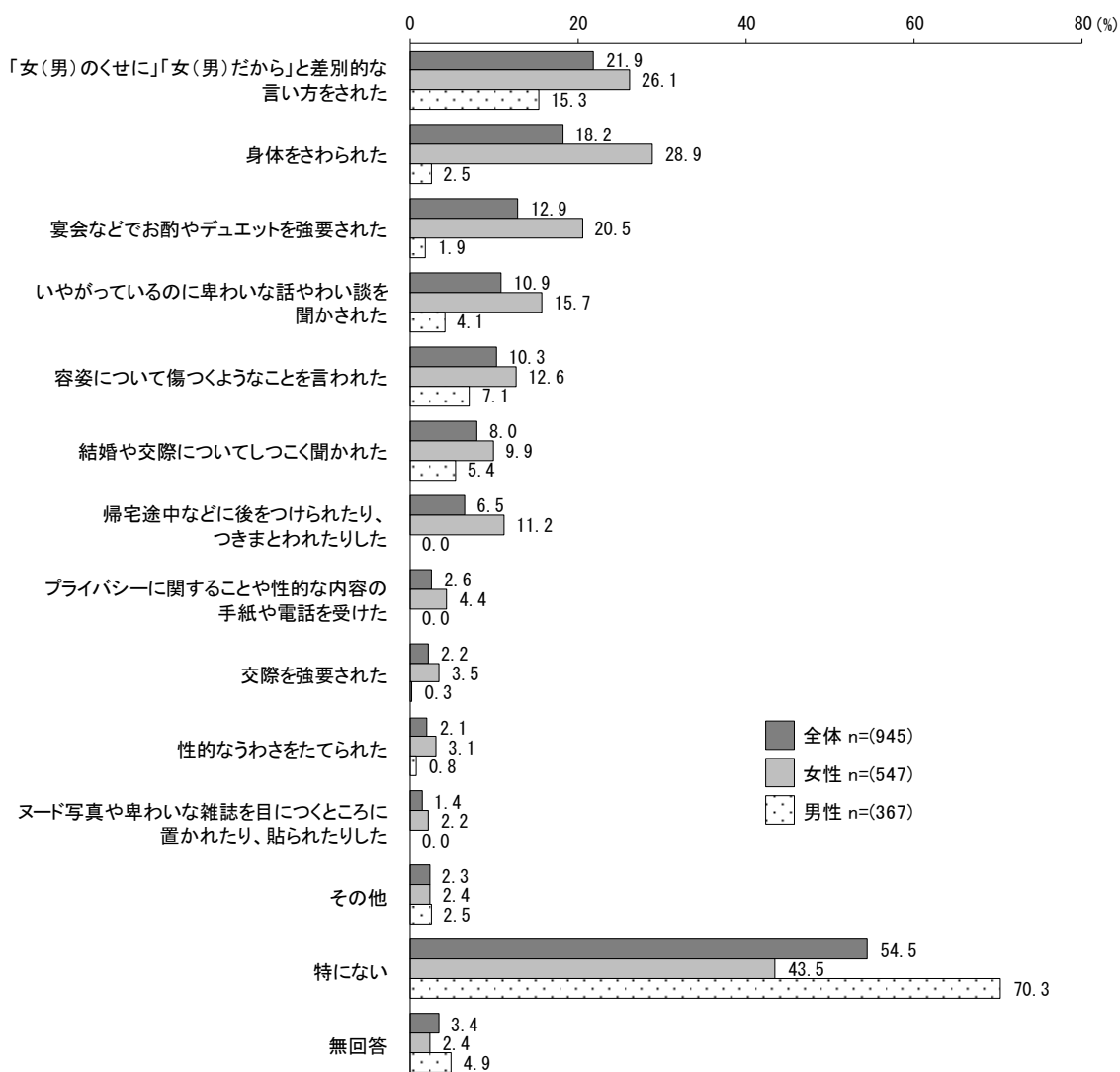
## 7. 人権について

### (1) 「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験

問18 これまでに次のような「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験がありますか。  
(○はいくつでも)

「セクシュアル・ハラスメント」を受けた経験についてみると、「特にない」が54.5%を占めている。受けた「セクシュアル・ハラスメント」については、『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされた(21.9%)が最も高く、次いで、「身体をさわられた」(18.2%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」(12.9%)、「いやがっているのに卑わいな話やわい談を聞かされた」(10.9%)となっている。

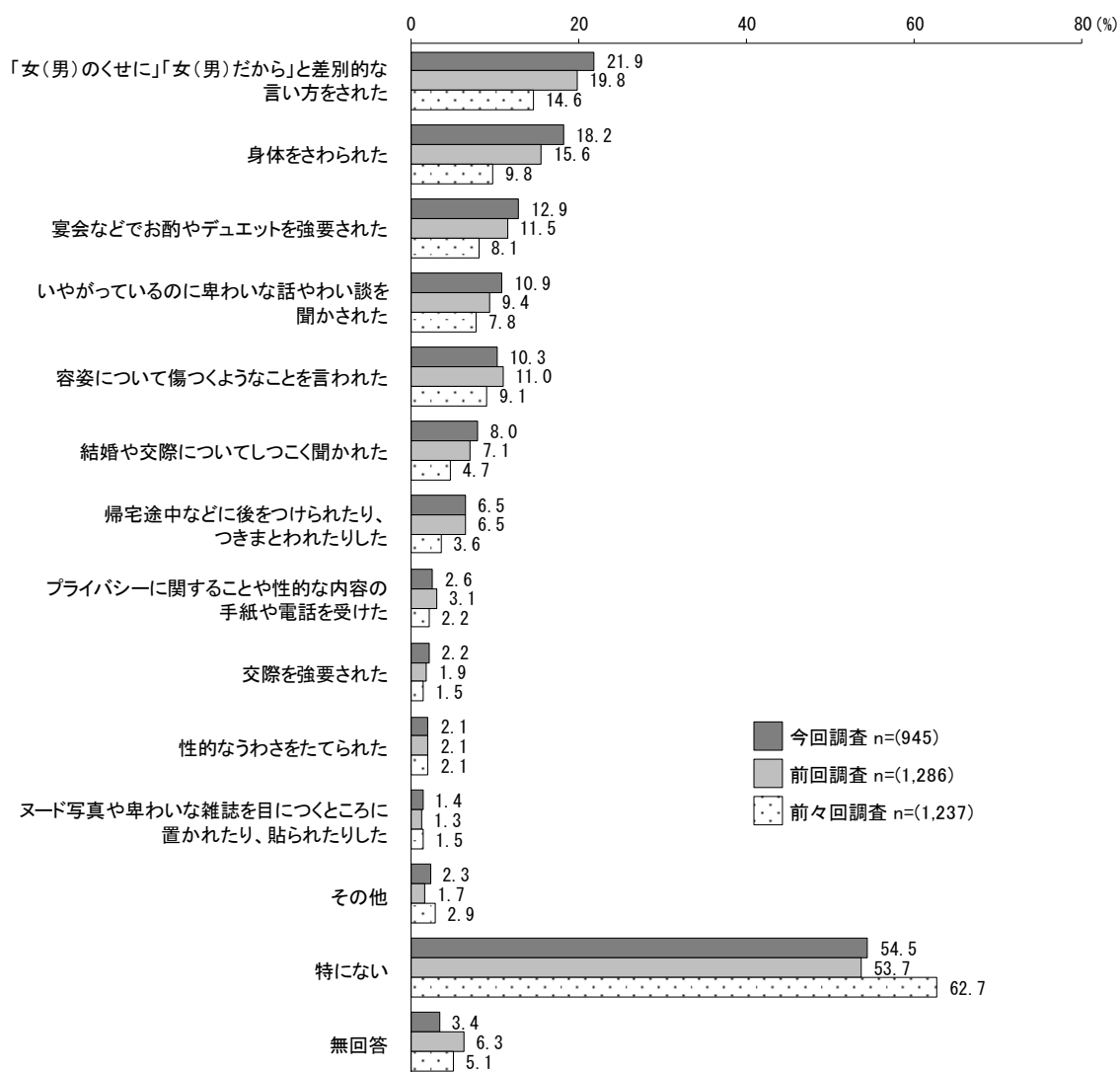
性別にみると、男女ともに「特にない」が最も高いが、男性(70.3%)が女性(43.5%)より26.8ポイント高くなっている。受けた「セクシュアル・ハラスメント」については、すべての項目で女性が男性を上回っている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、男女ともに「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」、「身体をさわられた」、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」、「いやがっているのに卑わいな話やわい談を聞かされた」が増加している。

前回調査と比較すると、「身体をさわられた」が2.6ポイント、「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」が2.1ポイント増加している。

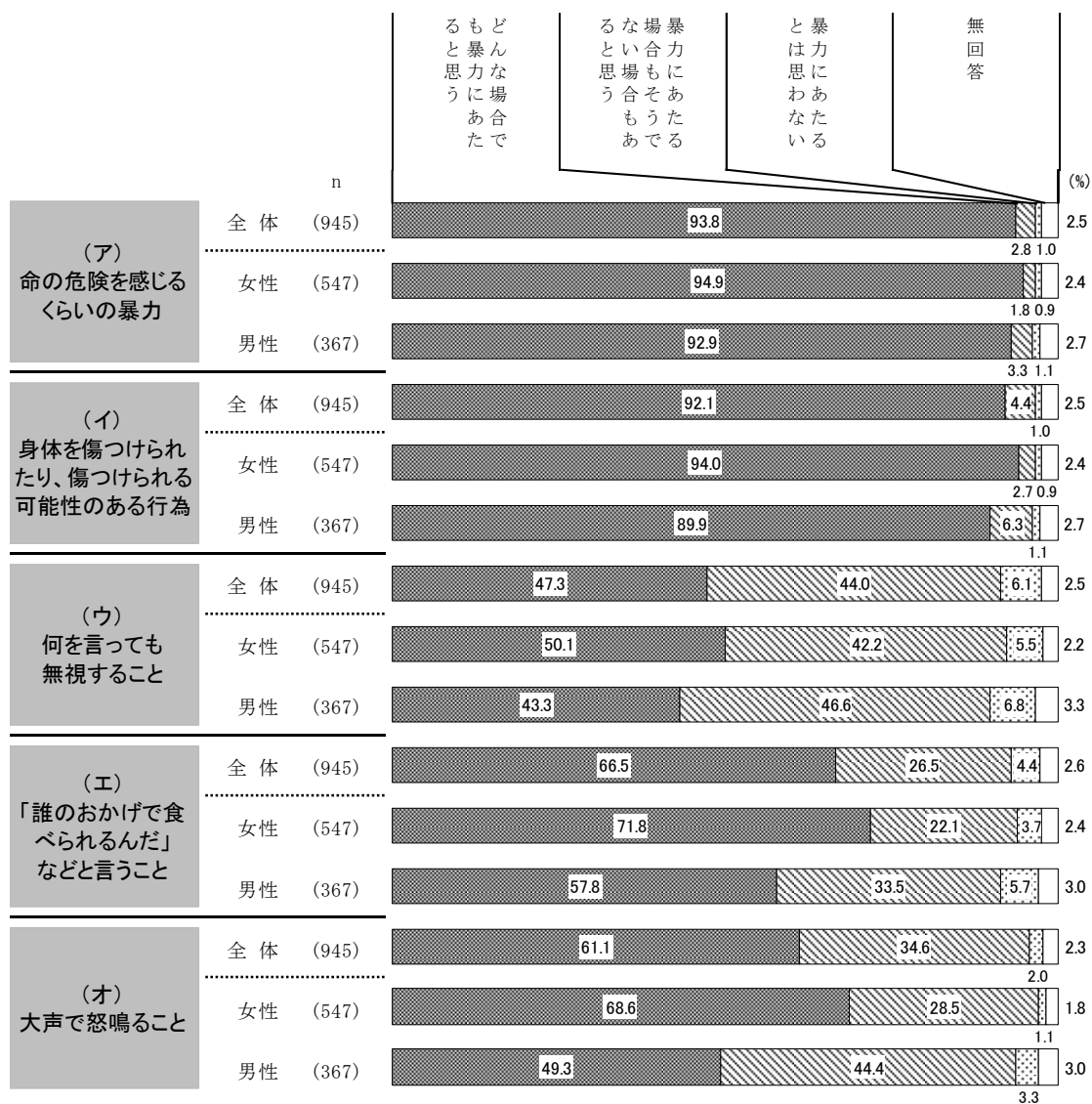


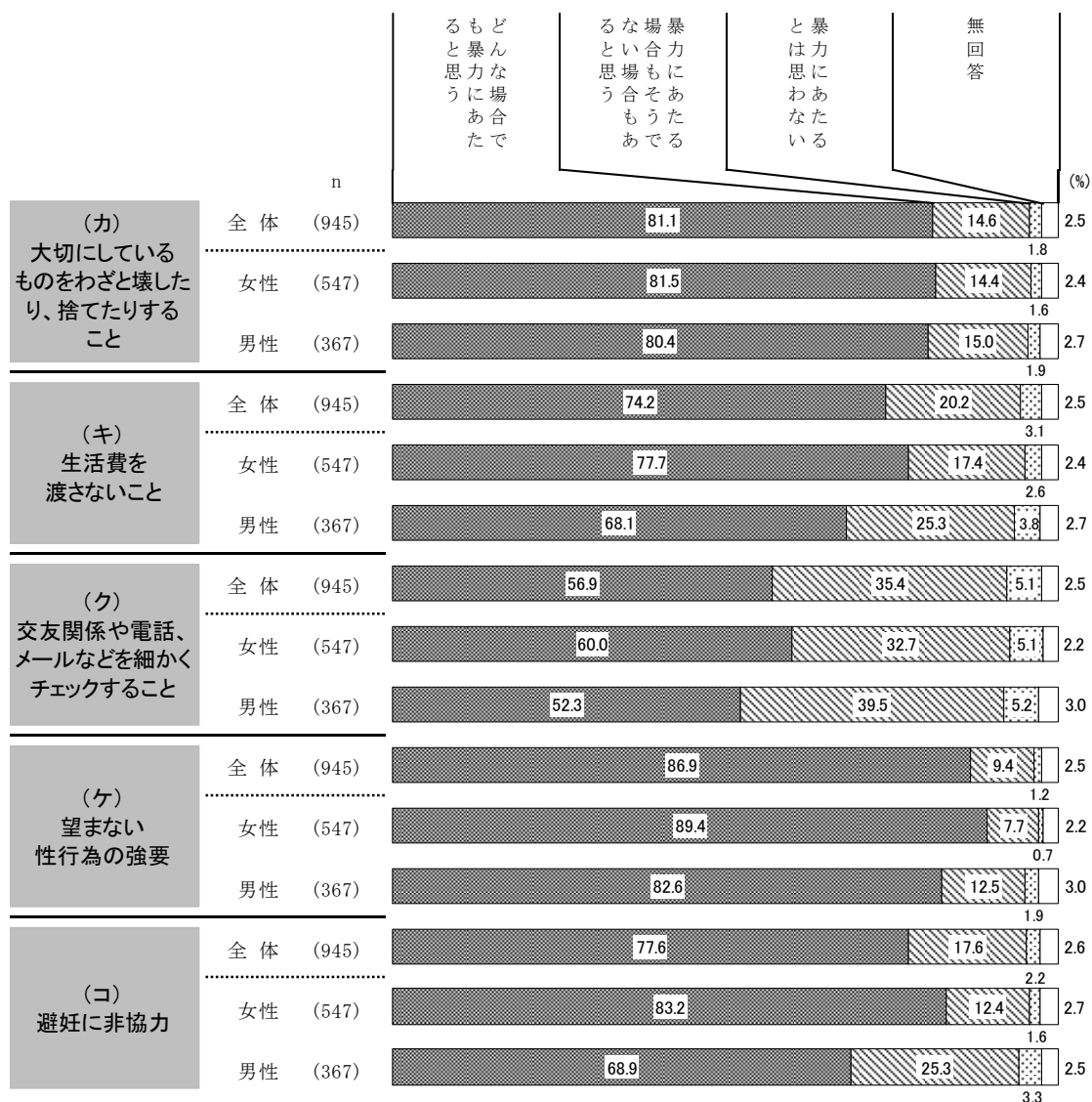
(2) 暴力に対する考え方

問19 次のようなことが配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー・恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。（ア）～（オ）のそれぞれについて、「1」～「3」のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

暴力に対する考え方についてみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が、「(ア) 命の危険を感じるくらい暴力を受ける」と「(イ) 身体を傷つけられたり、傷つけられる可能性のある行為を受ける」の《身体的暴力》で9割以上と高く、次いで「(ケ) 望まない性行為の強要」と「(カ) 大切にしているものをわざと壊したり、捨てたりすること」で8割以上となっている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」はすべての項目で女性が男性を上回っており、特に「(オ) 大声で怒鳴ること」で女性（68.6%）が男性（49.3%）より19.3ポイント高くなっている。一方で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」はすべての項目で男性が女性より高くなっている。

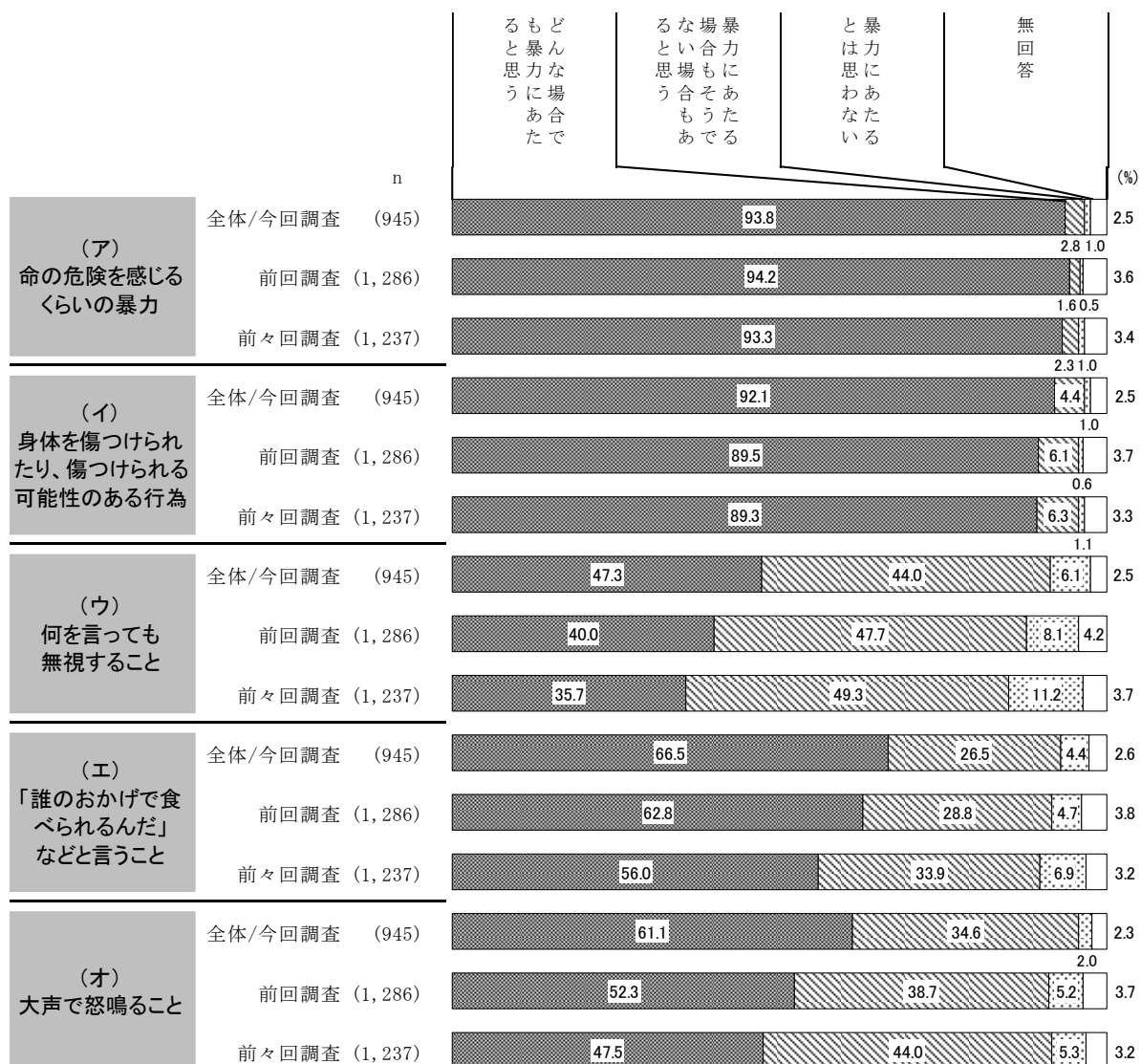


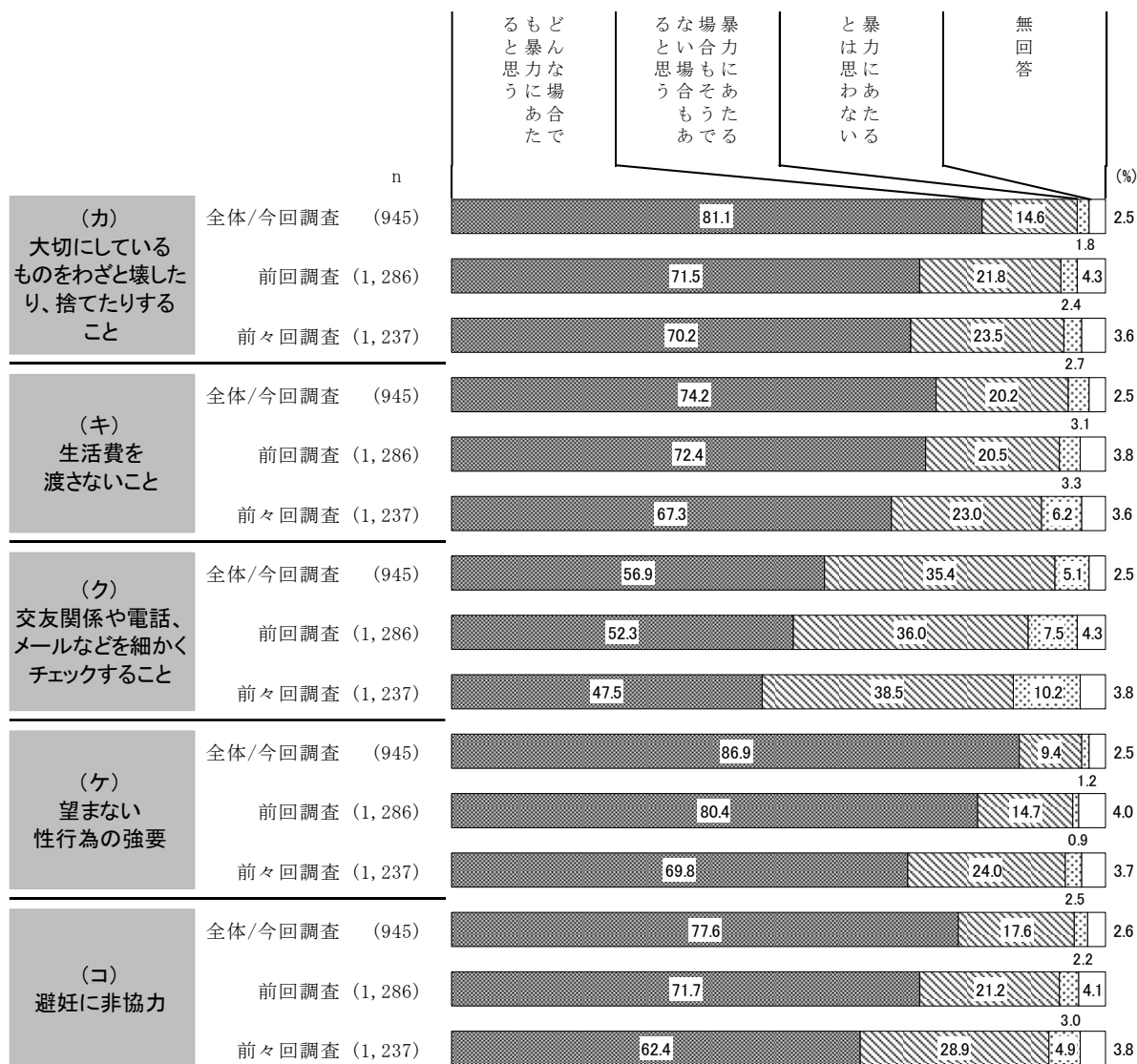


■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、「(ア) 命の危険を感じるくらいの暴力」を除き、男女ともにすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が増加している。

前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が「(カ) 大切にしているものをわざと壊したり、捨てたりすること」で9.6ポイント、「(ウ) 何を言っても無視すること」で7.3ポイント増加している。



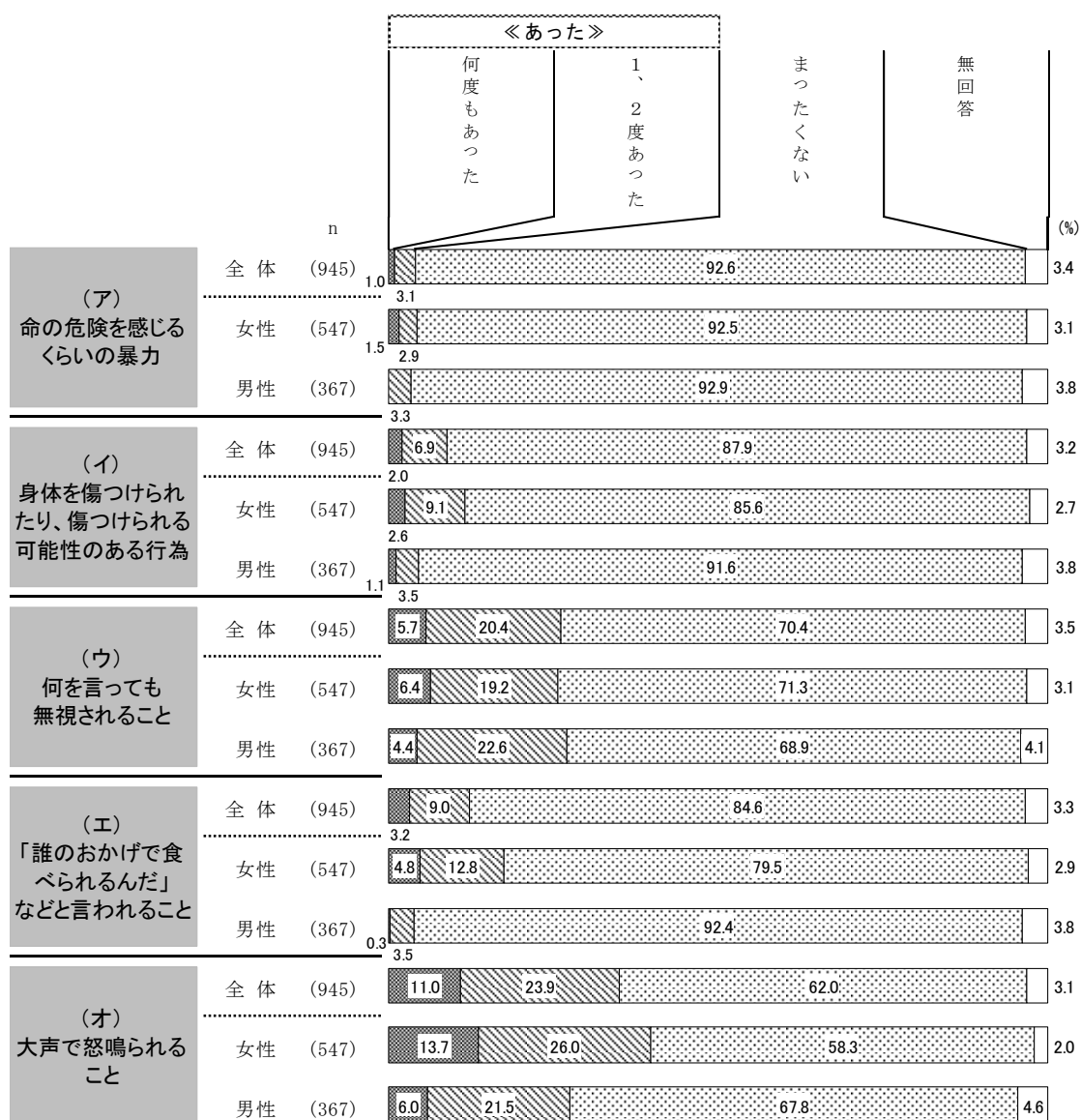


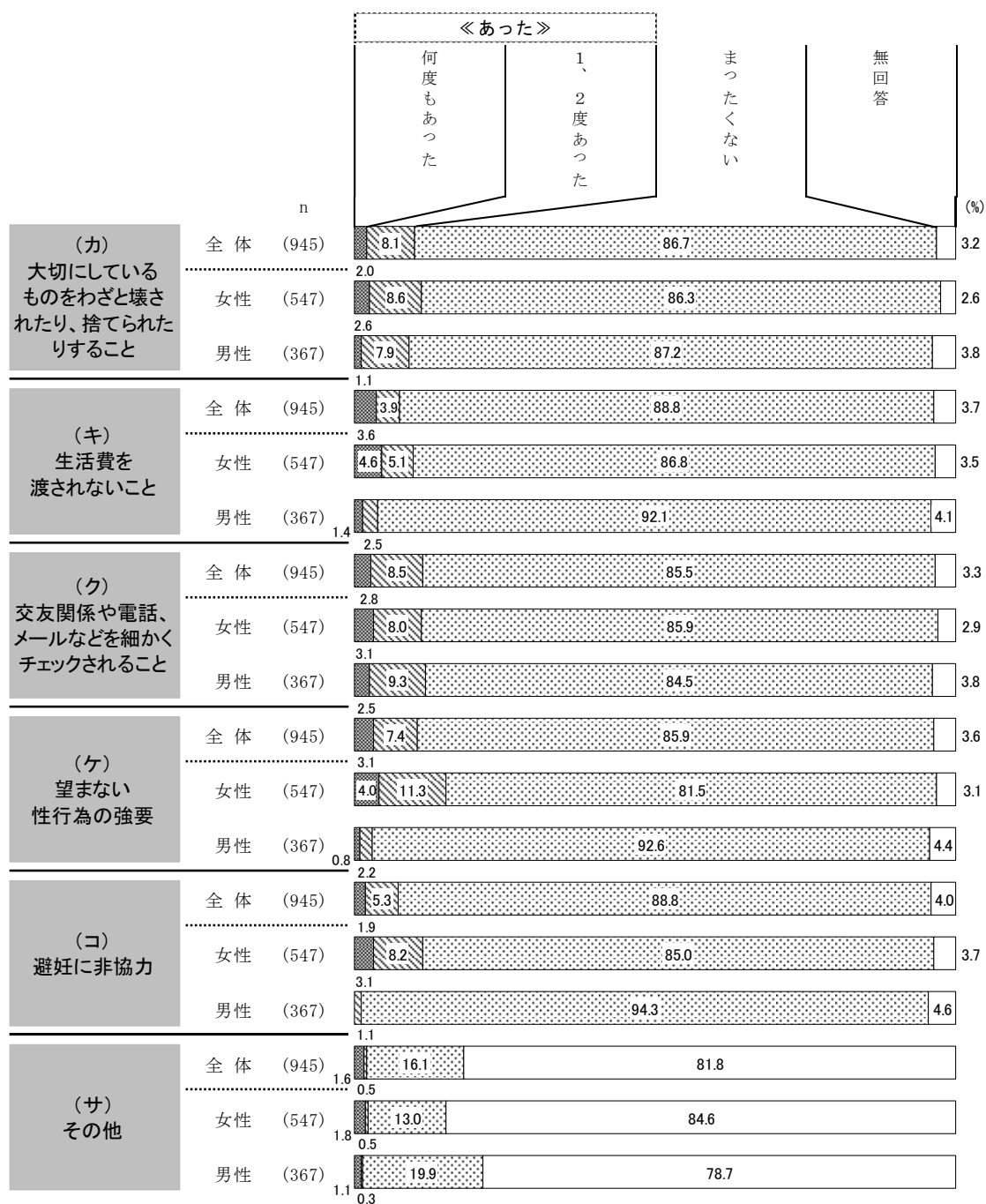
(3) 暴力を受けた経験

問20 今までに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー・恋人などから次のような行為を受けたことはありますか。（ア）～（サ）のそれぞれについて、「1」～「3」のうちあてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

暴力を受けた経験についてみると、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた《あった》が「(オ) 大声で怒鳴られること」で34.9%と最も高く、「(ウ) 何を言っても無視されること」で2割半ば、「(エ) 『誰のおかげで食べられるんだ』などと言われること」、「(ケ) 望まない性行為の強要」、「(ク) 交友関係や電話、メールなどを細かくチェックされること」、「(カ) 大切にしているものをわざと壊されたり、捨てたりされること」でも1割以上となっている。

性別にみると、《あった》は「(ウ) 何を言っても無視されること」、「(ク) 交友関係や電話、メールなどを細かくチェックされること」以外の項目で女性が男性を上回っており、「(エ) 『誰のおかげで食べられるんだ』などと言われること」、「(ケ) 望まない性行為の強要」、「(オ) 大声で怒鳴られること」、「(コ) 避妊に非協力的」で女性が男性より10ポイント以上高くなっている。

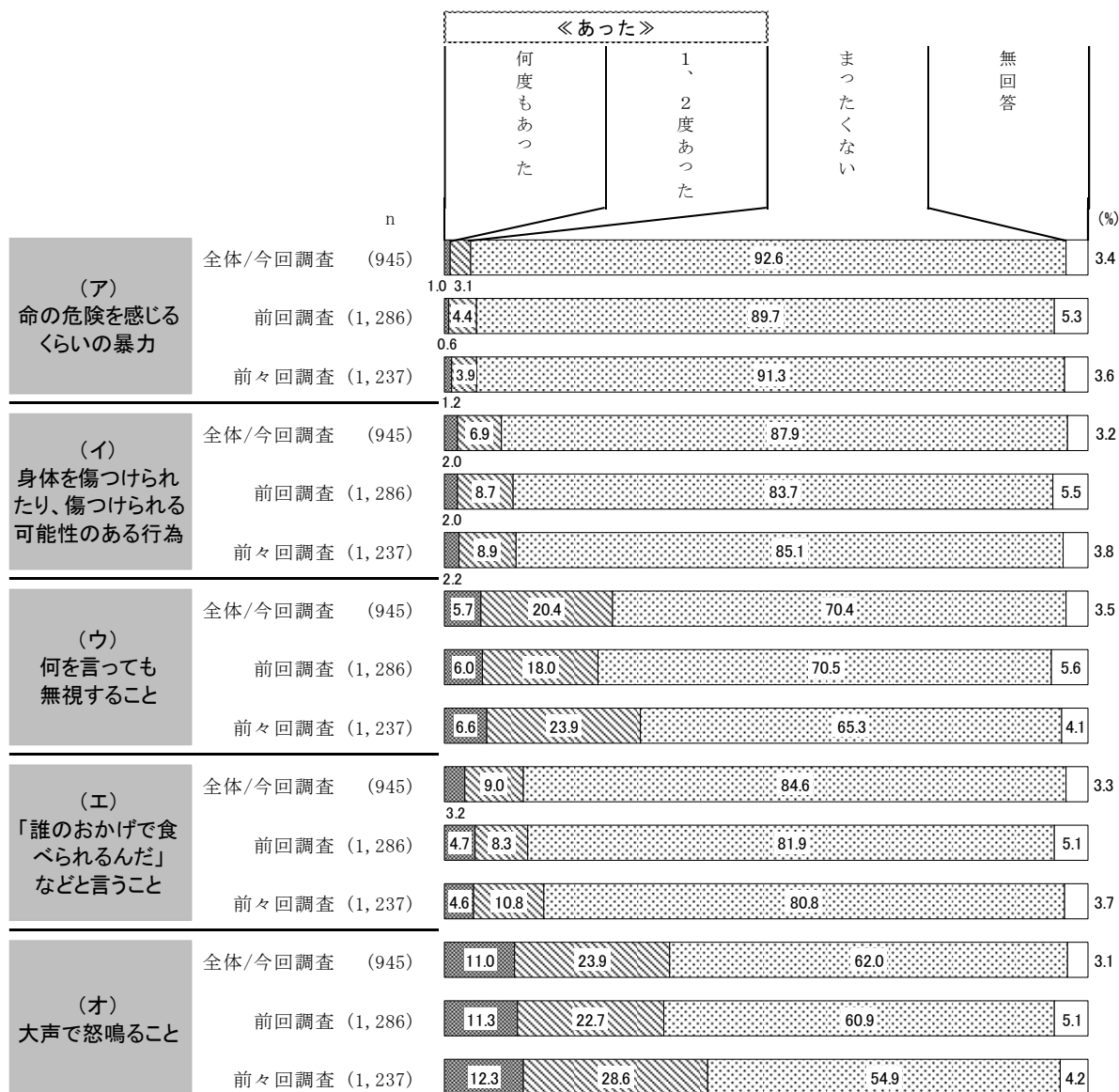


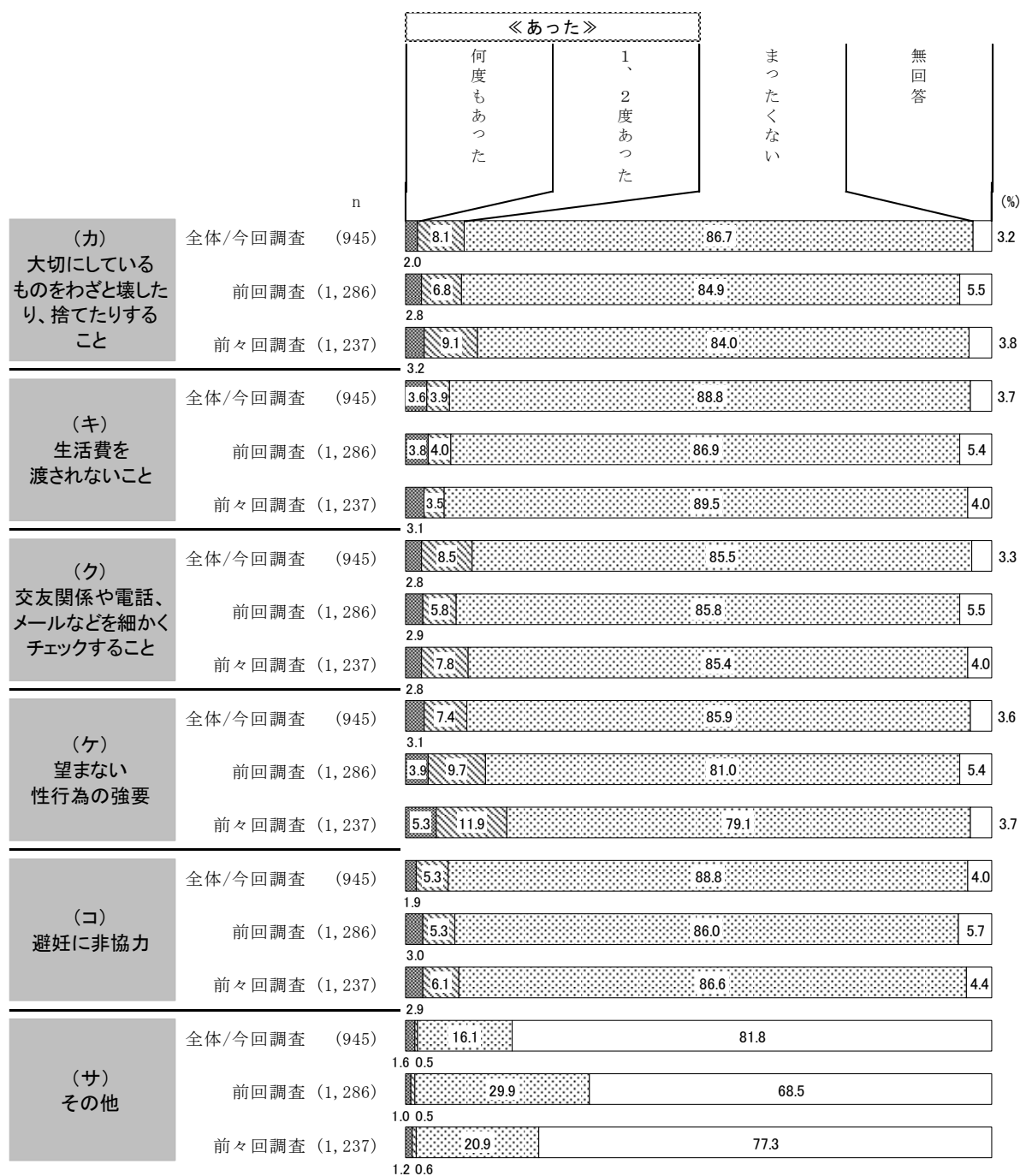


■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回にかけて、「(エ) 誰のおかげで食べられるんだ」、「(カ) 大切にしているものをわざと壊されたり、捨てたりされること」、「(ケ) 望まない性行為の強要」で「まったくない」が増加している。

前回調査から比較すると、「(サ) その他」で「まったくない」が13.3ポイント増加している。





■暴力の経験（問20）ごとにみる、暴力に対する考え

暴力に対する考えについて、暴力の経験回数ごとにみると、身体的暴力、経済的暴力、性的暴力では、暴力の経験回数にかかわらず、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっている。一方、精神的暴力のうち、「(ウ) 何を言っても無視されること」、「(ク) 交友関係や電話、メールなどを細かくチェックされること」について、「1、2度あった」と回答した人は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が最も高くなっている。

		調査数	思暴ど う力 に あ た る と も	場も暴 合力 も、 あそ う あ た る と 思 う	思暴 力 に あ た る と は	無 回 答	
身体的暴力	(ア) 命の危険を感じる くらいの暴力	全 体	945	93.8	2.8	1.0	2.5
		何度もあった	9	100.0	-	-	-
		1、2度あった	29	100.0	-	-	-
		まったくない	875	95.2	3.0	1.0	0.8
	(イ) 身体を傷つけられ たり、傷つけられる可 能性のある行為	全 体	945	92.1	4.4	1.0	2.5
		何度もあった	19	89.5	10.5	-	-
		1、2度あった	65	90.8	7.7	1.5	-
		まったくない	831	94.2	3.9	1.0	1.0
精神的暴力	(ウ) 何を言っても無視 されること	全 体	945	47.3	44.0	6.1	2.5
		何度もあった	54	61.1	31.5	7.4	-
		1、2度あった	193	40.4	53.9	5.2	0.5
		まったくない	665	49.0	43.3	6.5	1.2
	(エ) 「誰のおかげで食 べられるんだ」などと言 われること	全 体	945	66.5	26.5	4.4	2.6
		何度もあった	30	80.0	16.7	3.3	-
		1、2度あった	85	65.9	30.6	3.5	-
		まったくない	799	67.2	27.0	4.6	1.1
	(オ) 大声で怒鳴られる こと	全 体	945	61.1	34.6	2.0	2.3
		何度もあった	104	75.0	22.1	1.9	1.0
		1、2度あった	226	53.1	43.4	3.1	0.4
		まったくない	586	63.0	34.3	1.7	1.0
	(カ) 大切にしているも のをわざと壊されたり、 捨てられたりすること	全 体	945	81.1	14.6	1.8	2.5
		何度もあった	19	89.5	10.5	-	-
		1、2度あった	77	76.6	20.8	1.3	1.3
		まったくない	819	82.8	14.4	2.0	0.9
	(ク) 交友関係や電話、 メールなどを細かく チェックされること	全 体	945	56.9	35.4	5.1	2.5
		何度もあった	26	65.4	30.8	3.8	-
		1、2度あった	80	46.3	52.5	1.3	-
		まったくない	808	58.9	34.4	5.7	1.0
経済的暴力	(キ) 生活費を渡されな いこと	全 体	945	74.2	20.2	3.1	2.5
		何度もあった	34	85.3	11.8	2.9	-
		1、2度あった	37	81.1	18.9	-	-
		まったくない	839	75.2	20.6	3.3	0.8
性的暴力	(ケ) 望まない性行為の 強要	全 体	945	86.9	9.4	1.2	2.5
		何度もあった	29	93.1	6.9	-	-
		1、2度あった	70	90.0	10.0	-	-
		まったくない	812	88.4	9.5	1.4	0.7
	(コ) 避妊に非協力	全 体	945	77.6	17.6	2.2	2.6
		何度もあった	18	88.9	5.6	5.6	-
		1、2度あった	50	82.0	16.0	2.0	-
		まったくない	839	78.9	18.1	2.1	0.8

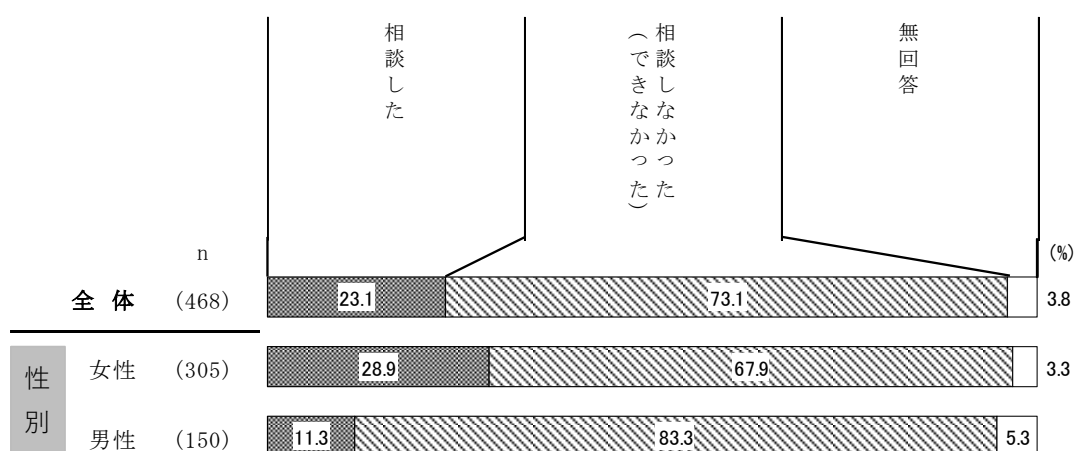
1 番目に高い

(4) 被害の相談の有無

(問20 (ア) ~ (サ) のうち1つでも「1. 何度もあった」「2. 1、2度あった」とお答えした方に)  
 問20-1 これまでに相手から受けた行為について誰かに伝えたり、相談したりしましたか。  
 (〇は1つ)

被害の相談の有無についてみると、「相談しなかった (できなかつた)」が73.1%、「相談した」が23.1%となっている。

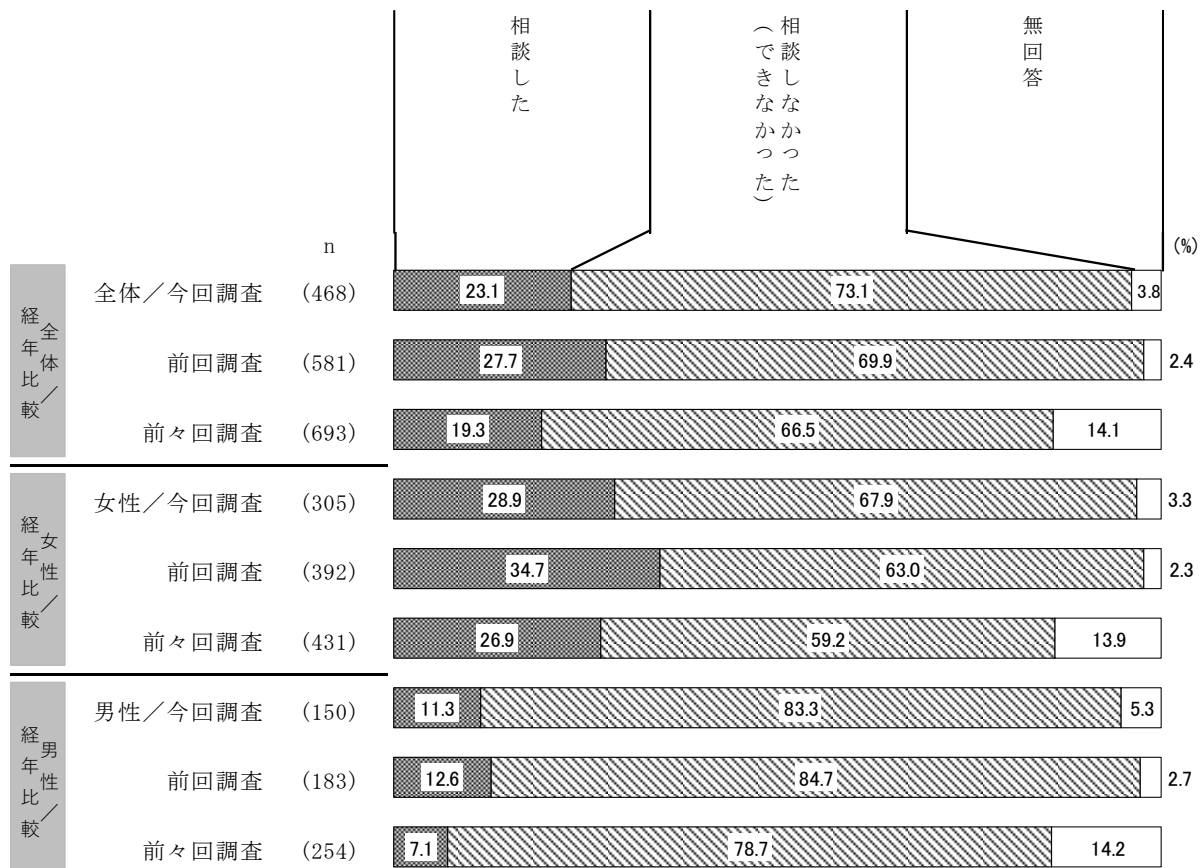
性別にみると、男女ともに「相談しなかった (できなかつた)」が最も高くなっているが、男性(83.3%)が女性(67.9%)より15.4ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「相談しなかった（できなかった）」は増加しており、前々回調査から6.6ポイント、前回調査から3.2ポイント増加している。

性別にみると、「相談しなかった（できなかった）」は女性で同じ傾向がうかがえ、前々回調査から8.7ポイント、前回調査から4.9ポイント増加している。一方、男性には前回調査から大きな変化は見られない。



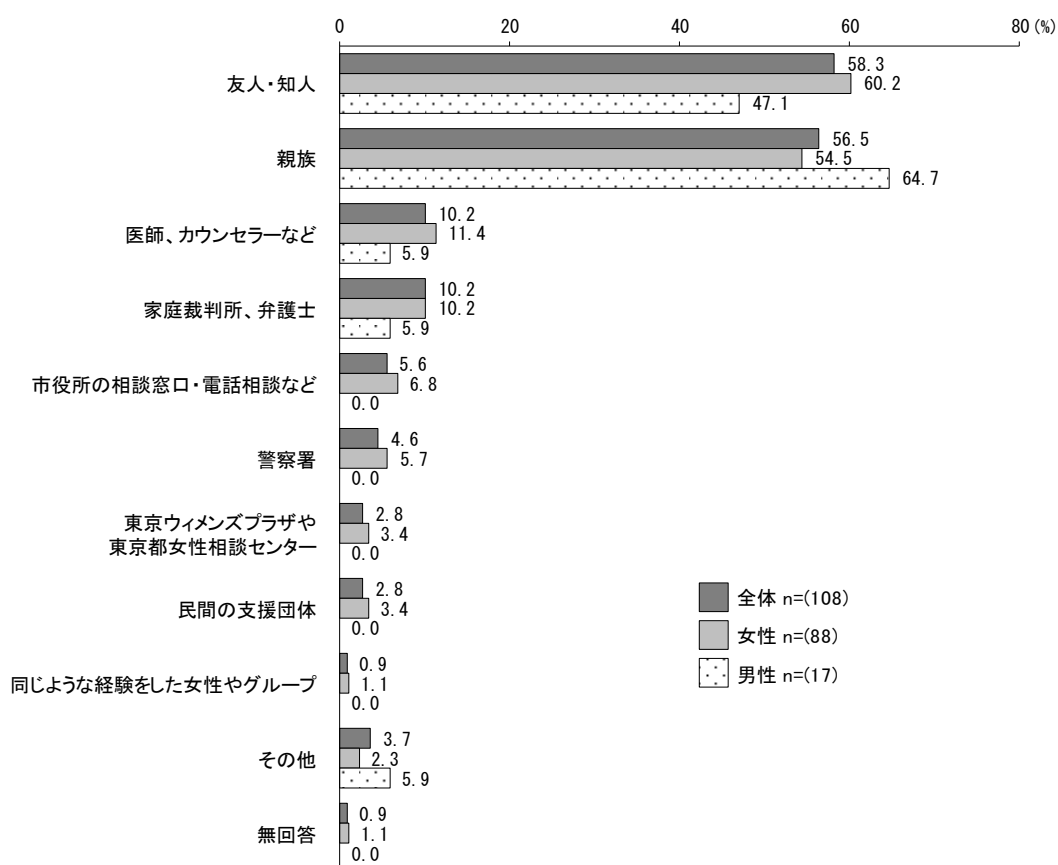
## (5) 相談先

(問20-1で「1. 相談した」とお答えした方に)

問20-1-1 誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

相談先についてみると、「友人・知人」が58.3%で最も高く、次いで、「親族」(56.5%)、「医師、カウンセラーなど」、「家庭裁判所、弁護士」(10.2%)となっている。

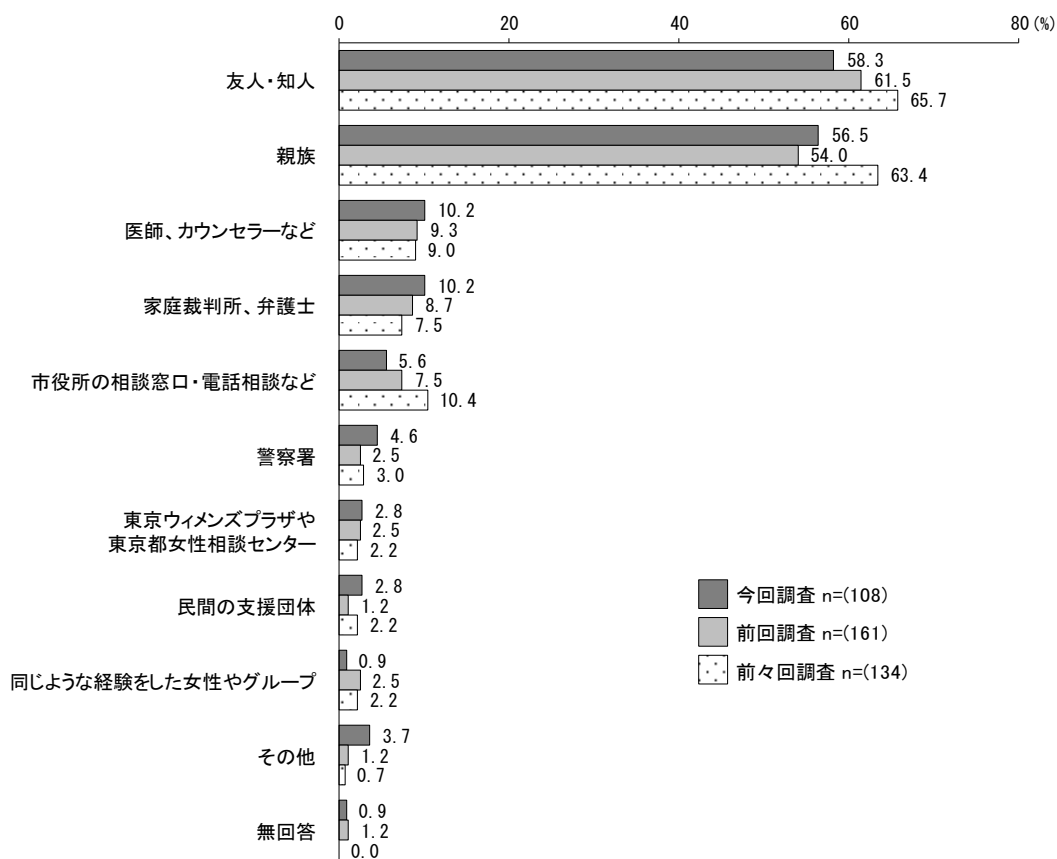
性別にみると、女性はすべての項目で回答が見られたが、男性は「友人・知人」、「親族」、「医師、カウンセラーなど」、「家庭裁判所、弁護士」にのみ回答があった。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「友人・知人」、「市役所の相談窓口・電話相談など」が減少している。「友人・知人」は前々回調査から7.4ポイント、前回調査から3.2ポイント減少し、「市役所の相談窓口・電話相談など」は前々回調査から4.8ポイント、前回調査から1.9ポイント減少している。一方、「家庭裁判所・弁護士」は増加しており、前々回調査から2.7ポイント、前回調査から1.5ポイント増加している。

相談先については、大きな変化は見られない。



## (6) 相談しなかった理由

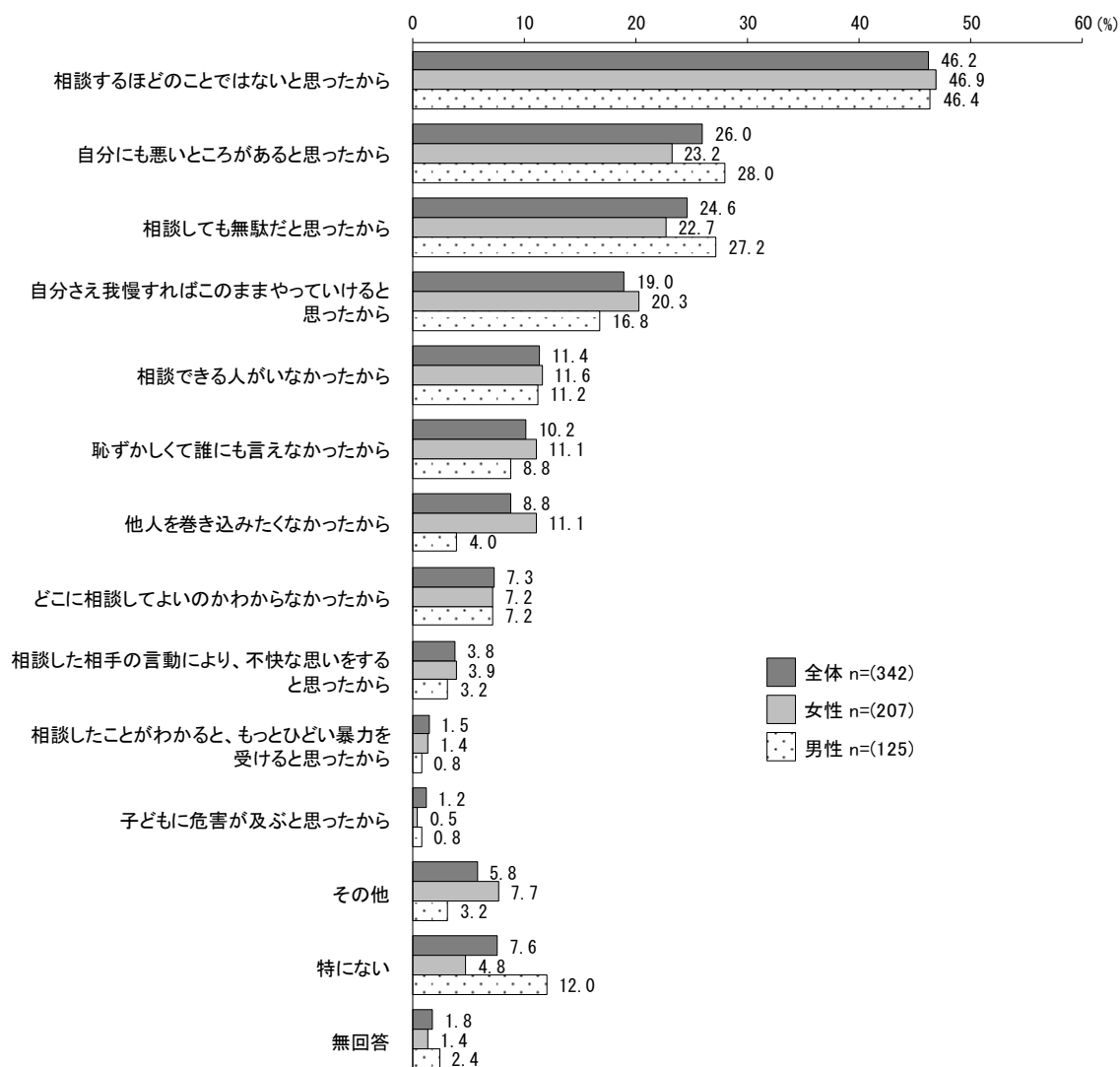
(問20-1で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えした方

問20-1-2 誰(どこ)にも相談しなかった(できなかった)理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

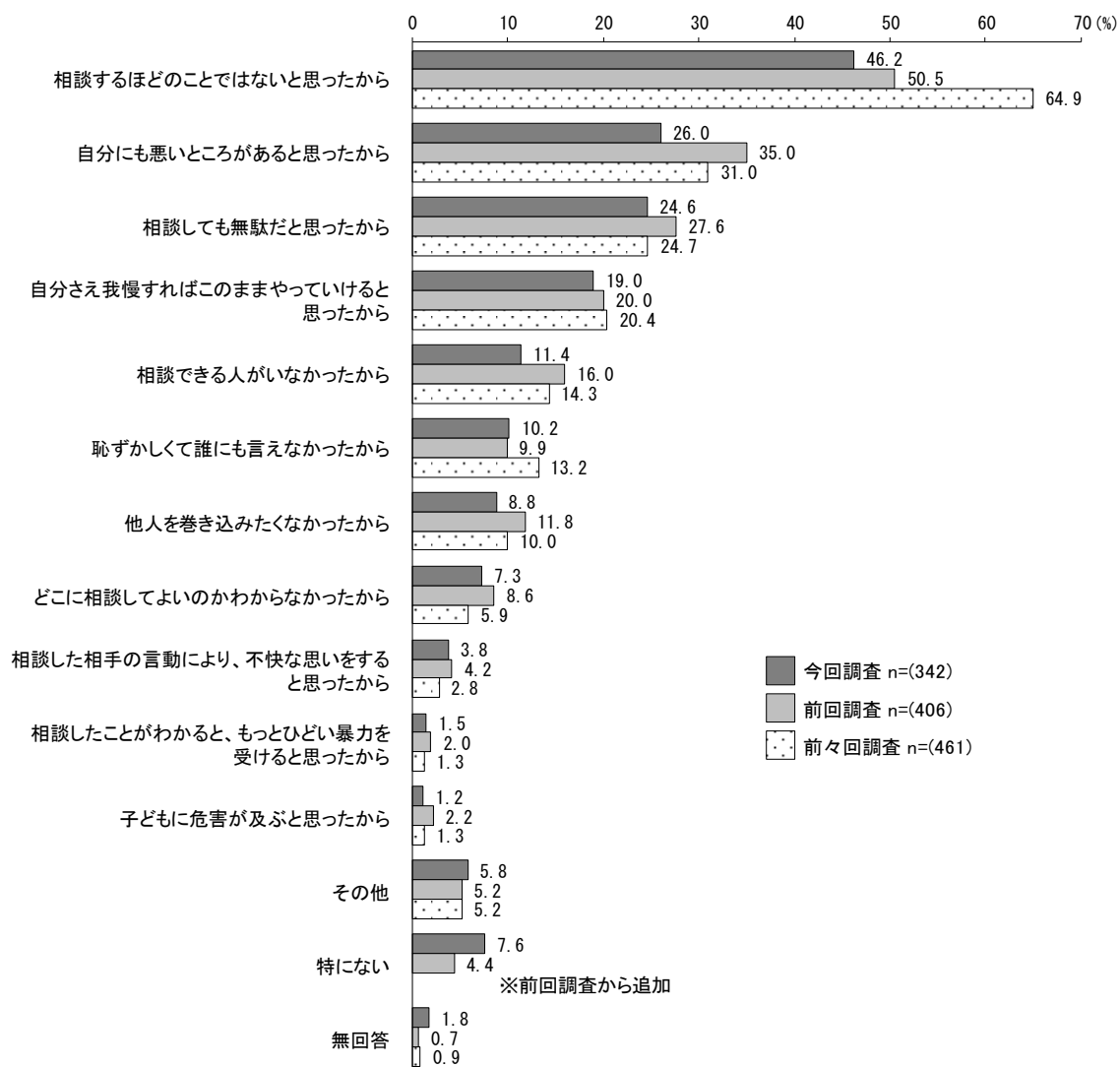
相談しなかった理由についてみると、「相談するほどのことではないと思ったから」が46.2%で最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.0%)、「相談しても無駄だと思ったから」(24.6%)となっている。

性別にみると、「他人を巻き込みたくなかったから」は女性(11.1%)が男性(4.0%)より7.1ポイント、「自分さえ我慢すればこのままやっていけると思ったから」は女性(20.3%)が男性(16.8%)より3.5ポイント高くなっている。一方、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性(28.0%)が女性(23.2%)より4.8ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」は男性(27.2%)が女性(22.7%)より4.5ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「相談するほどのことではないと思ったから」が減少しており、前々回調査から18.7ポイント、前回調査から4.3ポイント減少している。また、「自分にも悪いところがあると思ったから」は前回調査から9.0ポイント減少している。相談しなかった理由については、大きな変化は見られない。

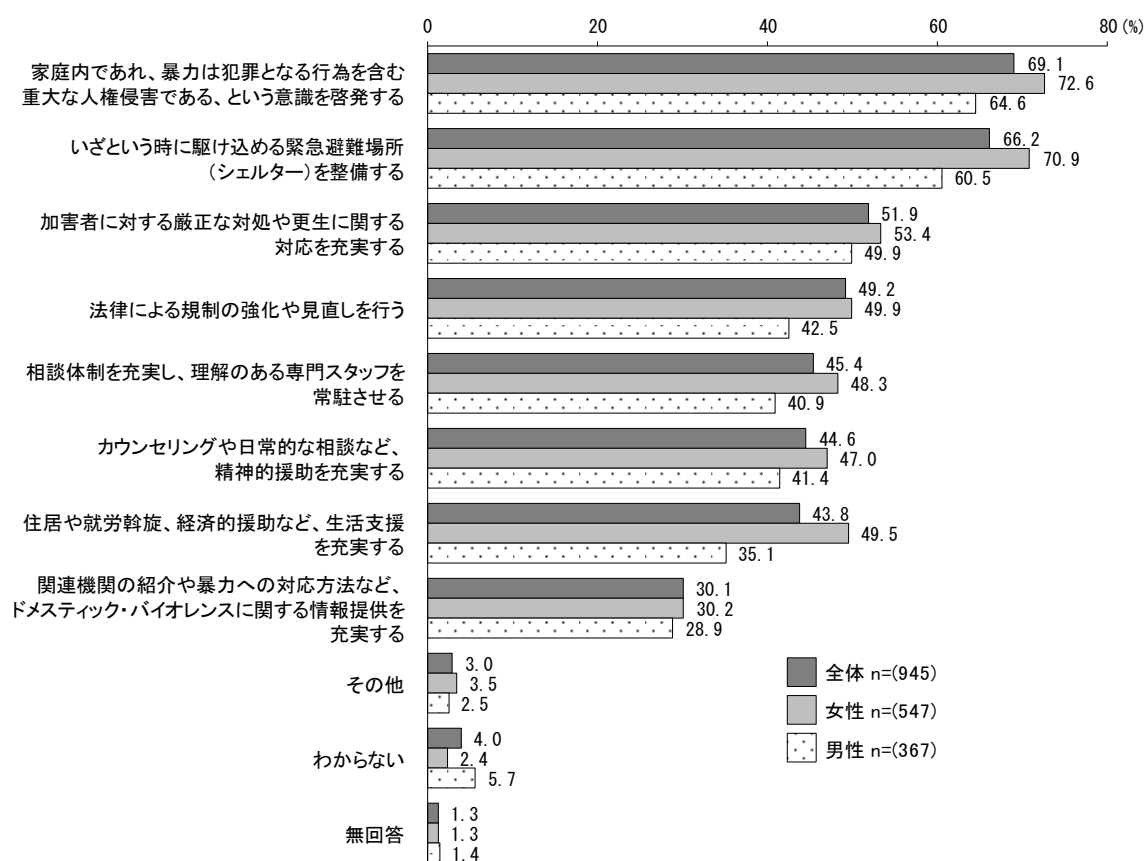


## (7) DVに対する支援や援助で充実すべきもの

問21 「ドメスティック・バイオレンス（DV）（※）」に対する対策や援助として、特にどのようなものを充実すべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

DVに対する支援や援助で充実すべきものについてみると、「家庭内であれ、暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害である、という意識を啓発する」が69.1%で最も高く、次いで、「いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する」（66.2%）、「加害者に対する厳正な対処や更生に関する対応を充実する」（51.9%）となっている。

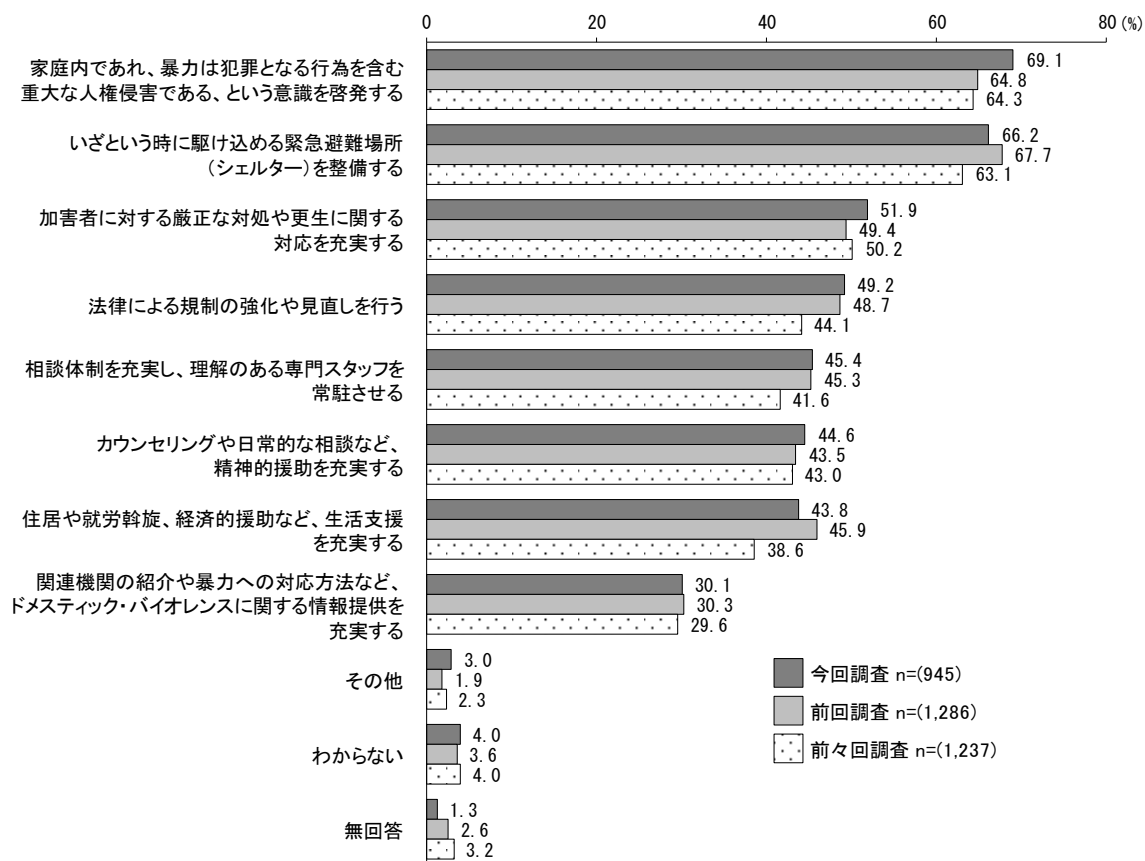
性別にみると、「住居や就労斡旋、経済的援助など、生活支援を充実する」は女性（49.5%）が男性（35.1%）より14.4ポイント、「いざという時に駆け込める緊急避難場所（シェルター）を整備する」は女性（70.9%）が男性（60.5%）より10.4ポイント高くなっている。



※『ドメスティック・バイオレンス（DV）』とは、配偶者や恋人など親密な関係にある、または過去にあった人からふるわれる暴力（身体的・心理的・性的）、という意味で使われています。

■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「家庭内であれ、暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害である、という意識を啓発する」、「法律による規制の強化や見直しを行う」、「相談体制を充実し、理解のある専門スタッフを常駐させる」、「カウンセリングや日常的な相談など、精神的援助を充実する」が増加している。前回調査と比較すると、「家庭内であれ、暴力は犯罪となる行為を含む重大な人権侵害である、という意識を啓発する」が4.3ポイント、「加害者に対する厳正な対処や更生に関する対応を充実する」が2.5ポイント増加している。



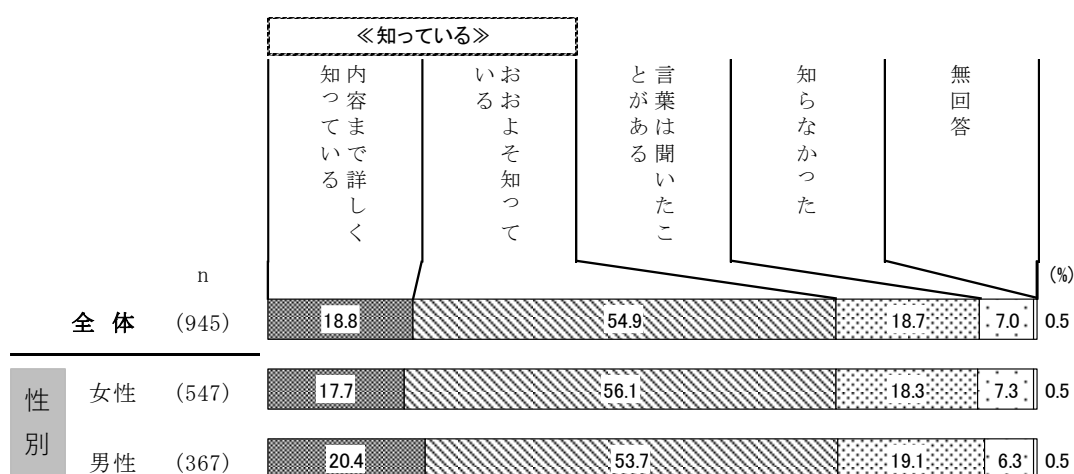
## 8. 性の多様性について

### (1) 性的マイノリティ（性的少数者）という言葉の認知状況

問22 性的マイノリティ（性的少数者）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

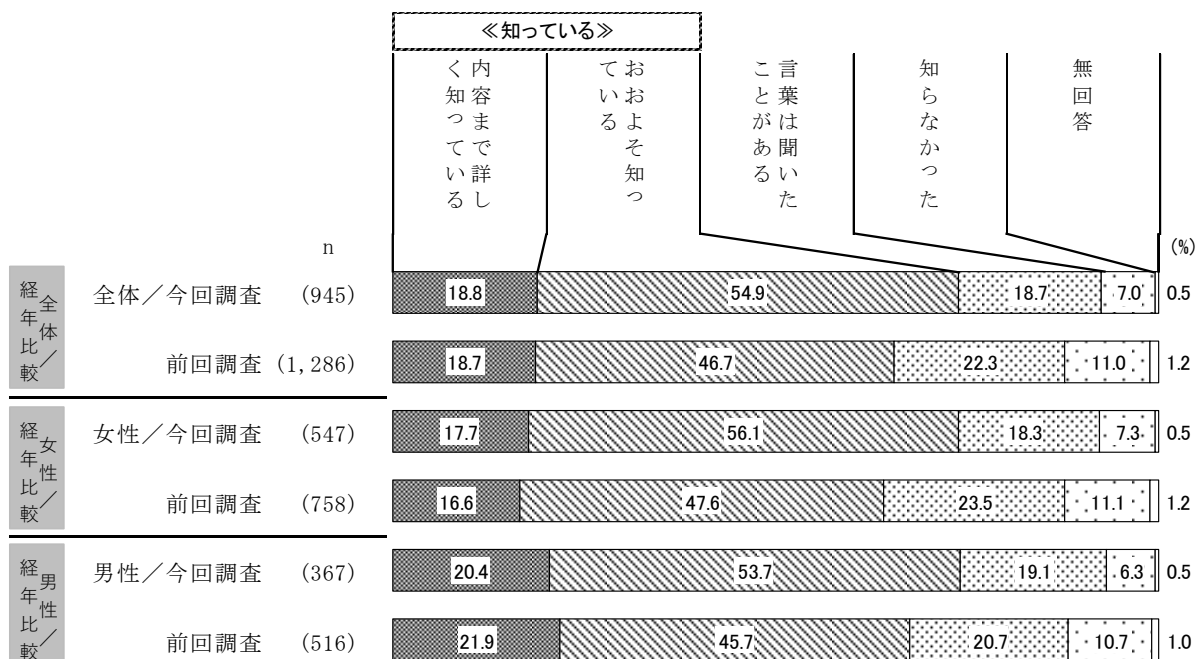
性的マイノリティ（性的少数者）という言葉の認知状況についてみると、「内容まで詳しく知っている」と「おおよそ知っている」を合わせた《知っている》は73.7%と7割を超えている。

性別にみると、男女ともに「おおよそ知っている」が最も高くなっているが、女性は次いで「知らなかった」（18.3%）が高く、男性は「内容まで詳しく知っている」（20.4%）が高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「知っている」が8.3ポイント増加しており、「知らなかった」が3.6ポイント減少している。

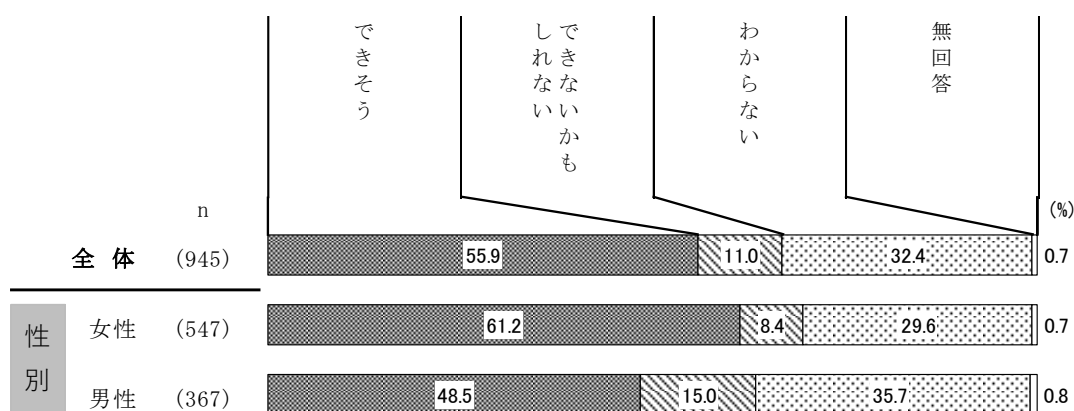


(2) 身近な人から同性愛者等であると打ち明けられた場合の接し方

問23 身近な人から同性愛者やトランスジェンダーなどであると打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。(〇は1つ)

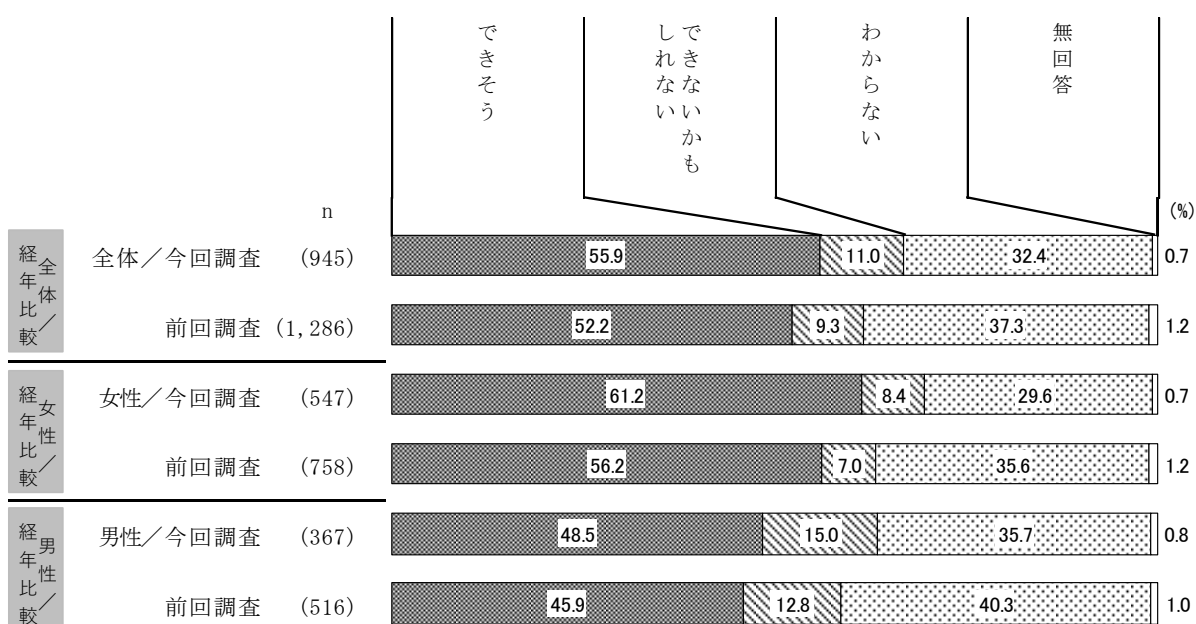
身近な人から同性愛者等であると打ち明けられた場合の接し方についてみると、「できそう」が55.9%で最も高く、次いで、「わからない」(32.4%)、「できないかもしれない」(11.0%)となっている。

性別にみると、男女ともに「できそう」が最も高くなっているが、女性(61.2%)が男性(48.5%)より12.7ポイント高くなっている。一方、「できないかもしれない」は男性(15.0%)が女性(8.0%)より6.6ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「できそう」が3.7ポイント増加、「できないかもしれない」が1.7ポイント増加、「わからない」が4.9ポイント減少している。

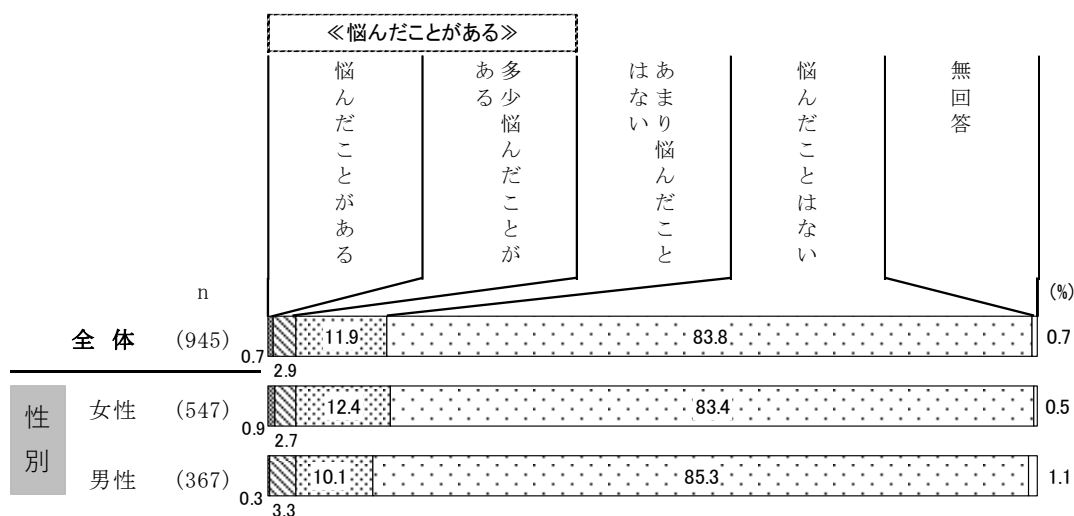


(3) 自分の性別や恋愛対象となる性別について悩んだ経験

問24 今まで自分の性別や恋愛対象となる性別などについて悩んだことはありますか。  
(○は1つ)

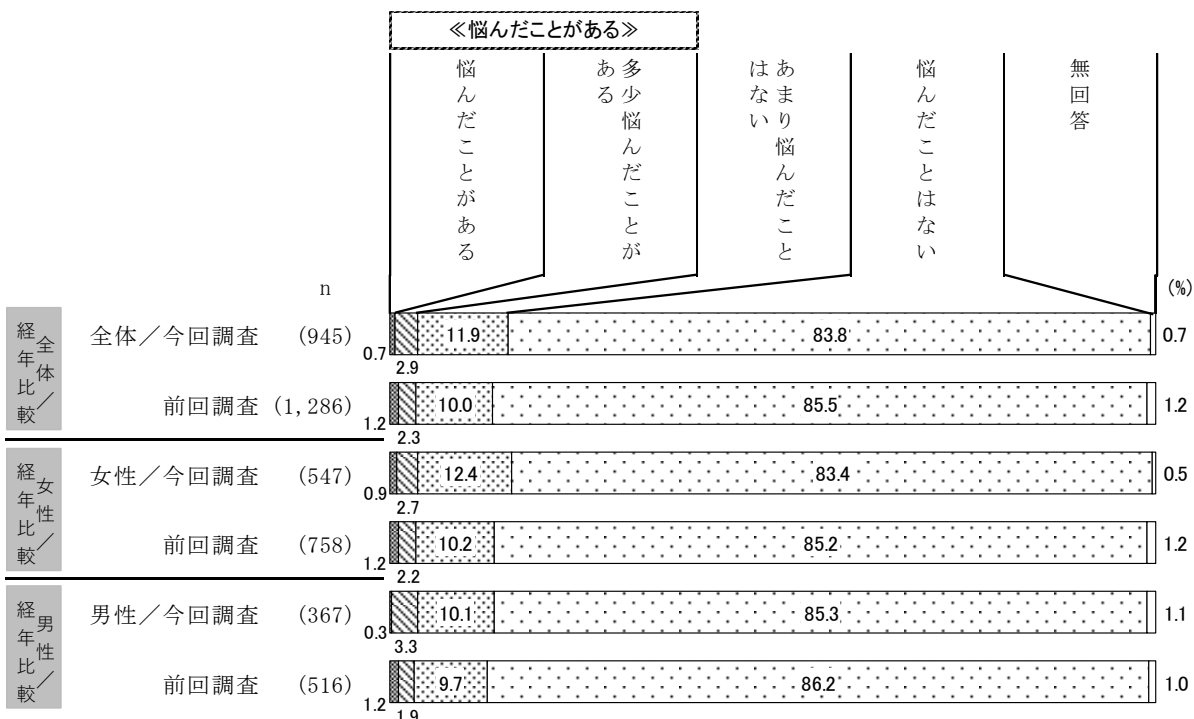
自分の性別や恋愛対象となる性別について悩んだ経験についてみると、「悩んだことはない」が83.8%で最も高く、次いで、「あまり悩んだことはない」(11.9%)となっている。「多少悩んだことがある」と「悩んだことがある」を合わせた《悩んだことがある》は3.6%となっている。

性別にみても同様の傾向がうかがえ、男女間に大きな違いはみられない。



■経年比較

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。

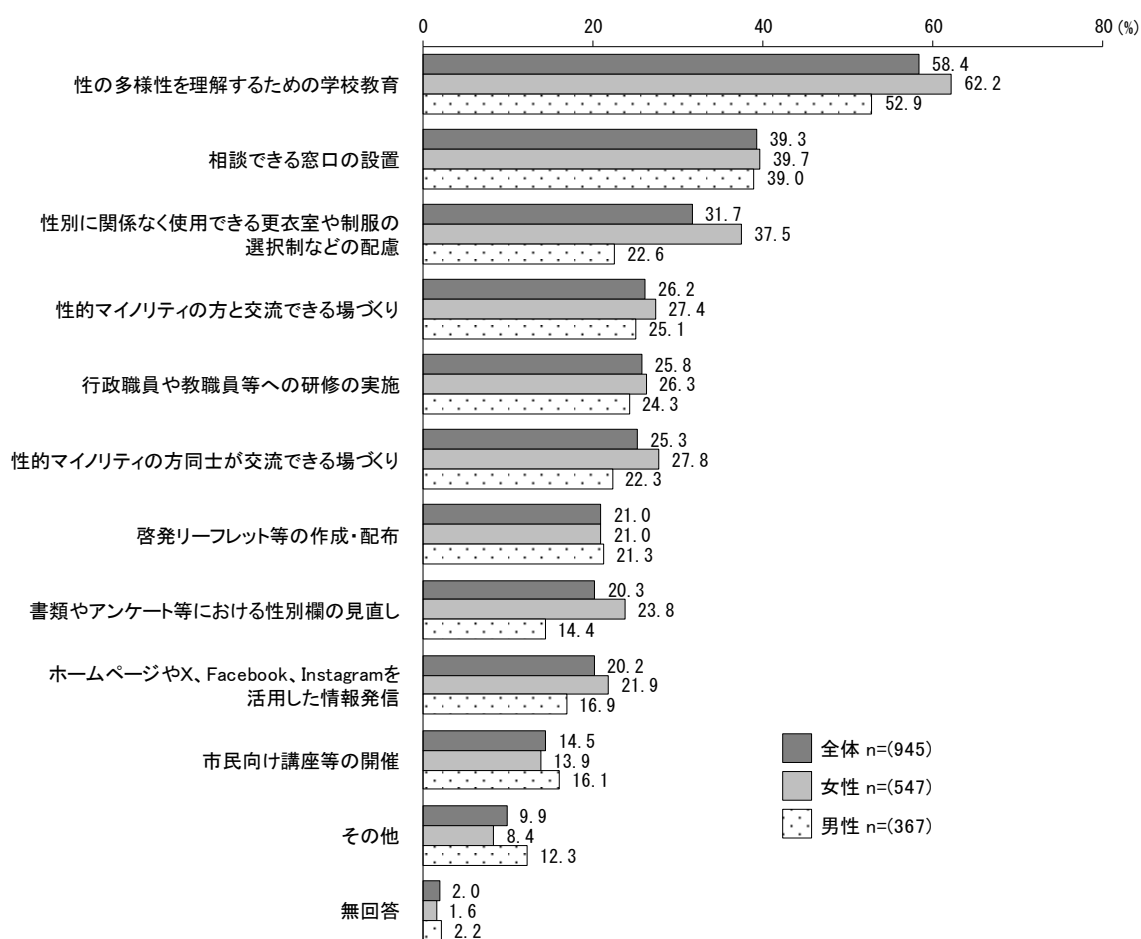


## (4) 性的マイノリティの人々が社会で生活しやすくするために必要なこと

問25 性的マイノリティの人々に対する偏見がなくなり、社会で生活しやすくするためには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

性的マイノリティの人々が社会で生活しやすくするために必要なことについてみると、「性の多様性を理解するための学校教育」が58.4%で最も高く、次いで、「相談できる窓口の設置」(39.3%)、「性別に関係なく使用できる更衣室や制服の選択制などの配慮」(31.7%)となっている。

性別にみると、「市民向け講座等の開催」、「啓発リーフレット等の作成・配布」以外は全ての項目で女性の方が高くなっている。特に、「性別に関係なく使用できる更衣室や制服の選択制などの配慮」では女性(37.5%)が男性(22.6%)より14.9ポイント、「書類やアンケート等における性別欄の見直し」では女性(23.8%)が男性(14.4%)より9.4ポイント、「性の多様性を理解するための学校教育」では女性(62.2%)が男性(52.9%)より9.3ポイント高くなっている。



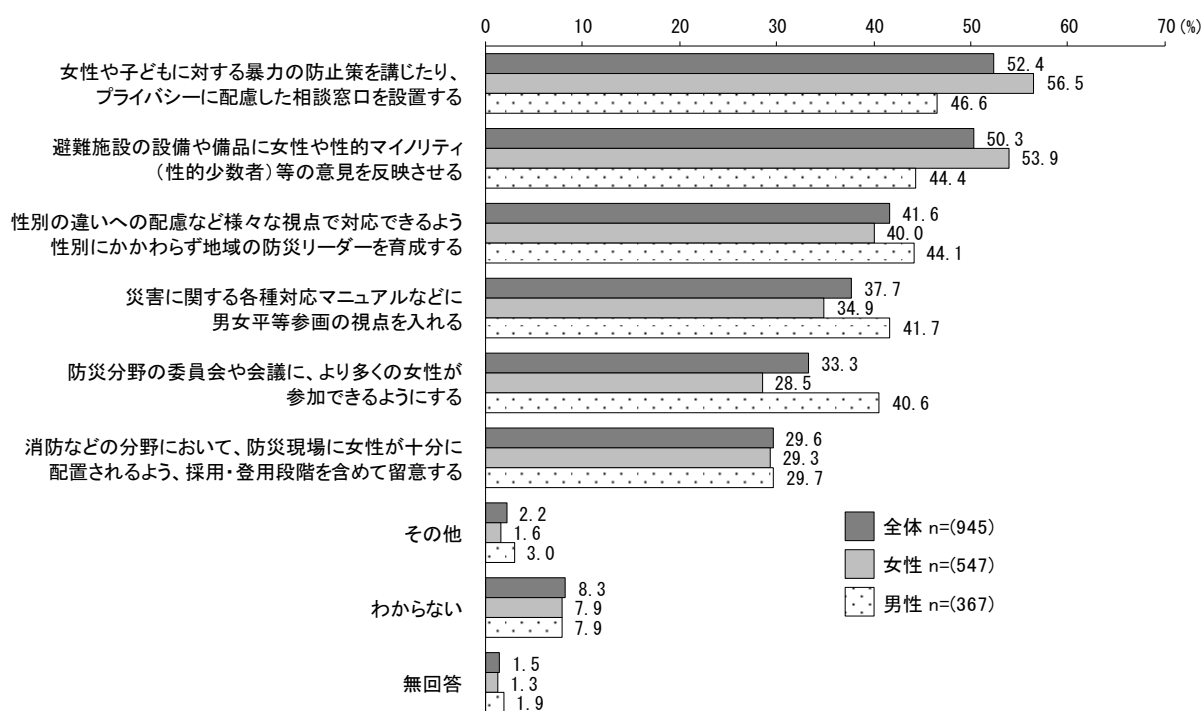
## 9. 防災対応について

### (1) 災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対策で重要なこと

問26 災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

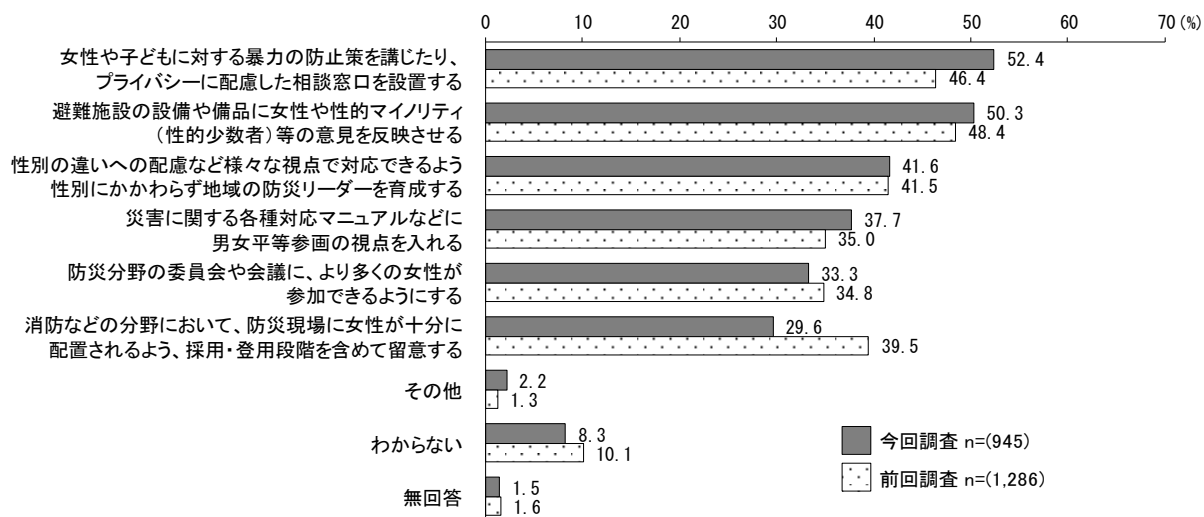
災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対策で重要なことについてみると、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」が52.4%で最も高く、次いで、「避難施設の設備や備品に女性や性的マイノリティ（性的少数者）等の意見を反映させる」(50.3%)、「性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」(41.6%)となっている。

性別にみると、男女とも「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」が最も高くなっている。「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする」は男性(40.6%)が女性(28.5%)より12.1ポイント高くなっている一方、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」は女性(56.5%)が男性(46.6%)より9.9ポイント、「避難施設の設備や備品に女性や性的マイノリティ（性的少数者）等の意見を反映させる」は女性(53.9%)が男性(44.4%)より9.5ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」が6.0ポイント増加し、「消防などの分野において、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」が9.9ポイント減少している。



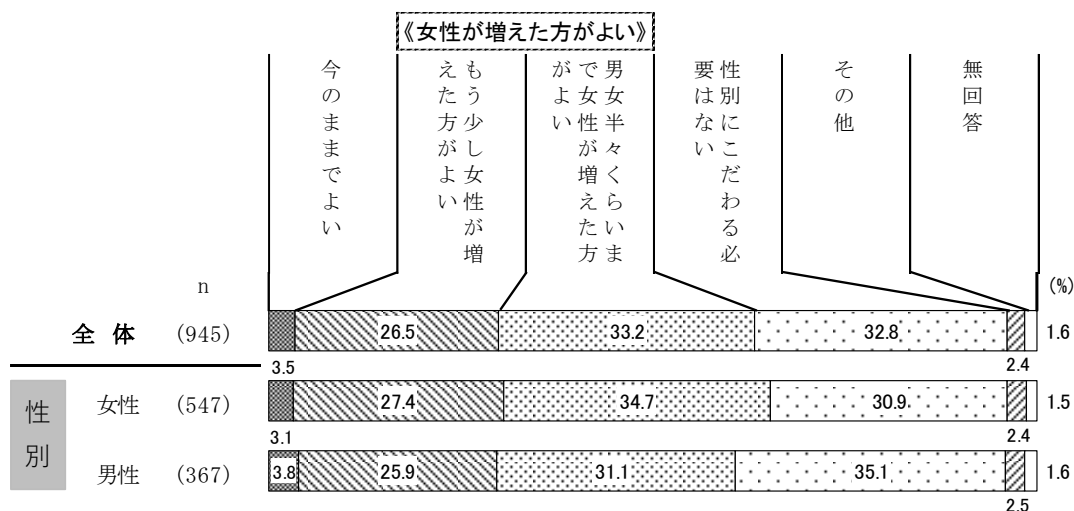
## 10. 女性活躍推進について

### (1) 女性の委員比率の考え

問27 まちづくりや福祉など、市のこれからの政策や方針を決定する場の一つに審議会があります。町田市で設けている審議会などの女性委員の比率は30.7%です（2025年4月1日現在）。このことについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

女性の委員比率の考えについてみると、「もう少し女性が増えた方がよい」と「男女半々くらいまで女性が増えた方がよい」を合わせた《女性が増えた方がよい》が59.7%と約6割を占めている。また、「性別にこだわる必要はない」（32.8%）は3割以上となっている。

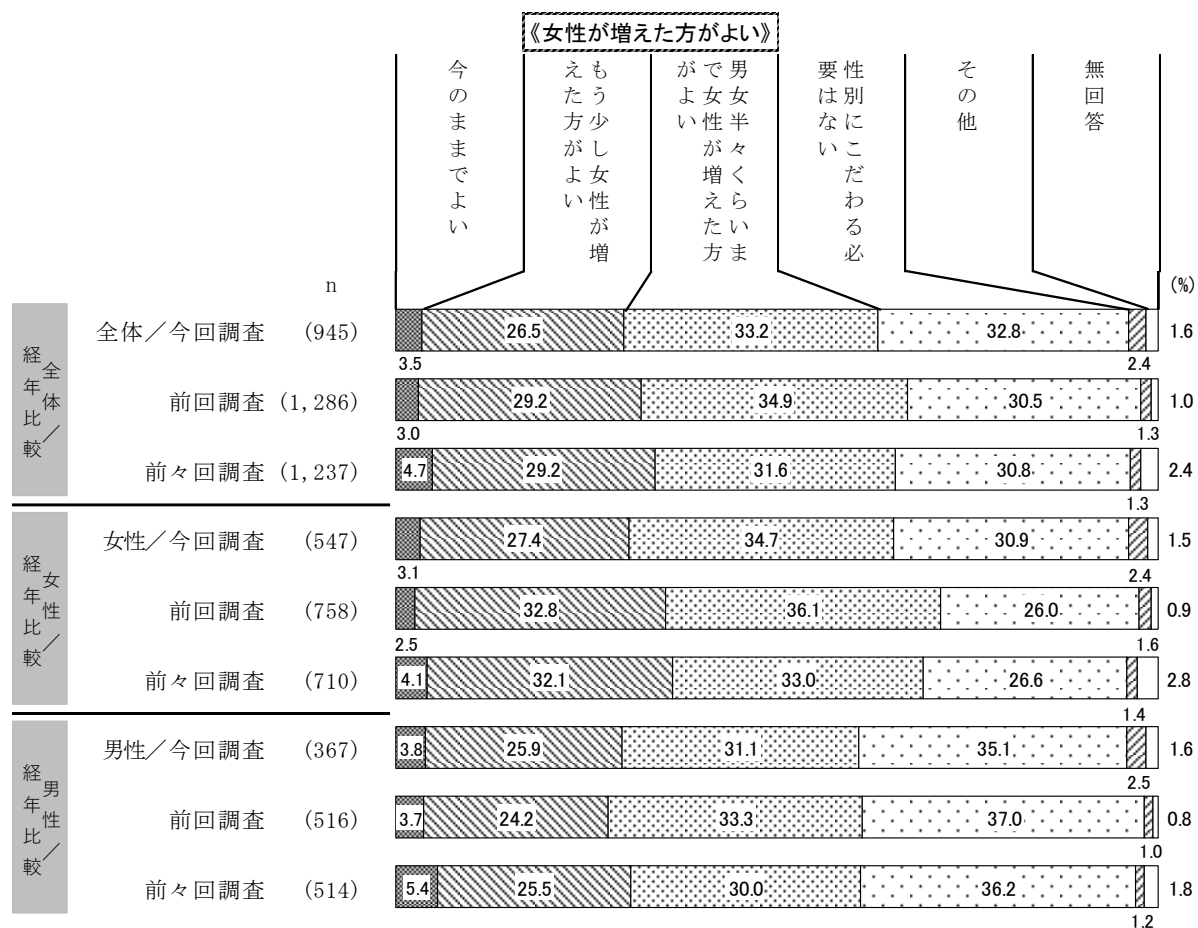
性別にみると、《女性が増えた方がよい》は女性（62.1%）が男性（57.0%）を5.1ポイント上回っている一方で、「性別にこだわる必要はない」は男性（35.1%）が女性（30.9%）より4.2ポイント高くなっている。



■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて《女性が増えた方がよい》が4.4ポイント減少し、「性別にこだわる必要がない」が2.3ポイント増加している。

性別にみると、「性別にこだわる必要がない」で前回調査から女性が4.9ポイント増加している。一方、男性は前回調査から大きな変化は見られない。

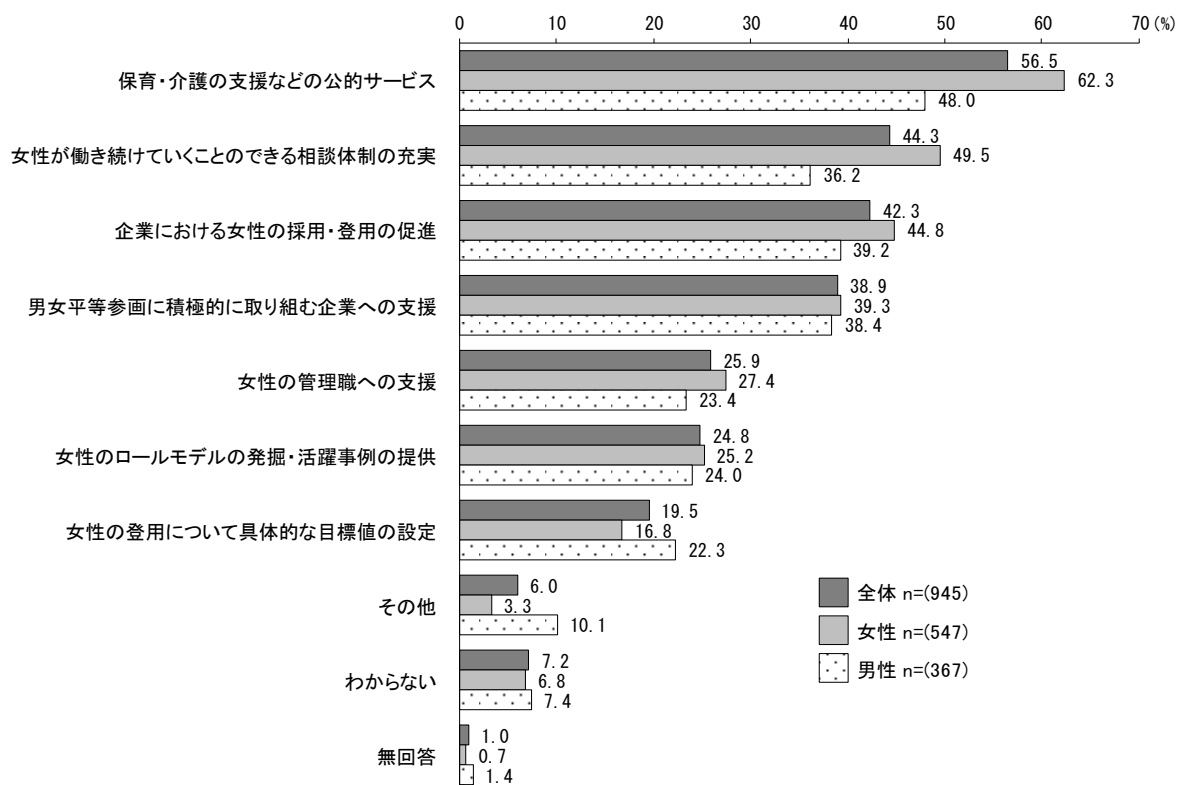


(2) 女性の参画を促すのに必要な支援

問28 働く場における女性の管理職への登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

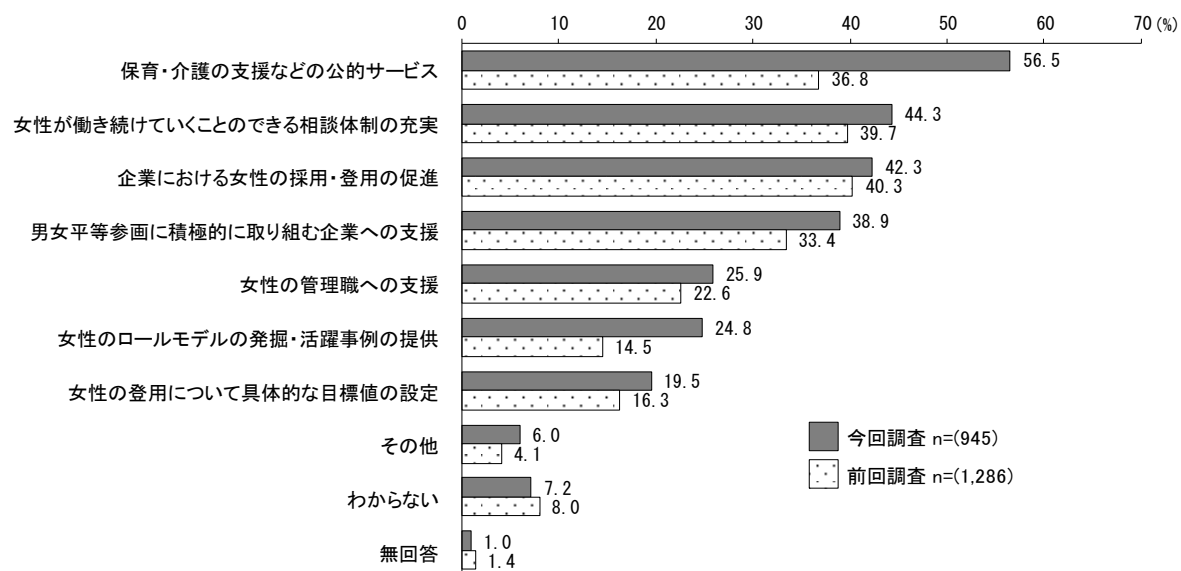
女性の参画を促すのに必要な支援についてみると、「保育・介護の支援などの公的サービス」が56.5%で最も高く、次いで、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」(44.3%)、「企業における女性の採用・登用の促進」(42.3%)、となっている。

性別にみると、女性は「保育・介護の支援などの公的サービス」(62.3%)が最も高く、男性(48.0%)より14.3ポイント高くなっている。また、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」は女性(49.5%)が男性(36.2%)より13.3ポイント高くなっている。



### ■経年比較

前回調査と比較すると、全ての項目で前回は上回っており、特に「保育・介護の支援などの公的サービス」では19.7ポイント増加している。次いで、「女性のロールモデルの発掘・活躍事例の提供」が10.3ポイント、「男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援」が5.5ポイント増加している。

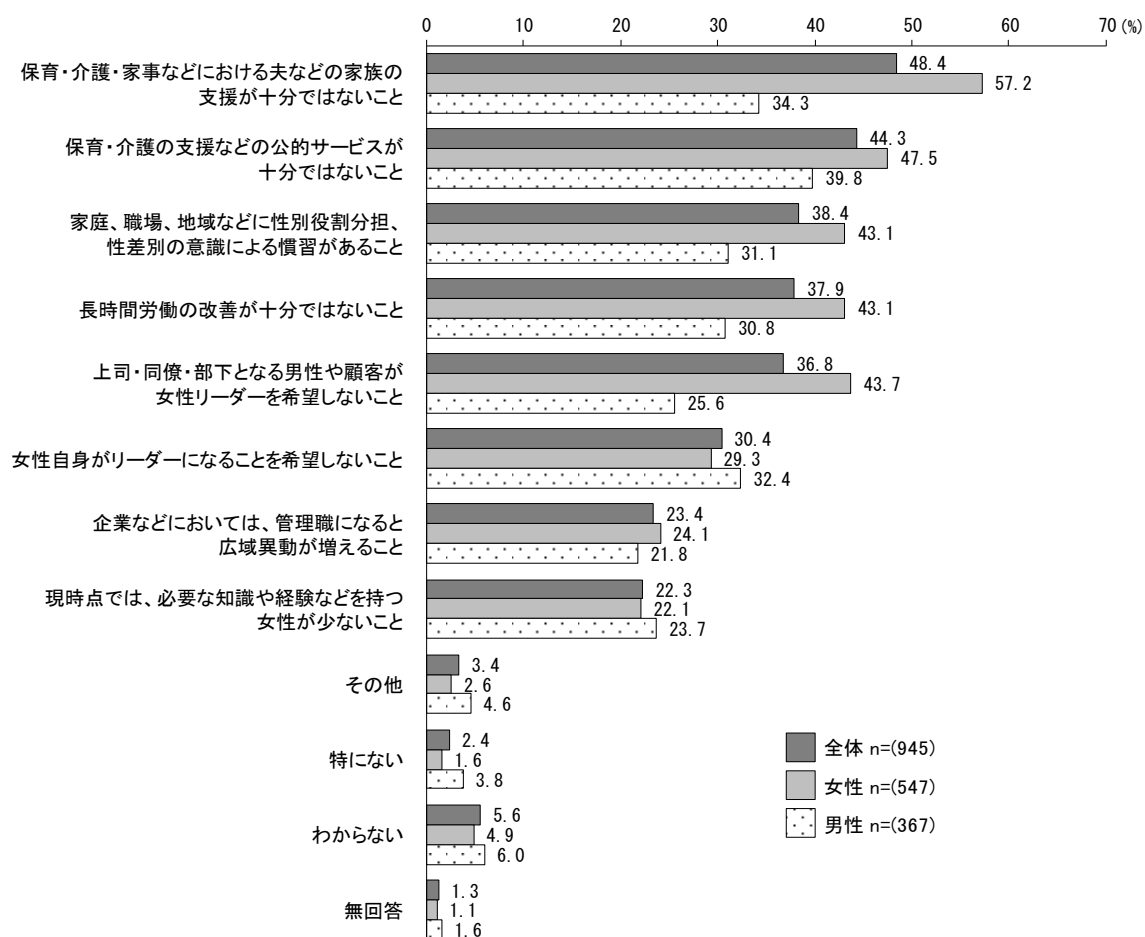


(3) 女性リーダーを増やす際の障害

問29 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものはいくつありますか。(〇はいくつでも)

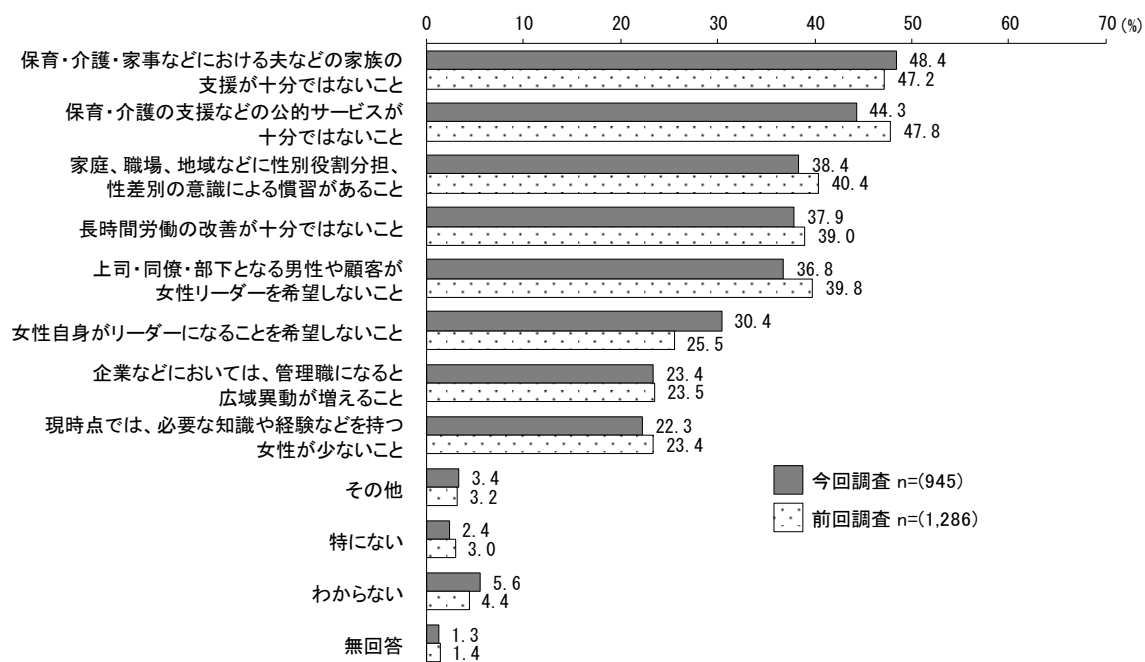
女性リーダーを増やす際の障害についてみると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が48.4%で最も高く、次いで、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(44.3%)、「家庭、職場、地域などに性別役割分担、性差別の意識による慣習があること」(38.4%)、「長時間労働の改善が十分でないこと」(37.9%)となっている。

性別にみると、女性で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(57.2%)、男性で「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(39.8%)が最も高くなっている。「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」は女性(57.2%)が男性(34.3%)より22.9ポイント、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」は女性(43.7%)が男性(25.6%)より18.1ポイント高くなっている。



■経年比較

前回調査と比較すると、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が4.9ポイント増加しており、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が3.5ポイント減少している。

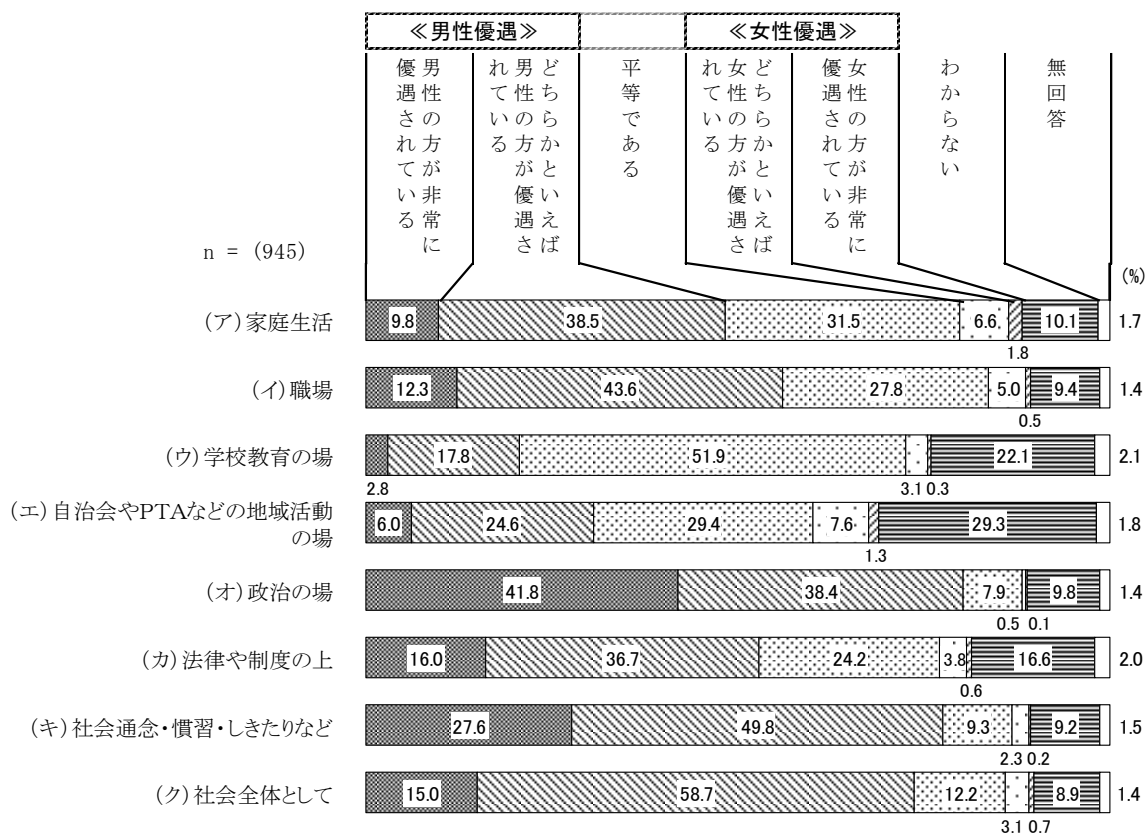


## 1.1. 男女平等について

### (1) 男女の平等感

問30 次にあげる分野において女性と男性が平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについて、1～6のうちあなたの感じ方に近い番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

男女の平等感についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》が「(オ) 政治の場」(80.2%)、「(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど」(77.4%)、「(ク) 社会全体として」(73.7%)で7割以上と高くなっている。「平等である」は「(ウ) 学校教育の場」(51.9%)で5割以上と高くなっている。また、「(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場」で、《男性優遇》(30.6%)と「平等である」(29.4%)が同程度となっている。

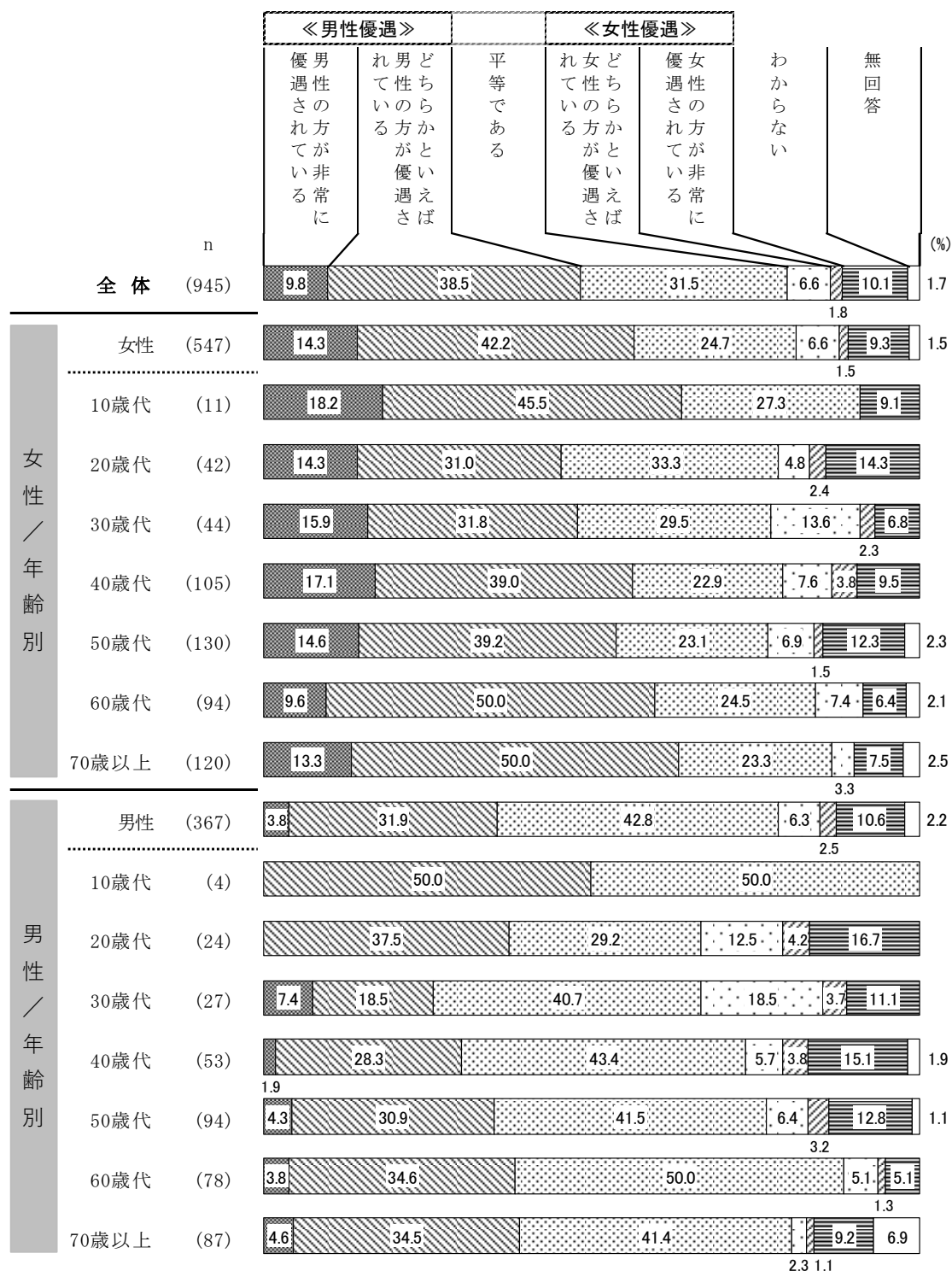


■性別・性年齢別

(ア) 家庭生活

家庭生活における男女の平等感について、性別にみると、女性で《男性優遇》(56.5%)が5割超、男性では「平等である」(42.8%)が最も高くなっている。

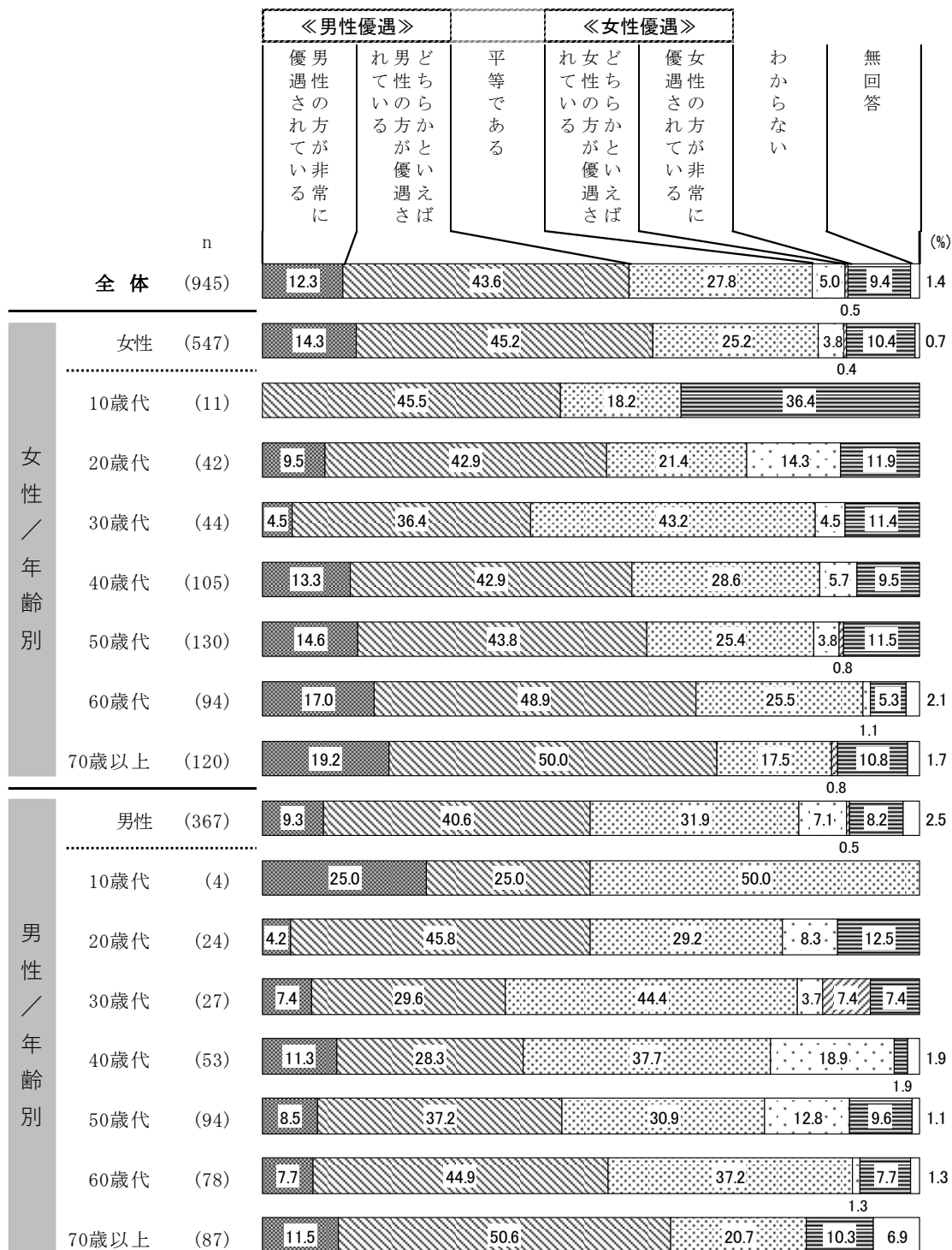
性年齢別にみると、女性は20歳代、30歳代を除くすべての年代で《男性優遇》が過半数を占めており、すべての年代で男性を上回っている。また、男性は20歳代を除くすべての年代で「平等である」が4割以上となっており、女性を上回っている。



(イ) 職場

職場における男女の平等感について、性別にみると、男女ともに《男性優遇》が約過半数を占めているが、女性（59.5%）が男性（49.9%）より9.6ポイント高くなっている。

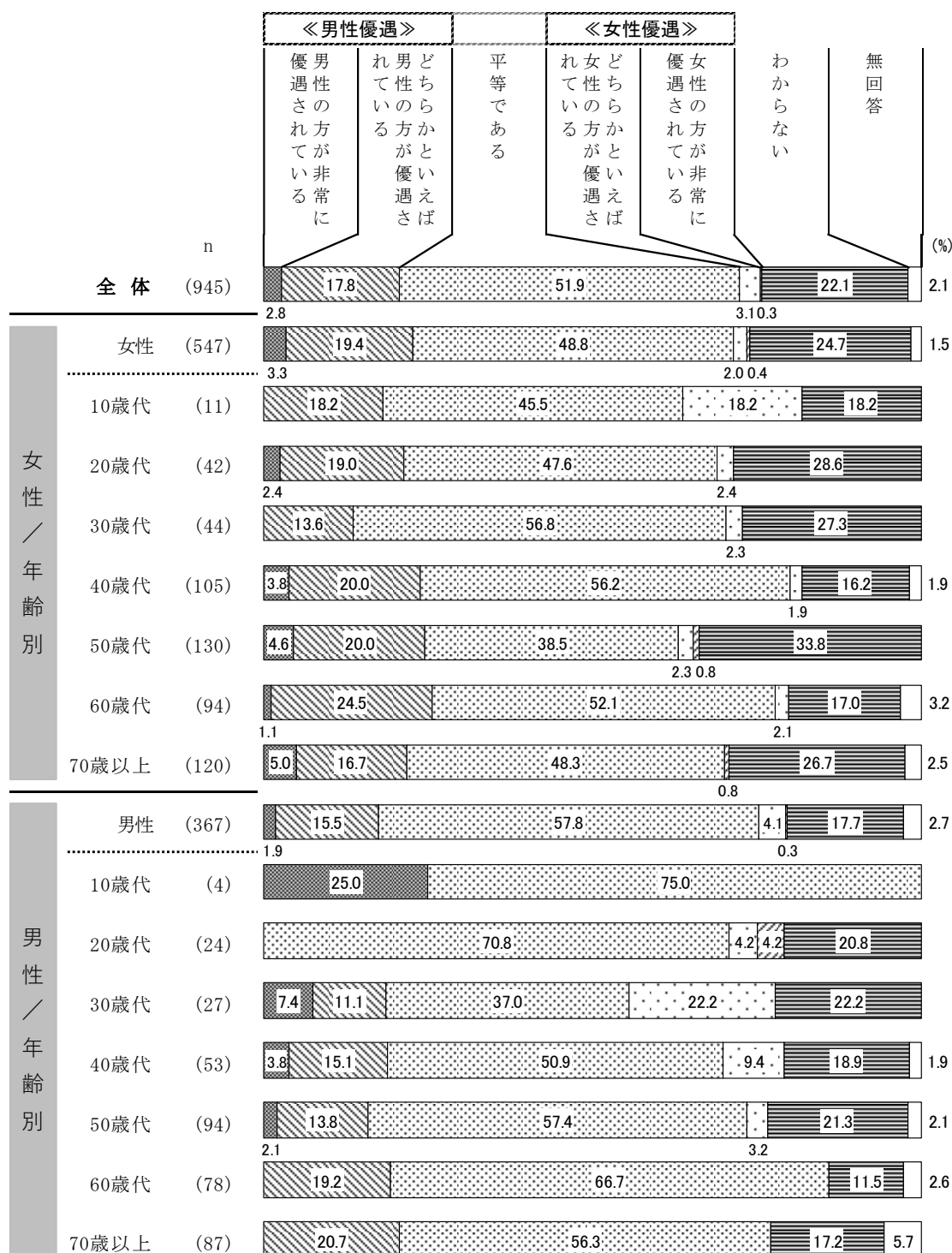
性年齢別にみると、《男性優遇》は30歳代を除き女性のすべての年代で過半数を占めており、すべての年代で女性が男性を上回っている。一方、「平等である」はすべての年代で男性が女性より高く、男性の30歳代では4割半ばと最も高くなっている。



(ウ) 学校教育の場

学校教育の場における男女の平等感について、性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっているが、男性（57.8%）が女性（48.8%）を9.0ポイント上回っている。

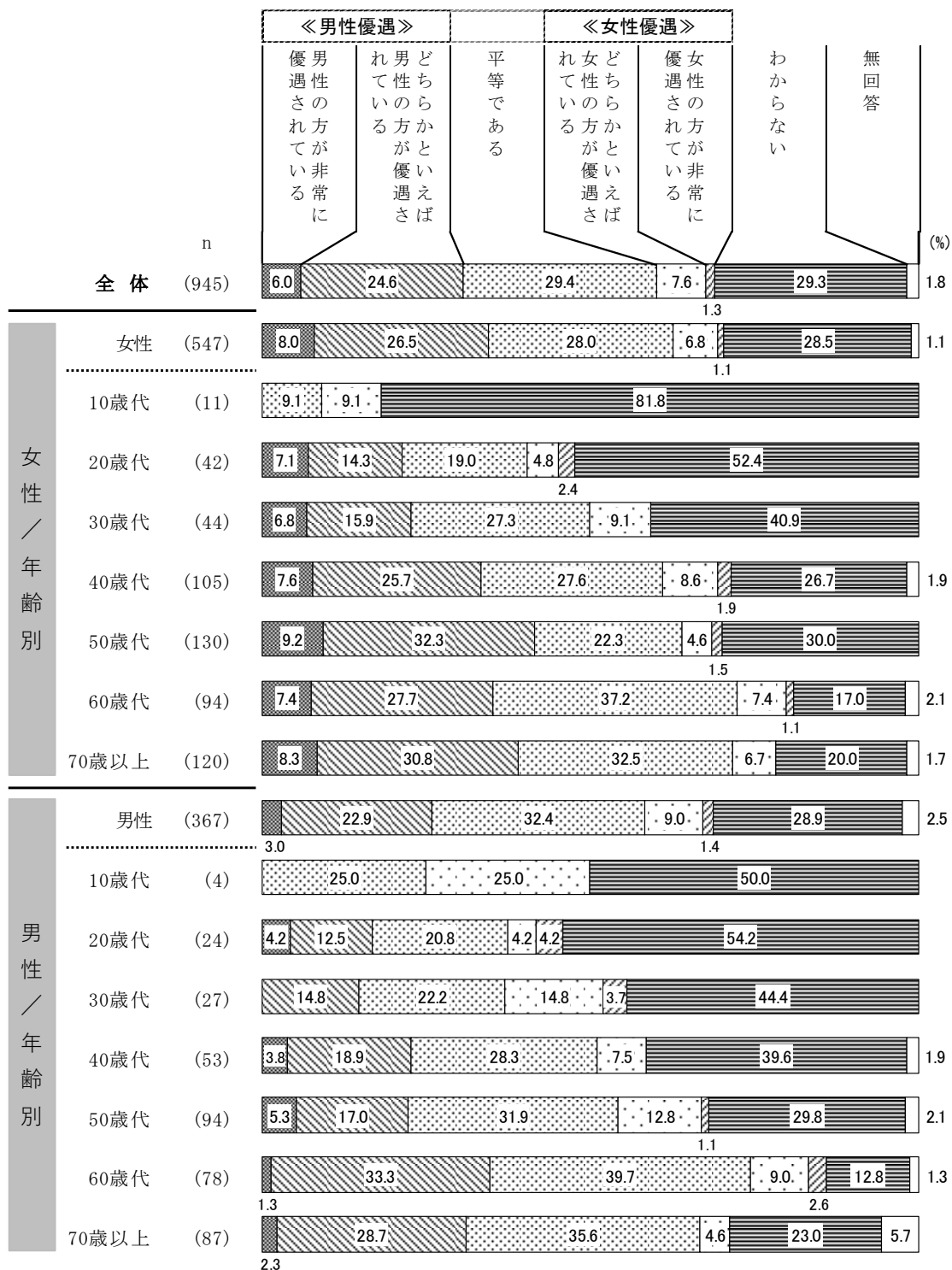
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「平等である」が最も高くなっているが、30歳代を除きすべての年代で男性が女性を上回っており、特に20歳代で23.2ポイント、50歳代で18.9ポイント高くなっている。30歳代では女性（56.8%）が男性（37%）より19.8ポイント高くなっている。



(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場

自治会やPTAなどの地域活動の場における男女の平等感について、性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっている。《男性優遇》は、女性（34.5%）が男性（25.9%）より8.6ポイント高くなっている。

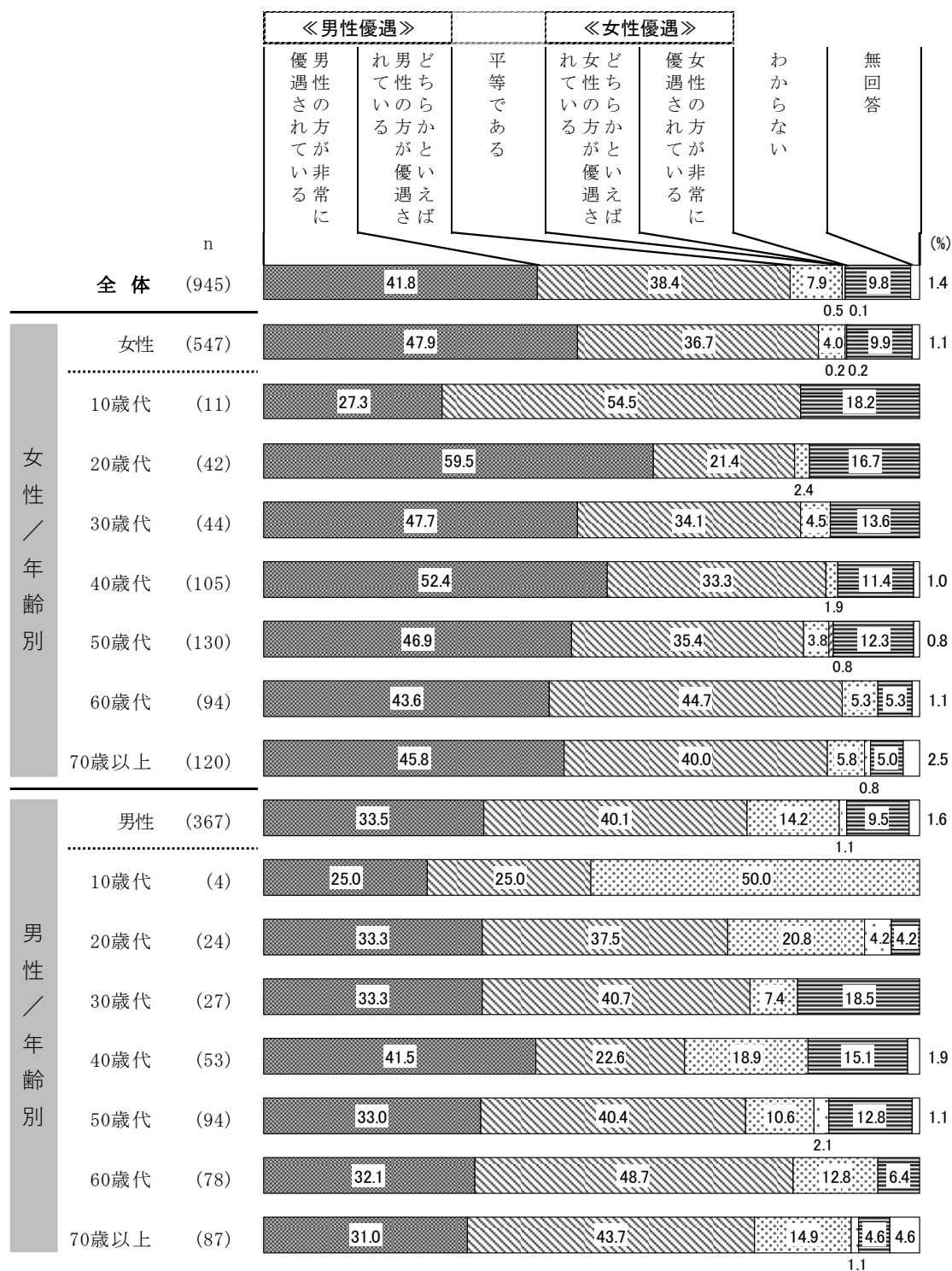
性年齢別にみると、女性の50歳代、70歳以上で《男性優遇》が4割前後と男女を通じて他の年代より高くなっている。また、「平等である」は、50歳代で男性が女性より9.6ポイント、30歳代で女性が男性より5.1ポイント高くなっている。



(オ) 政治の場

政治の場における男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》が女性（84.6%）で8割半ば、男性（73.6%）で7割超となっている。「平等である」は男性（14.2%）が女性（4.0%）より10.2ポイント高くなっている。

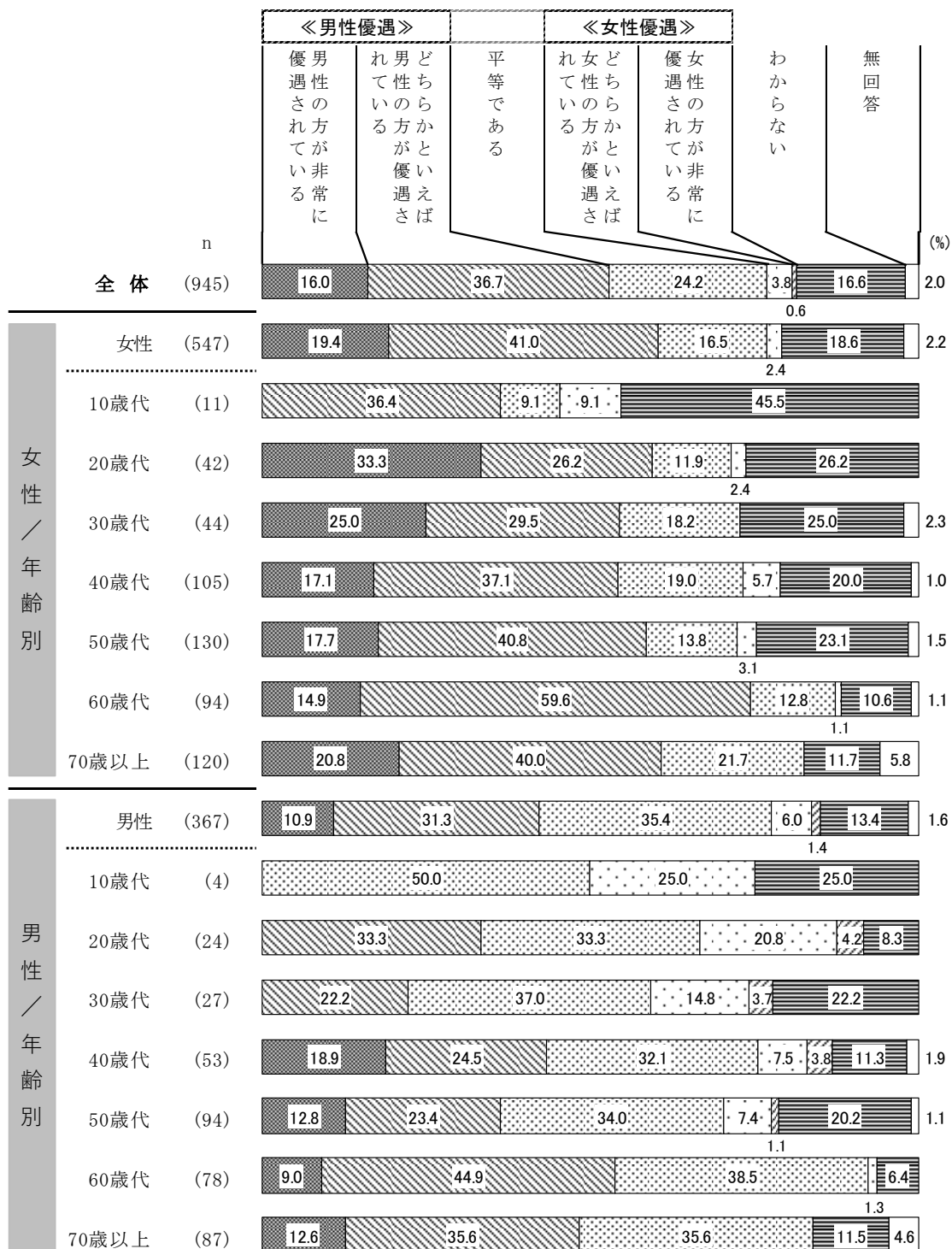
性年齢別にみると、男性の40歳代を除き男女ともにすべての年代で《男性優遇》が7割以上を占め、特に女性の60歳代で約9割となっている。また、女性の20歳代で「男性の方が非常に優遇されている」が6割以上と男女を通じて他の年代より高くなっている。



(カ) 法律や制度の上

法律や制度の上における男女の平等感について、性別にみると、「男性優遇」が女性（60.4%）で6割以上、男性（42.2%）で4割以上となっている。「平等である」は男性（35.4%）が女性（16.5%）より18.9ポイント高くなっている。

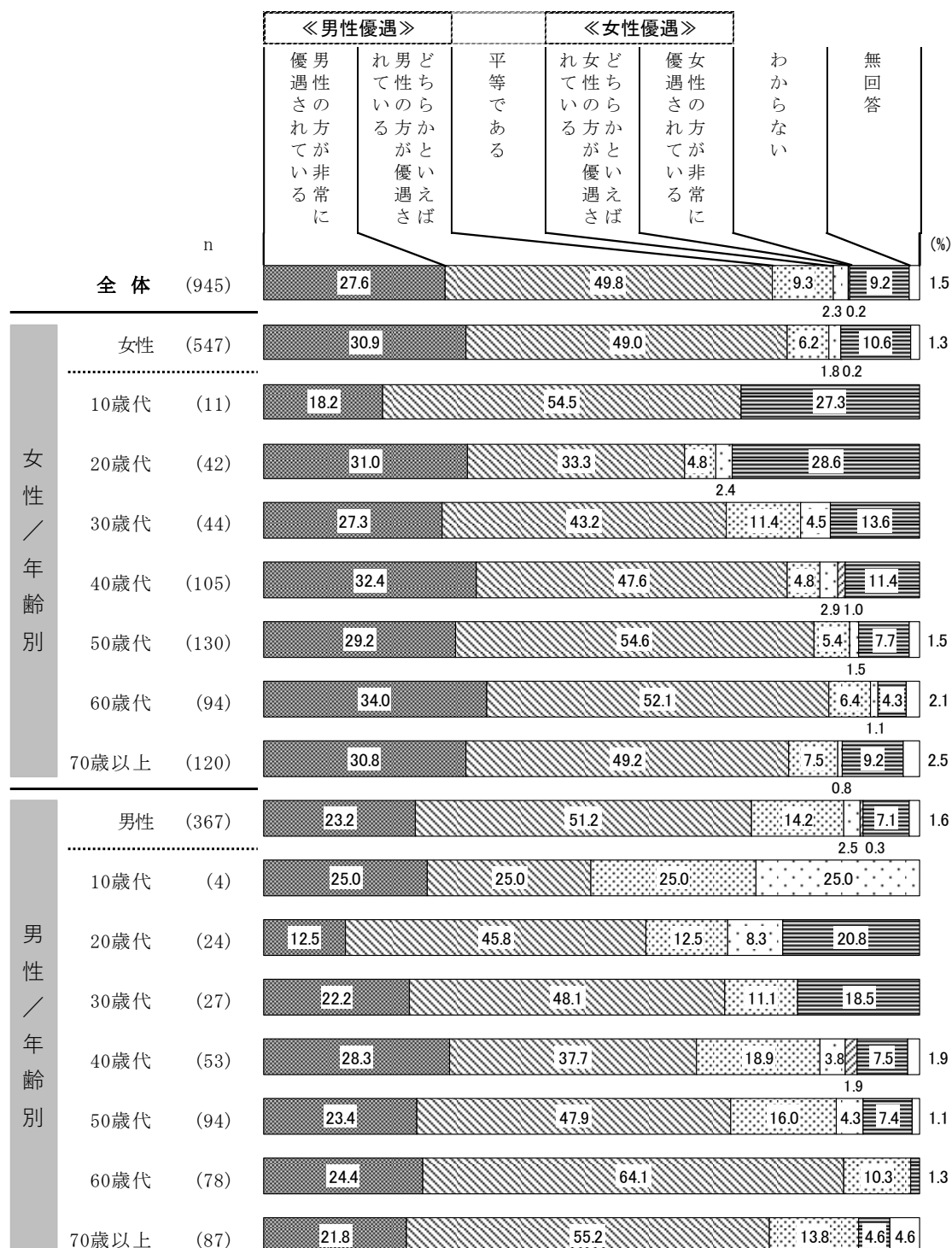
性年齢別にみると、「平等である」はすべての年代で男性が女性を上回っている。



(キ) 社会通念・習慣・しきたりなど

社会通念・習慣・しきたりなどにおける男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》は男女ともに7割以上となっている。

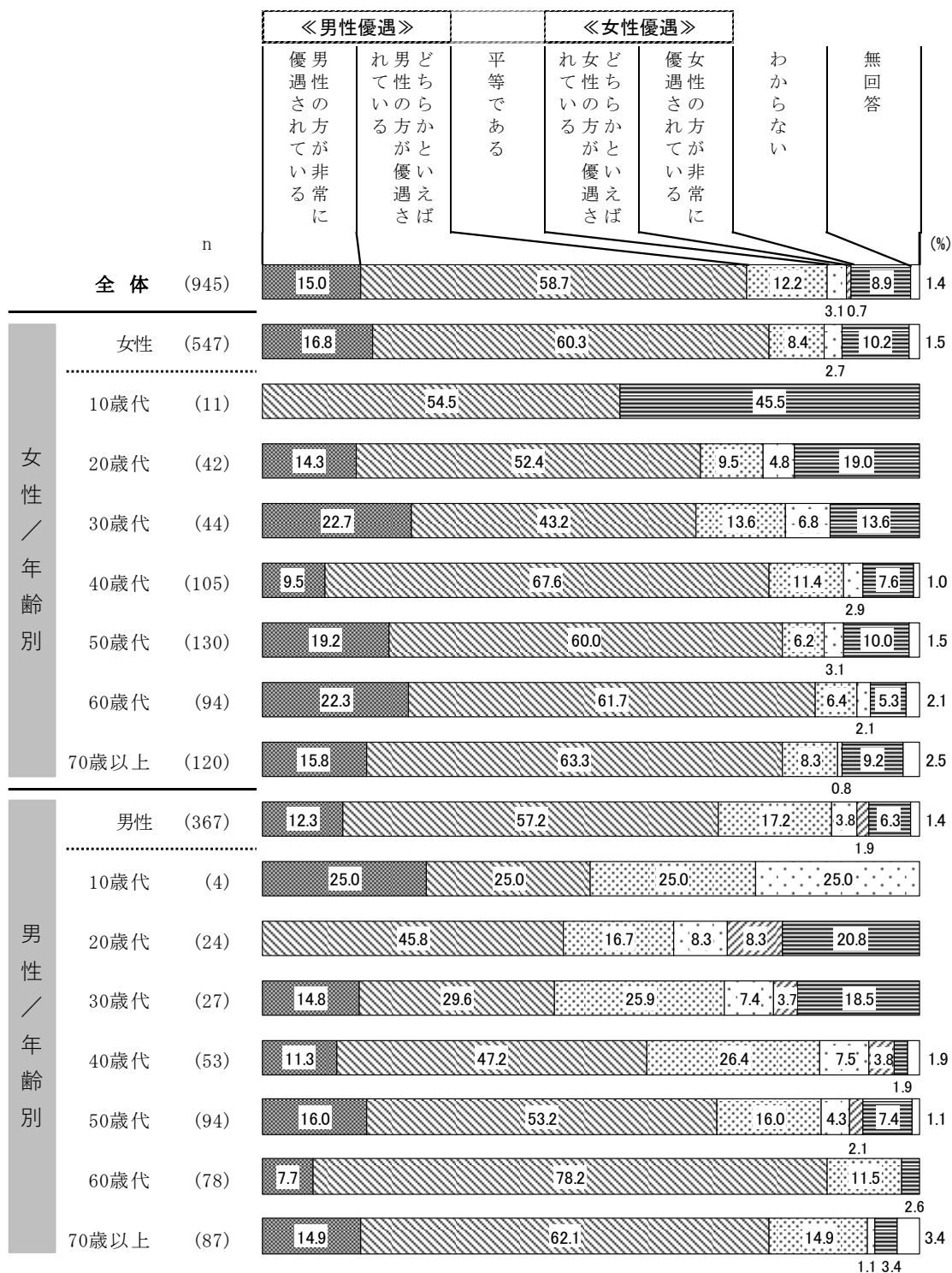
性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で《男性優遇》が過半数を占めているが、20歳代では男性とも7割を下回っており、他の年代より低くなっている。「平等である」は30歳代を除くすべての年代で男性が女性を上回っており、特に40歳代、50歳代で10ポイント以上高くなっている。



(ク) 社会全体として

社会全体における男女の平等感について、性別にみると、《男性優遇》が女性で7割以上、男性で約7割と高くなっている。「平等である」は、男性（17.2%）が女性（8.4%）より8.8ポイント高くなっている。

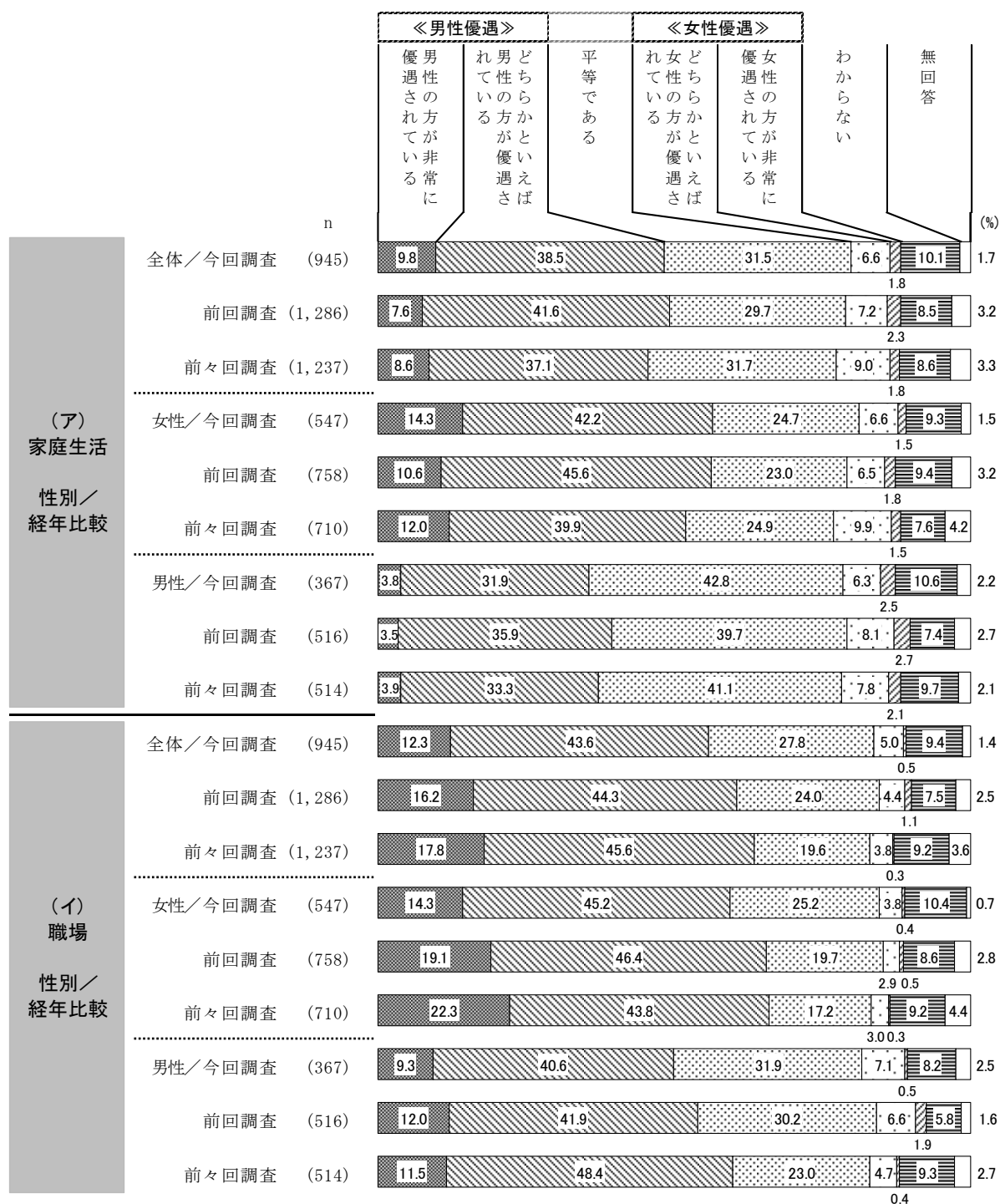
性年齢別にみると、「平等である」はすべての年代で男性が女性を上回っており、特に30歳代、40歳代で10ポイント以上高くなっている。《男性優遇》は男女とも年代が上がるほど高くなる傾向がある。



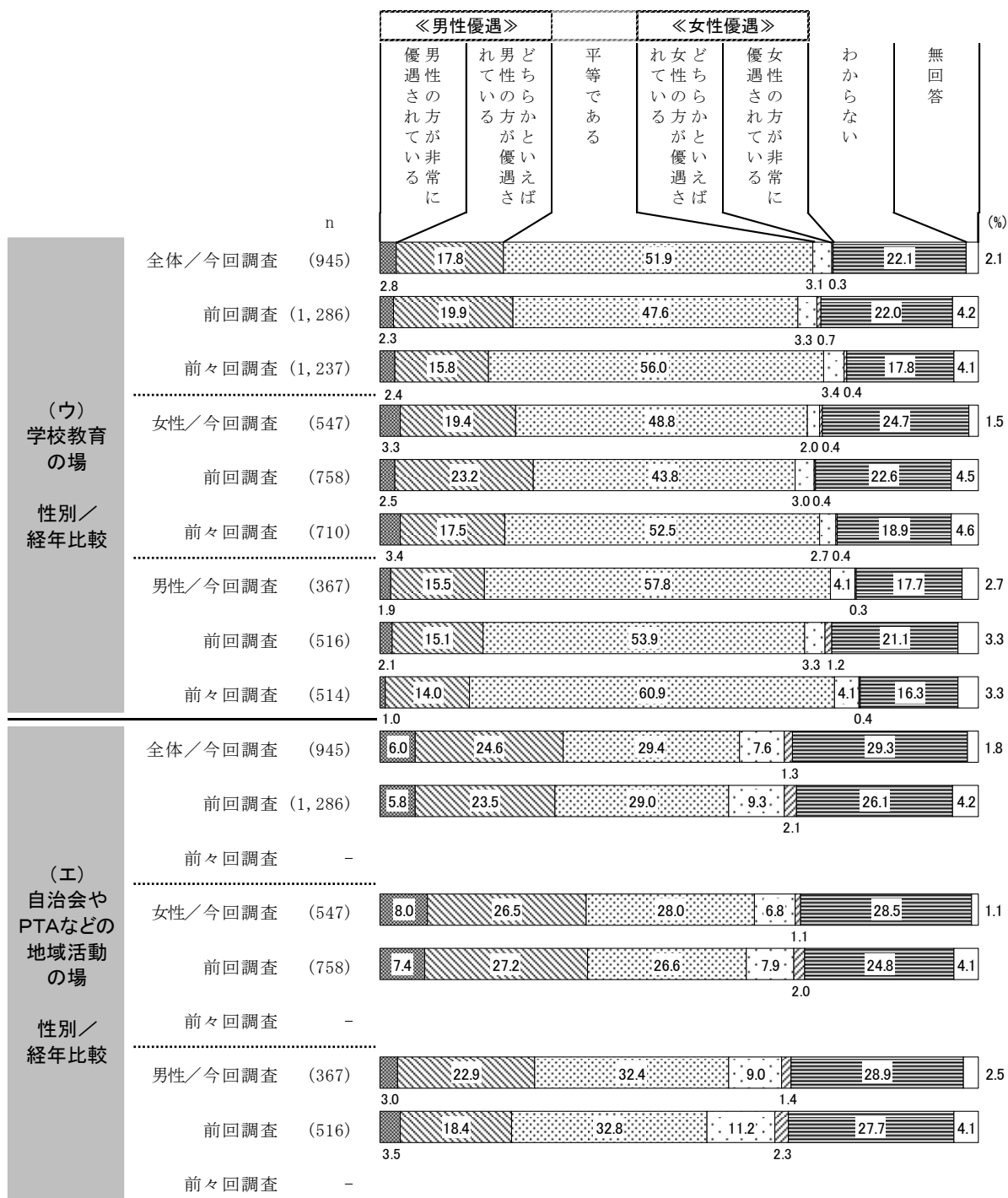
■経年比較

経年比較をみると、前々回調査から今回調査にかけて「平等である」が「(イ) 職場」で増加しており、前回調査と比較すると、「(イ) 職場」で3.8ポイント高くなっている。また、前回調査から「平等である」は「(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど」を除くすべての項目で増加している。

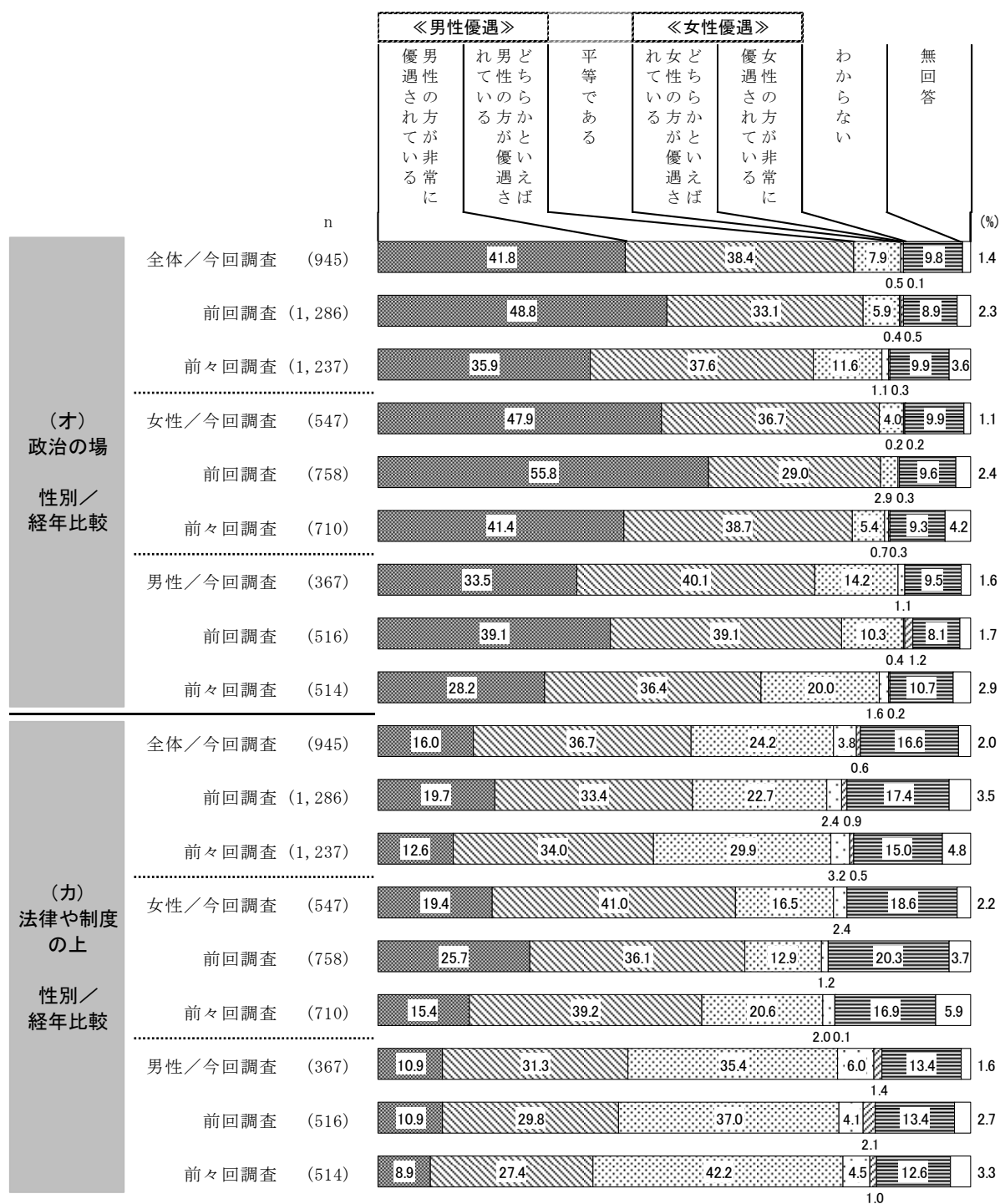
性別にみると、前々回調査から今回調査にかけて男女ともに「(イ) 職場」で「平等である」が増加しており、前回調査から比較すると「(オ) 政治の場」で女性が7.7ポイント、「(カ) 法律や制度の上」で3.6ポイント増加している。一方、男性では大きな変化は見られない。



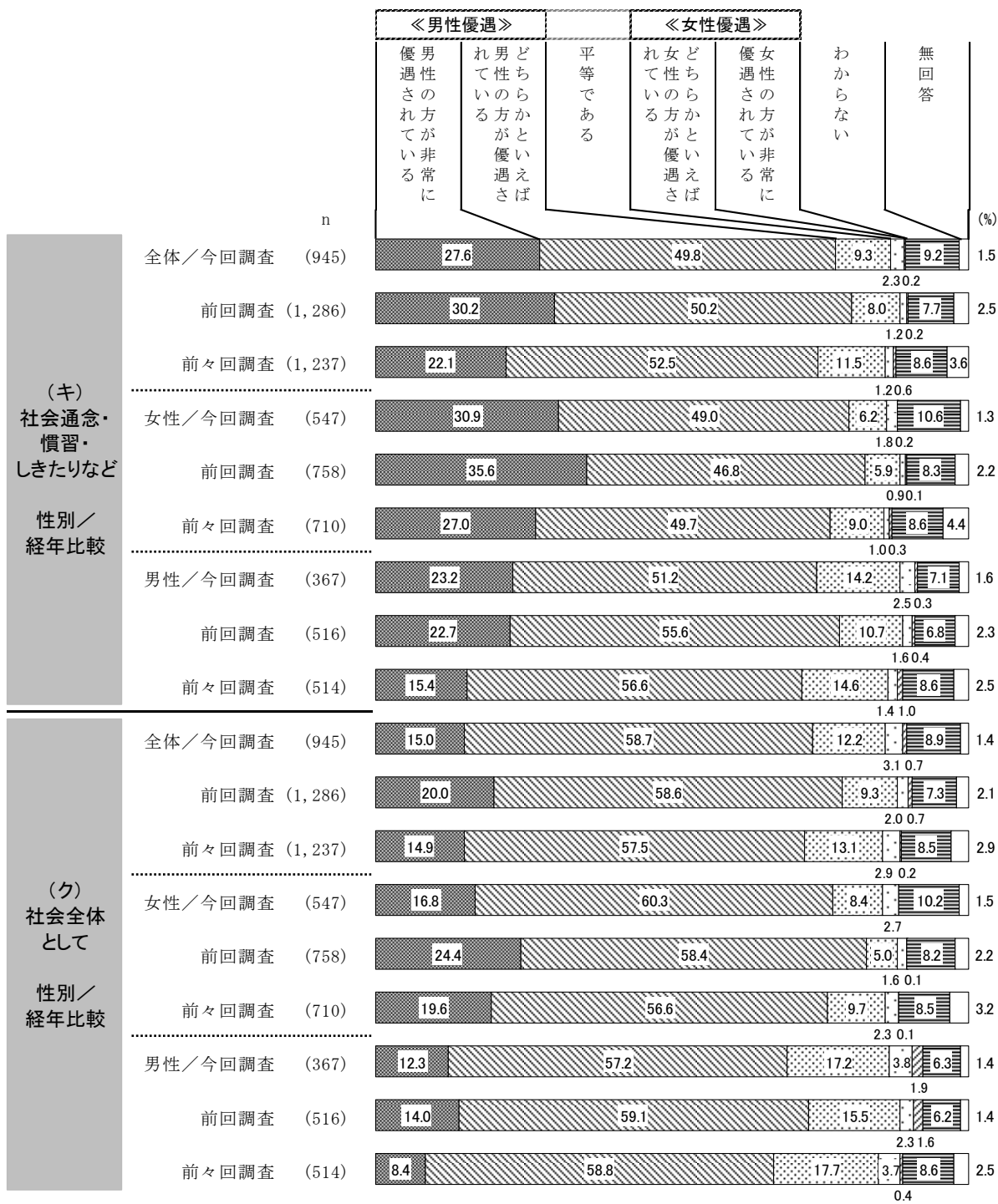
第2章 調査結果の詳細



※ 「(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場」は前回調査から追加



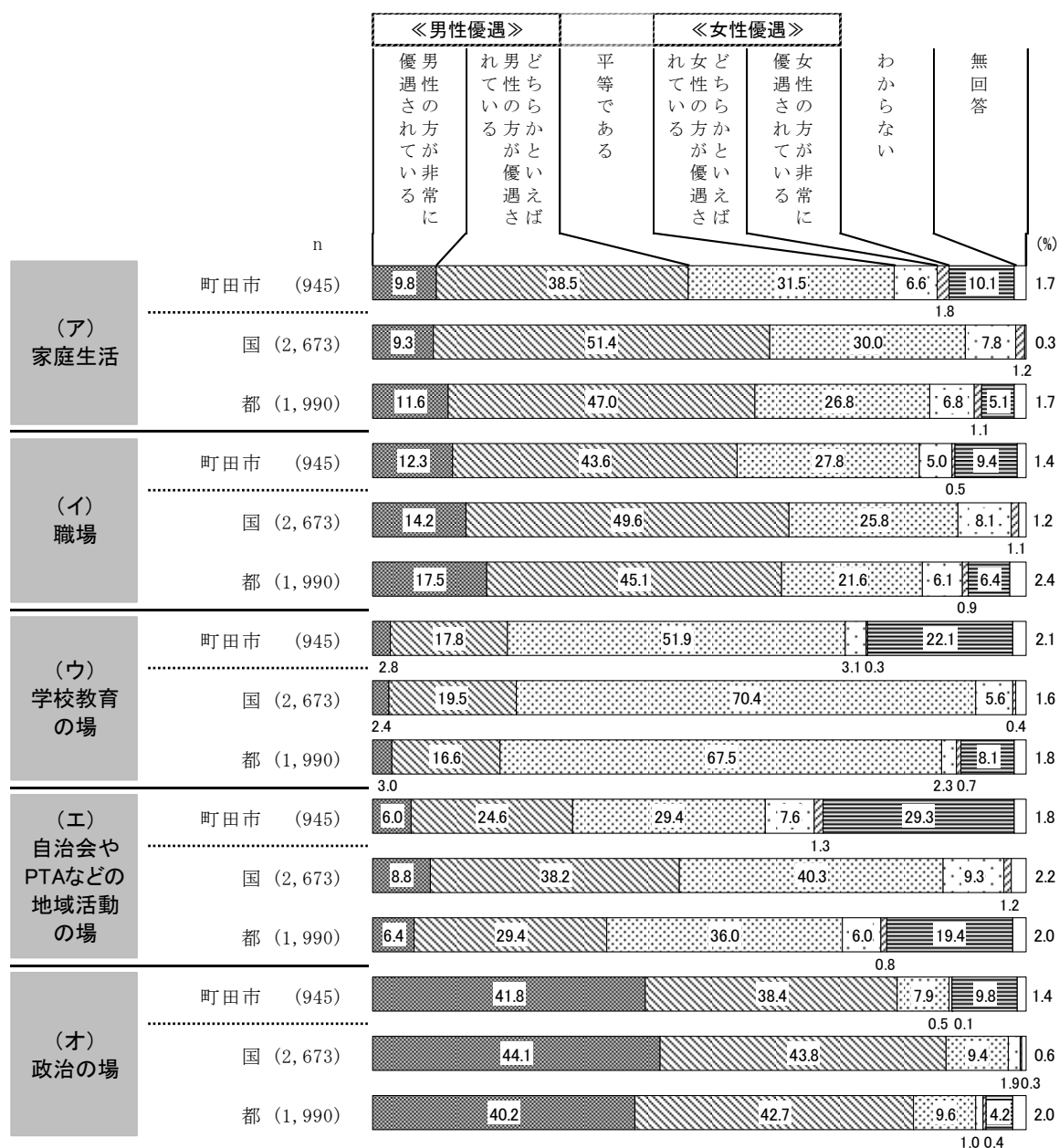
第2章 調査結果の詳細



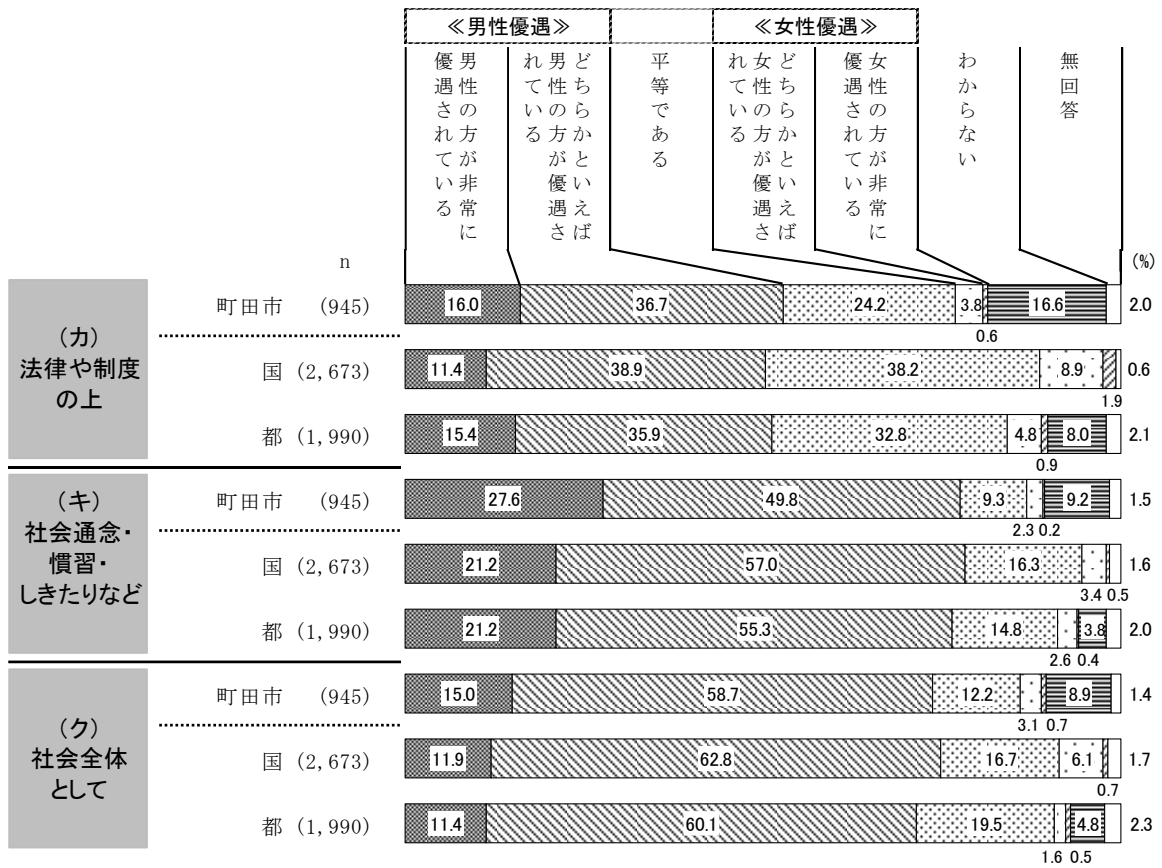
■国・都調査

国の調査と比較すると、「(ア) 家庭生活」、「(イ) 職場」を除くすべての項目で「平等である」は市が国を下回っており、「(ウ) 学校教育の場」、「(エ) 自治会やPTAなどの地域活動の場」、「(カ) 法律や制度の上」で10ポイント以上低くなっている。

都の調査と比較すると、「(ア) 家庭生活」、「(イ) 職場」を除くすべての項目で「平等である」は市が都を下回っており、「(ウ) 学校教育の場」で10ポイント以上低くなっている。



第2章 調査結果の詳細

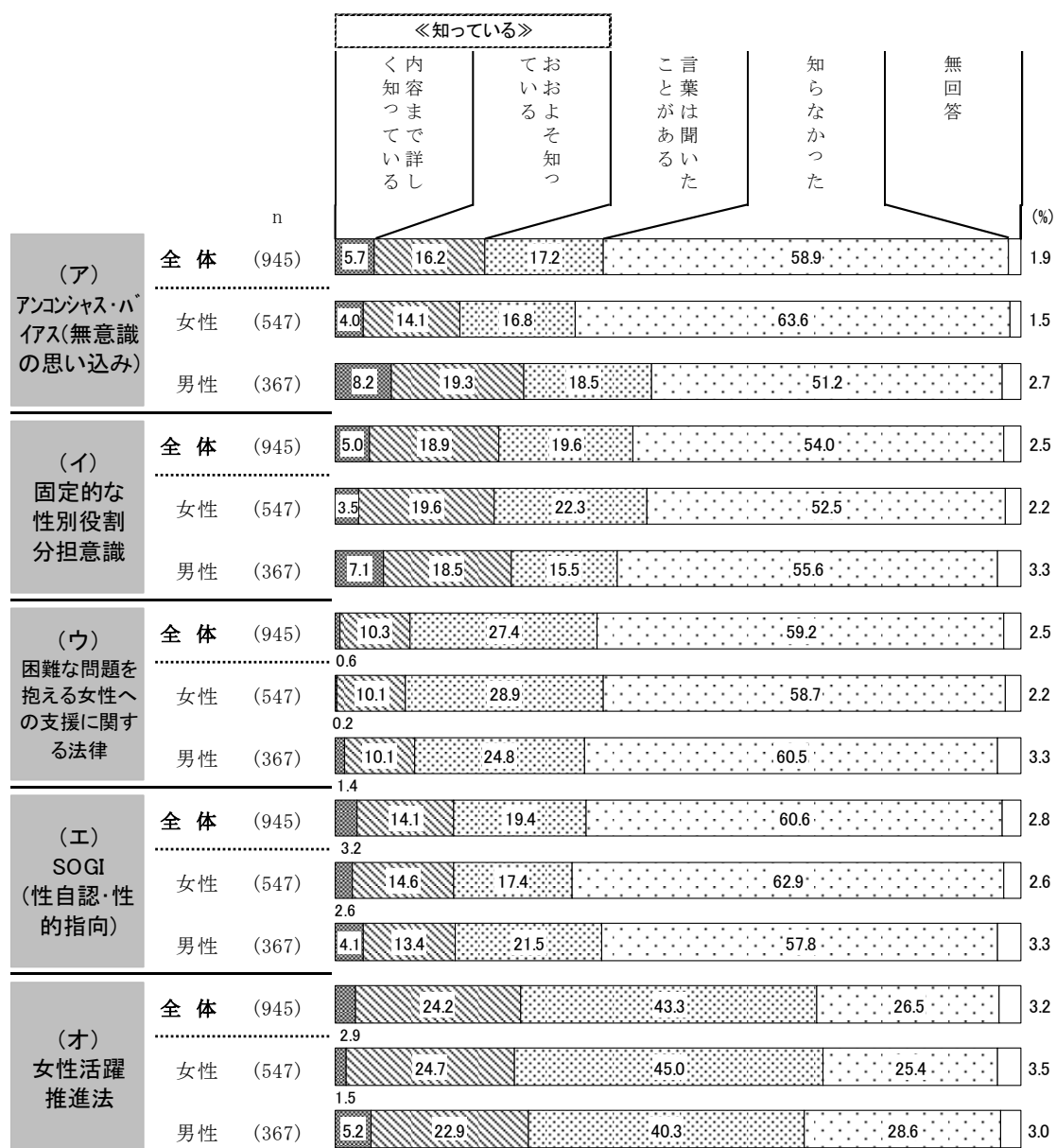


(2) 男女平等に関する法律や用語の認知度

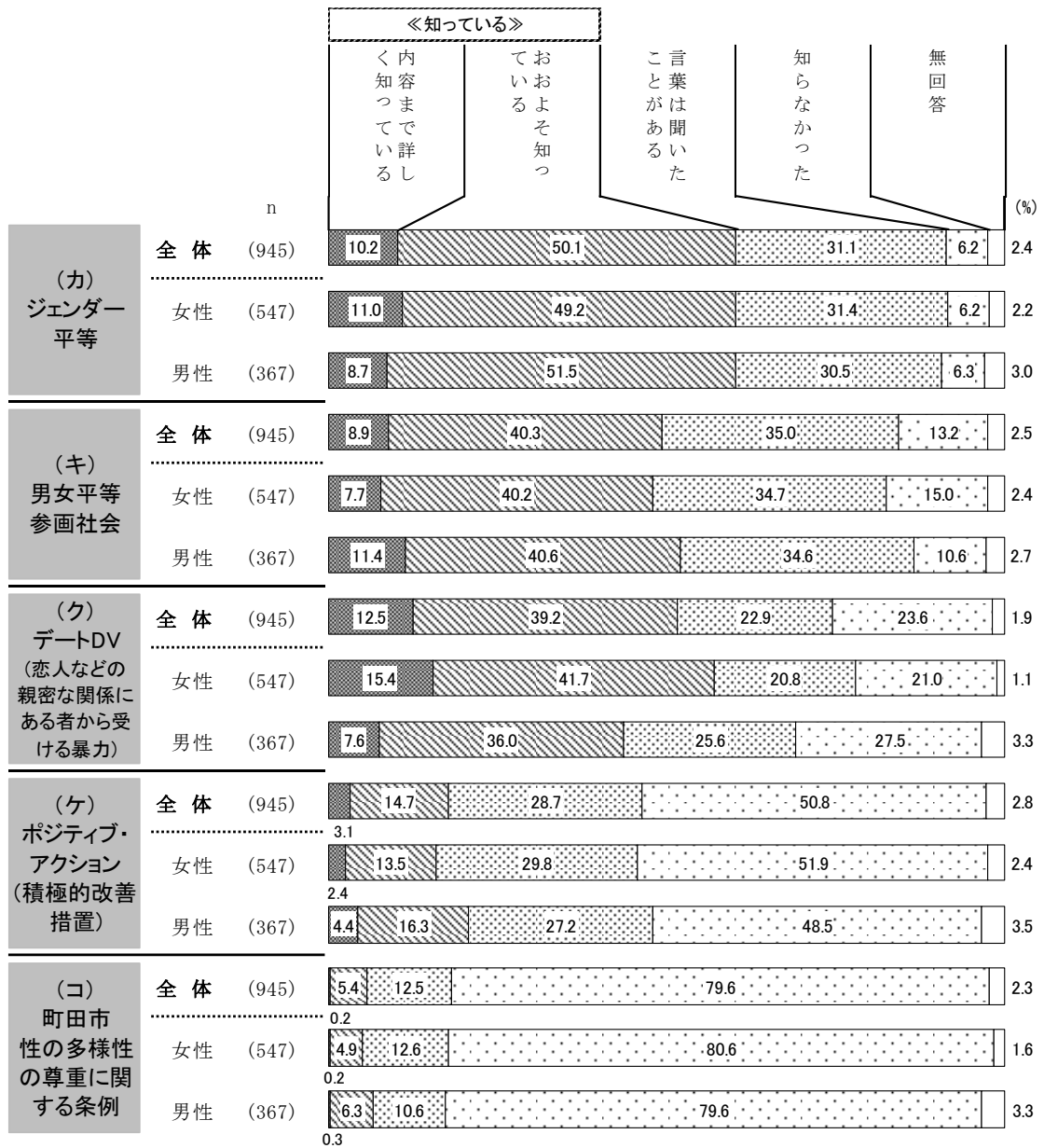
問31 次の法律や言葉を知っていますか。(ア)～(オ)のそれぞれについて、1～4のうちあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

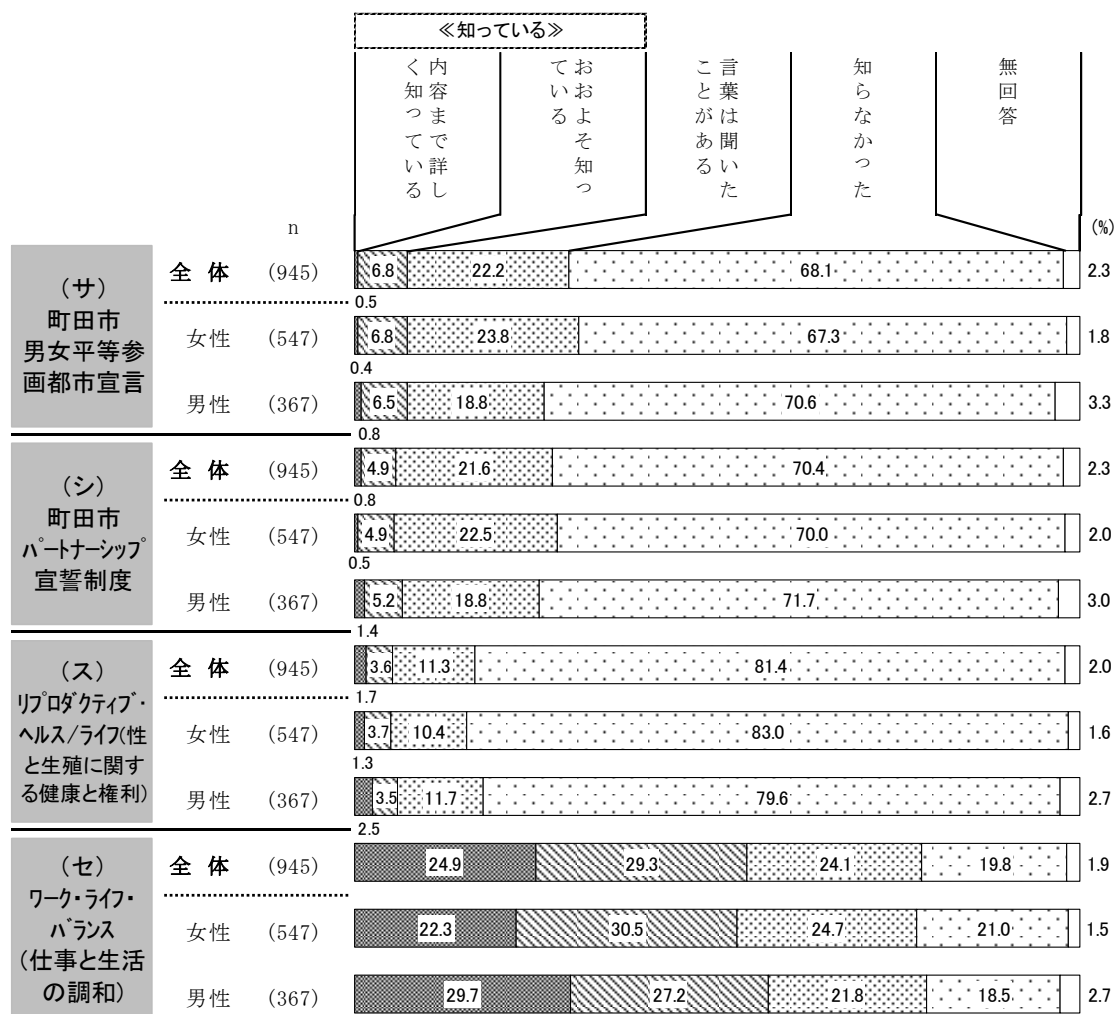
男女平等に関する法律や用語の認知度についてみると、「内容まで詳しく知っている」と「おおよそ知っている」を合わせた《知っている》が、「(カ) ジェンダー」(60.3%)で約6割、「(セ) ワーク・ライフ・バランス」(54.2%)、「(ク) デートDV」(51.7%)で5割以上、「(キ) 男女平等参画社会」(49.2%)で約5割と高くなっている。一方で、「知らなかった」が、「(ス) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(81.4%)で8割以上、「(コ) 町田市性の多様性の尊重に関する条例」(79.6%)、「(シ) 町田市パートナーシップ宣誓制度」(70.4%)で7割以上と高くなっている。

性別にみると、《知っている》が「(ク) デートDV」で女性が男性より13.5ポイント高く、「(ア) アンコンシャス・バイアス」で男性が女性より9.4ポイント高くなっている。



第2章 調査結果の詳細





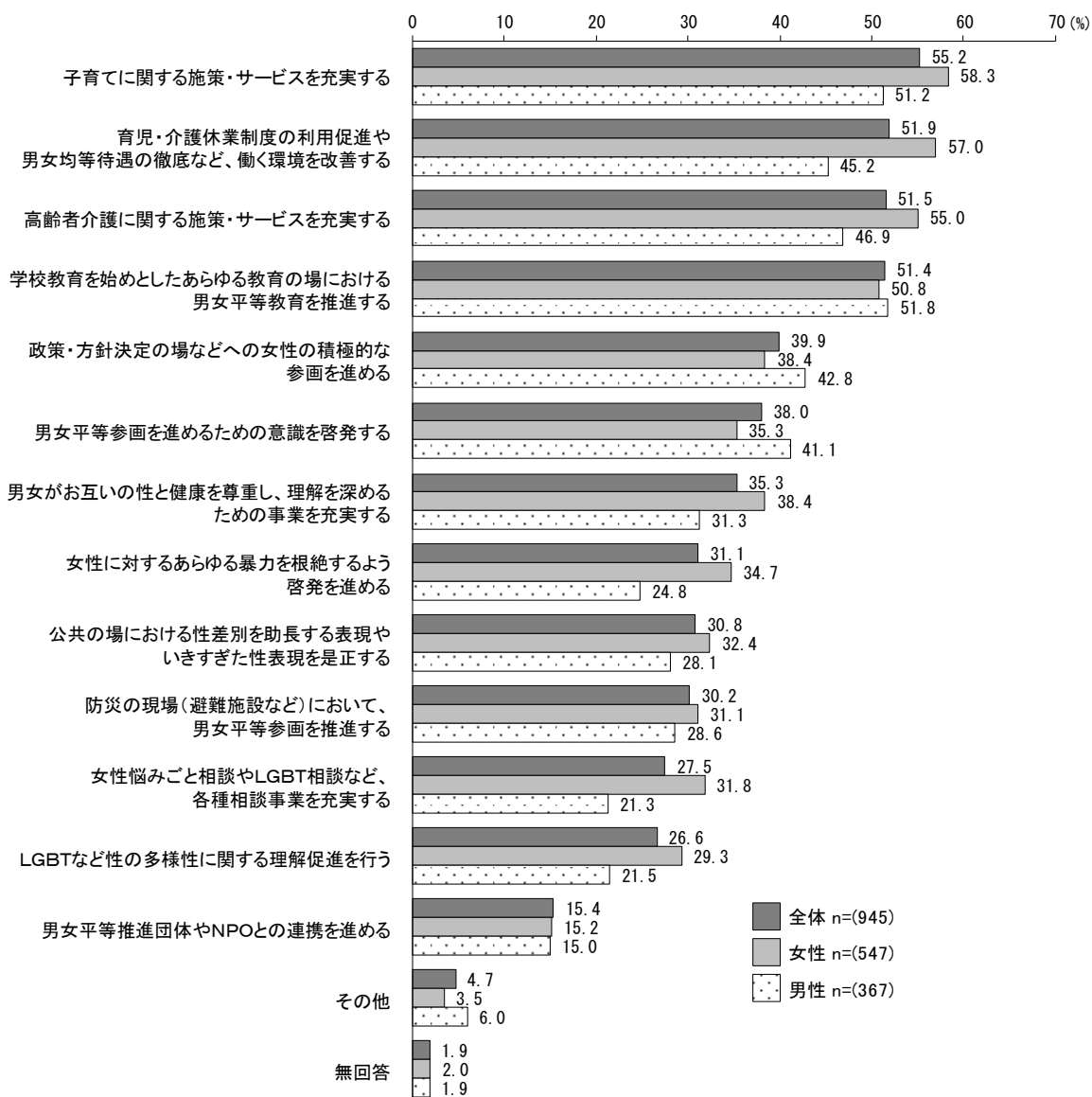
※前回調査から設問の法律・用語が半分以上変更されたため経年比較なし

(3) 男女平等参画に向けて町田市が力を入れるべきこと

問32 男女平等参画社会を実現していくために、今後、町田市はどのようなことに力を入れたいと思いますか。(〇はいくつでも)

男女平等参画に向けて町田市が力を入れるべきことについてみると、「子育てに関する施策・サービスを充実する」が55.2%で最も高く、次いで、「育児・介護休業制度の利用促進や男女均等待遇の徹底など、働く環境を改善する」(51.9%)、「高齢者介護に関する施策・サービスを充実する」(51.5%)、「学校教育を始めとしたあらゆる教育の場における男女平等教育を推進する」(51.4%)となっている。

性別にみると、「育児・介護休業制度の利用促進や男女均等待遇の徹底など、働く環境を改善する」は女性(57.0%)が男性(45.2%)より11.8ポイント、「女性悩みごと相談やLGBT相談など、各種相談事業を充実する」は女性(31.8%)が男性(21.3%)より10.5ポイント高くなっている。また、「男女平等参画を進めるための意識を啓発する」は男性(41.1%)が女性(35.3%)より5.8ポイント高くなっている。



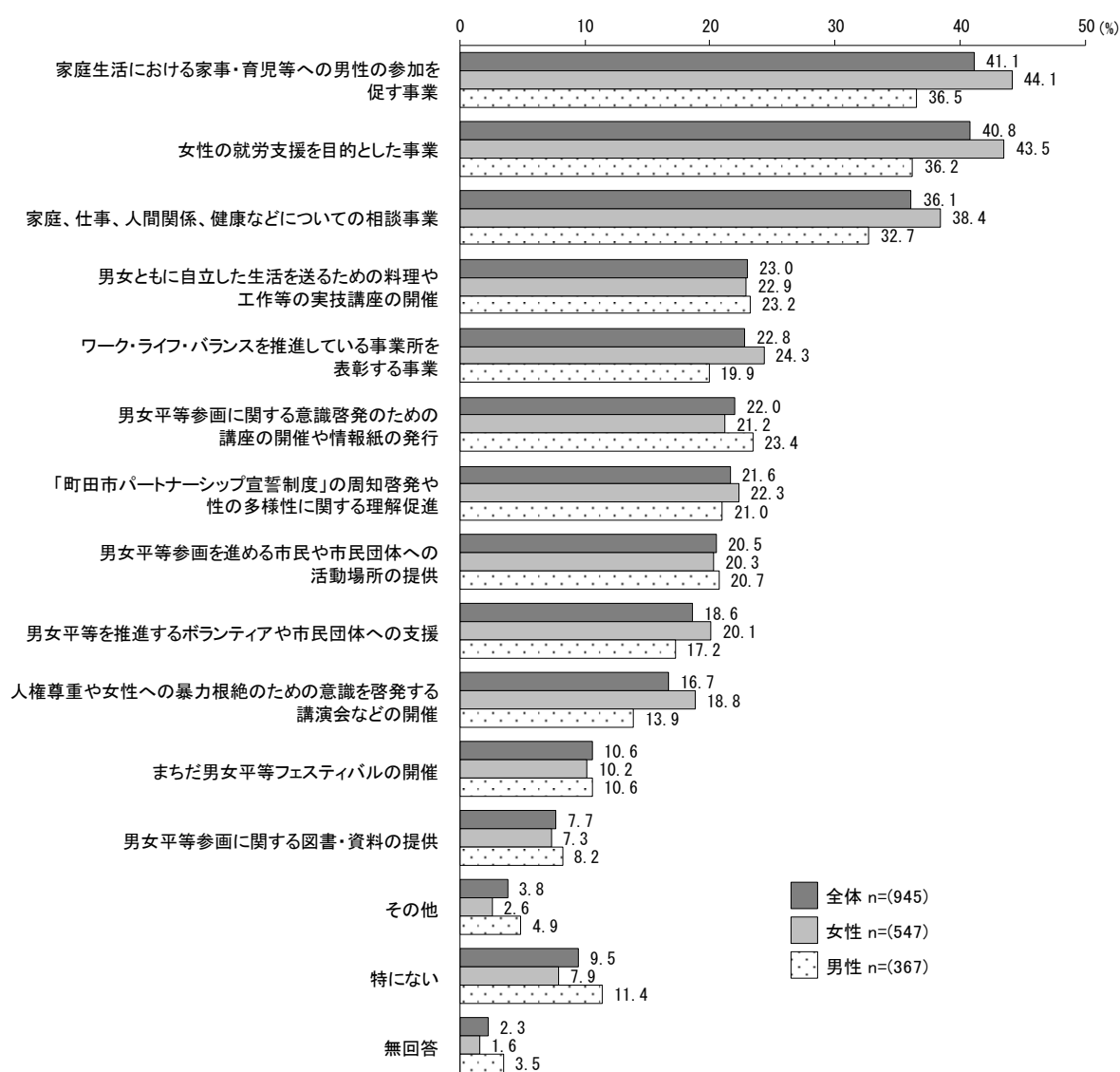
## 12. 町田市男女平等推進センターについて

## (1) 町田市男女平等推進センターで今後重点的に力を入れるべき事業

問33 町田市では、町田市男女平等推進センター（※）を中心に以下のような事業展開をしています。この中で、今後特に重点的に行うべきだと思う事業はどれでしょうか。（〇はいくつでも）

町田市男女平等推進センターで今後重点的に力を入れるべき事業についてみると、「家庭生活における家事・育児等への男性の参加を促す事業」が41.1%で最も高く、次いで、「女性の就労支援を目的とした事業」（40.8%）、「家庭、仕事、人間関係、健康などについての相談事業」（36.1%）、「男女ともに自立した生活を送るための料理や工作等の実技講習の開催」（23.0%）となっている。

性別にみると、「家庭生活における家事・育児等への男性の参加を促す事業」は女性（44.1%）が男性（36.5%）より7.6ポイント高くなっている。



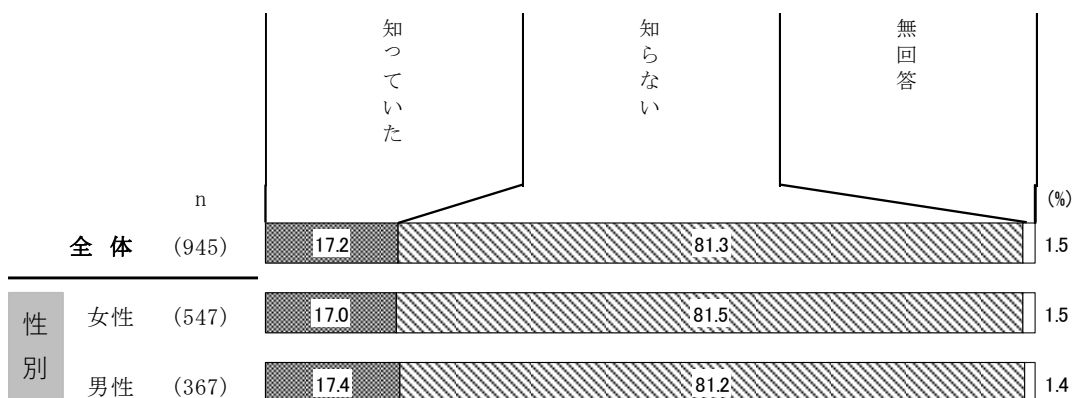
※『男女平等推進センター』では、「町田市男女平等推進計画」をもとに、男女が平等で、一人ひとりが個性と能力を発揮できるよう、各種講座の開催、情報の提供、市民の活動の場の提供及び相談事業を実施しています。

(2) 町田市男女平等推進センターの事業認知度

問34 町田市男女平等推進センターの事業（問33）を1つでも知っていましたか。  
 (○は1つ)

町田市男女平等推進センターの認知度についてみると、「知らない」が81.3%、「知っている」が17.2%となっている。

性別にみると、男女間に大きな違いはみられない。



## 自由記述

最後に、町田市の男女平等についてのご意見やご要望を自由にお書きください。

自由記述欄には219人から249件の貴重な意見・要望が寄せられた。それらを分野別にまとめ、主な意見を抜粋し、性・年代別に掲載したものが下表である。また、分野をまたがった意見・要望は、別々にカウントしているため、総件数（249件）は延べ件数となり、回答者数（219人）とは一致しない。

市の施策・事業・活動について（70件）	性別	年代
町田市が行っている男女平等に関する取り組みについてほとんど知らなかったので、もっとたくさんの人に周知できたら良いと思った。	女性	10歳代
町田市パートナーシップ宣誓制度があることを知らなかったが、そのような制度があるのはとても良いと思う。	女性	10歳代
現状、どのような施策が行われているか存じ上げていませんが、学校教育の場で男女平等について教育する必要があると考えています。ただ、区別と差別は異なると思いますので、理解がある有識者の登用及び教員の方への教育に注力していただきたいです。また、どのような取り組みが行われているかが市民に伝わりやすいよう、町田市内の駅への掲示などを行っていただけると関心を持ちやすいのかなと思います。	女性	20歳代
このアンケートを実施してくださっていること自体とても感動しました。社会人になり実家を出て引っ越そうと思っていましたが、町田にまだいたいな、町田市は素敵な街だな、自分の子供ができれば町田市で育ててもいいなと思いました。いつも町田のためにありがとうございます、感動しました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。	女性	20歳代
男女平等推進センターの事業内容について知らないことが多かったので、この機会に調べてみようと思います。	女性	40歳代
困っている人から直接意見を聞く場を多く用意してほしい。女性の活躍、子育てや少子化などの行政の施策は的外れだと感じます。なぜ子どもを産まないのか？なぜ仕事に復帰できないのか？思い込みで政策をおこなわず、まず当事者から話を聞いてください。	女性	50歳代
勤務先は町田市ではありません。地域（多摩地域、神奈川地域、東京 23区など）様々です。町田市だけでは対応できないと思います。国全体でもっと真面目に推進していくことだと思います。	女性	60歳代
町田市に住んで30年以上経ちましたが、色々な手続き等をした際の経験から、町田市は弱い立場の人に優しいというイメージがあり、住み続けております。これからも弱者の味方であってほしいなという気持ちです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。	女性	60歳代
今年もパープルリボンライトアップに期待しています。	女性	60歳代
公報まちだに情報がたくさん載っているので、今後もよく読みたいと思います。更に充実していただきたいと思います。	女性	70歳以上
市民フォーラム 3F に位置しているのは存じていますが、前ほど目立たなくて、何の事業をしているのかもよくわかりません。もう少し前面的に積極的にPRしてもよいのでは…。	女性	70歳以上

▼市の施策・事業・活動について（つづき）

<p>このような機会を与えてくださった町田市に感謝します。より良い社会にして くれるために活動してくれる事が何よりの改善であると考えます。このような アンケートはたくさんやっていけば、必ず社会は変わると信じています。町田市役 所、男女平等政策をしてくださった役員の皆様本当にありがとうございます。こ れからもよろしくお願ひします。今後の社会に通じる為にも、SNS、インター ネット、新聞、全ての情報政策でより市民の意識を高めて、政治に参加でき るように地域社会に貢献できるように、さらなる発展と充実に、加われるように。時 間はたくさん掛かるし、大変な事だと思います。心から応援し、このようなアン ケート等で、答え協力していかせていただきます。ありがとうございました。</p>	<p>男性</p>	<p>10歳代</p>
<p>「町田市ならではのユニークな、もしくは先進的な施策」といったものを、あ まり耳にしたおぼえがない。男女平等参画においても、まずはマスコミのニュー スで取り上げられるような話題作りがあってもいいのではないかな。</p>	<p>男性</p>	<p>70歳以上</p>

<p>男女平等の考え方（30件）</p>	<p>性別</p>	<p>年代</p>
<p>生まれてからずっと町田市民ですが、男女平等について不満に思ったことはあ りません。ただ、今回のアンケートからは「男女平等」というより「女性の社会 進出を進める」といったテーマが、より大きい比重をもっているように感じまし た。私が思う男女平等は、適材適所であったり、男女に関わらず自分の希望通り の生き方ができるとか、そういったものです。管理職などの男女比率は、それば かりを見るのではなく、男性も女性も、バリバリ仕事したい人が仕事に集中で き、家庭に重きを置く人が家庭に集中できるよう、個人の希望を尊重できている か、に重点をおくべきだと考えます。</p>	<p>女性</p>	<p>30歳代</p>
<p>私自身は何の不自由なく生活させていただいていますが、男女平等を求めている 人がどのくらいいるのかわかりませんが、何をもって平等というのかもわかり ません。もっと男女ともに自分や家族のために使える時間が増えたらいいのなど 思います。物価は上がるが給料が上がりずで男女平等より今を生きていくのも大 変な時代だと思います。</p>	<p>女性</p>	<p>40歳代</p>
<p>職業的に女性が多いこともあり、一般企業での男女格差がどのようなものなの か理解できないが、世の中の的に男女のバランスが不均一と感じている。「男性に 対し」「女性に対し」と分けて考える必要がないくらい、それぞれをひとりの人 として考えて行ける世の中になるとよいと思う。</p>	<p>女性</p>	<p>40歳代</p>
<p>性差がある以上、身体能力差・適性の差があるのに、何から何まで平等とい うのは不自然。男女平等とうたっているのに、女性を優遇しているような印象を少 し感じる。</p>	<p>女性</p>	<p>50歳代</p>
<p>男女平等を推進したいのであれば、先日女性も徴兵が義務となったスウェー デンのように「本当の」平等を目指さねば意味がない。力仕事やゴミ収集等で女性 スタッフを見ないのは何故か？そこにもイキイキ働く女性が居るように、そんな 平等を掲げられるのであればよい。今の施策は概ね「女性優遇」の域を出ず、男 女平等などお笑い種です。まずは市内から「レディースデイ」を設けている店舗 をなくしてみてもいいかな。</p>	<p>女性</p>	<p>50歳代</p>
<p>男女平等を促進していくのも大事だと思いますが、子供にとってやはり母親の 愛情が必要とする時期があると思います。もちろん女性が仕事をする事も大事な 事だとは思いますが、これからの子ども達を育てる過程においても、愛情は必要 不可欠だと思います。仕事があるから学校行事に参加しない、役員をしない、 PTAに入らない。できればそんな男女平等の推進はしないでほしいと思ってい ます。</p>	<p>女性</p>	<p>50歳代</p>

## ▼男女平等の考え方（つづき）

正直に言いますと、人間として尊重することを大事にする、それから男女の体も思考も各々特質として違うし、平等もとてもよい言葉だけれどあまり規則のようにするのもどうなのかとも思う。自由に選択できる体制とか、相談窓口があったり、そういうのはありがたいと思う。ともかく人権の尊重が一番と思う。最近、人の心の成長が欠けているような気がして、こちらの方が問題な気がしています。	女性	60歳代
男女平等というより、男女同待遇と思います。	女性	70歳以上
男女平等を掲げても、男性が不利益を被る場合には女性は何も言わない。男性が暴力を受けることもあり得るのに、あくまで女性目線のアンケートばかりで、真の男女平等って何なのでしょうね。女性の国会議員なんて碌でもない人ばかりで、女性の数を増やしただけではいけない典型だと思います。平等と言うなら、性別ではなく能力で判断すべきです。	男性	40歳代
男女が”平等”である必要があるのかが少し疑問です。男女という括りだけでなく、皆が”自分らしく”生きられることと、”機会が公平であること”が大事な気がします。個々人にあった多様な選択肢があるほうがベターだと思います。	男性	50歳代
男女の性別は社会生活、家庭共に平等であるべきと思っています。	男性	50歳代
男女での違いで女性支援がありますが、男性支援も有りでは。女性が子どもを産み育てられる稼ぎが男性にあれば、安心して育児、仕事、地域等、選択できるのでは。逆もしかり。主夫になりたい人の支援等。性的マイノリティの方の配慮で、女性が危険な目になるのは違いますし、LGBTQ 全て異なります。同じ対応ではないということ、多数を蔑ろにしてよい訳ではなく、少数ではやれない事があります。日本の家族や文化を大切に守っていつてくれる事を願います。いつもありがとうございます。	男性	50歳代

アンケート調査について（21件）	性別	年代
アンケートの質問内容が時代に合っていない気がしました。	女性	50歳代
アンケートを行ったことで知ることもありました。これからも推進事業よろしくをお願いします。	女性	60歳代
今回真剣に協力（記入）したが、この質問項目はどのような経緯で決まったのか。民間が入っているか知りたい。手前味噌で恐縮だが、当社のコンプライアンスアンケートより程度が低い。そのためにもまずは推進センターの周知活動に注力、発展を期待したい。海外にも目を向けると面白い着想を得られると思います。国際化、多様化が更に進んでいく中で、井の中の蛙にならないよう、若手の意見を聞いてあげてほしい。頑張ってください。	男性	40歳代
質問、回答する項目の表現が分かりにくい。	男性	60歳代
調査目的を更に明確にした上で、設問をより妥当なものに工夫してください。今回の調査結果を解析して、何か有力な結論が得られるか疑問です。	男性	60歳代

性の相互理解と尊重（17件）	性別	年代
男女平等にできることは平等にできるよう進めるべきだが、男女の性差を全く無くすことはできないと思っているので、得意分野を分担し、お互いに理解を示すことが大事だと思う。	女性	40歳代

▼性の相互理解と尊重（つづき）

なんでも男女平等がいいのではなく、性別に対しての合理的配慮があればいいと思います。男性だから得意な事、苦手な事、女性だから得意な事、苦手な事、個々に得意な事苦手な事、これを踏まえればいいのだと思います。どんな場面でも、思いやりをもち、相手を尊重する想があれば、男女にとられる事なく生活できると思う。	女性	40歳代
男女は身体的に違いをもって生まれてきているので、全て平等（同じに）とはいかない部分があると思うので、男女に限ったことではないですが、協力し合って敬いあって、よりよく心地よく暮らしていけるような社会になればよいと思います。	女性	50歳代
男性と女性は、身体的、精神的に根本的に違っており、単に平等というよりは、それぞれに備わったものを活かし合い支え合って生きていければよいのではないのでしょうか。	女性	50歳代
男女とも支え合う人間関係をつくりたい。	女性	70歳以上
男女平等は全く同じということではなく、男性なり女性なり、生理的に生まれ持った身体でもあるので、お互いの体力・性機能の違いをもっと互いに理解する事が必要！得意な分野もここに違って当たり前と思う。画一ではない。	女性	70歳以上
わたしは風呂掃除や洗濯ゴミ出しかんたん料理や皿洗いなど出来る範囲でして、配偶者に少しでものんびりできる時間をと意識している。夫婦ではお互いに思いやる気もちを持つことが大事なことだと思う。	男性	50歳代
男女の人権は平等が絶対的なこと、しかし、肉体的な特徴があるので、それぞれが、できることできないことがあるので、お互いがよく認識して、できる分野では、平等を追求すべき。	男性	70歳以上

男女平等参画のための意識づくり（16件）	性別	年代
男女平等については、地域や世代間によって考え方に大きな差があると思います。一人一人の意識を変えるのは容易ではありませんが、特に若い世代には多様性社会が当たり前の未来であってほしいと思います。行政には若い世代へ向けて多様性の教育や、今現在困難を抱えている人への支援、また市民へ向けての情報発信などを今以上に充実させてほしいと思います。	女性	40歳代
振り返れば延々と続いてきた男性優位社会。意識改革には途方もない絶え間ない努力と、長い時間がかかりそうな気がします。	女性	70歳以上
男女平等という考えが根ざしていない国なので、参画都市とか推進計画を策定しようということは必要かもしれませんが、今の画一的教育を受けてきた大人達に考えを変えてと言っても変わるのか、変わるのにどれだけの時間を要するのか、それでも変わるため、変えるために取組みは必要ですが、次世代が平等であることが当然と思えるようにしていくことが不可欠だと思う。	男性	50歳代
私の周りでは男女差別のようなものは見当たらないので、テレビで女性だから管理職になれない、という実例があったのには驚きだった。差別はないように見えても無意識に差別している可能性もあるため、そういった対処方法や環境に注力してほしい。女性管理職や雇用率を何パーセントにする、とかはちょっと違うと思う。そういう考え方の時点で性差別が意識されている。	男性	50歳代
中高年以上の方に男女平等の意識づけをしていくとともに、次の時代に担う若者に教育を施していくことが重要か思います。	男性	60歳代

男女平等な社会・企業の環境づくりや法の整備など（15件）	性別	年代
男女問わず、性的少数者や体が不自由なマイノリティの方々も差別がなく生きやすい環境になると良いと思います。そしてどの場にも性的バイアスがなくなるように教育を進め、考え方が古いことを知らせながら覆して、働く場、育児の場でも性別に関係なくやっていけるよう呼びかけたり、支援が進んでいかないといけないと思います。こういった教育は学校だけではなく考えが古い高年代の方々に届くようテレビやそういった方々が行く場所でも耳が届くようにして頂きたいです。このアンケートだけでも進歩をしようとしているのが感じられて本当にこのような良い方針に繋がるといいです。ありがとうございました。	女性	20歳代
家庭での立場など、昔のまま女性側が食事の支度を行うことが悪いのではなく、「やりたくない」のに「やらされる」状況がよくないわけなので、女性も男性も、やりたいことがやれる、やりたくないことが協力や支援を受けながら環境が整えられれば素敵だと思う。個人個人が意識をもつ強さ（志）も必要だし、それが最も大切だけど、社会や国、地域が声をまとめてリードしていってくれたら、すべてよい方向へ進むと思う。	女性	40歳代
誰でも社会的に、精神的に自立した生活が出来るのが大事だと思います。女性が男性より立場が弱いと社会的な立場に置いては、女性は死ぬまで男性に依存しなければ生きていけないことになります。また、男性は女性は自身のケアまでをしてもらったりと精神的に依存した状態になる場合も多かったですね。結婚や出産、介護が社会との断絶にならない様な支援をし、誰もが自立し支え合える社会になって欲しいと思います。	女性	40歳代
学ばせるよりも自分から参加したくなる。義務よりも楽しい体験や得する仕組みを。頼んだ。	男性	20歳代
男女平等よりも男女助け合いのできるまちづくりをしてほしい。もともとちがう人間同士が助け合える工夫ができる制度が必要だと思います。	男性	40歳代
平等ではなく公平を推奨するべきではと考えます。昔ながらの女性が弱いという文化の改善も必要だと思います。昭和の専業主婦が多い時代から、共働きが増えた時代への移行に実情に対して、文化や制度がついていない感じがします。世代間の考え方の違い、各企業の制度や、各施設などの設備など多岐にわたる改善が必要なので難しい問題だと思いますが、優先順位を精査して進めなくてはいけない問題です。長文で申し訳ありません。宜しくお願いします。	男性	50歳代

男女がともに担う子育て・介護や支援の充実（13件）	性別	年代
このアンケートを基にどんな改善がされるのか？と疑問に思いました。男女平等ももちろん大切だと思いますが、働く女性を支援するためには、まず保育施設の充実が求められる…けど、保育現場は人手不足で、保育士の負担が増える…といった現状があります。子どもの預け先がなければ女性の社会進出も進まないと思うので、ぜひ保育現場の働き方にも注目してほしいです。私は町田市の園ではありませんが、保育士として町田市の保育現場も豊かになってほしいと思いました。アンケートの内容が今後活かされますように。町田市住みやすいので応援しています。	女性	20歳代
もっと男性にも育児・家事をしてもらうには、仕事内容（時間、労働場所、手当）などを考えるべき！！女性は、仕事・育児・家事、24時間365日働いています！！休む時間が全くないです！！	女性	20歳代

▼男女がともに担う子育て・介護や支援の充実（つづき）

子育てに関わるエッセンシャルワーカーの職場環境の改善が必要だと思います。お子さん達の保育時間、学童待機時間を長くせざるを得ない社会の状況。	女性	50歳代
私の年代では、おそらく男性の家事・育児の参加がなく、子育てをしてきました。現在でも家事は自分のしなくてもよいことと考えているようです。今から変われるとは思いません。若い子育て世代が、より生活がしやすい未来にならないと、高齢者は頼ることもできません。子育てと高齢者支援は双方に力を注いでいただきたいです。	女性	60歳代
育児に関して男性の参加があまりにも低いようなプロモーションをするのではなく、育児に参加する事は当たり前で、「参加しないことがおかしいこと（育児放棄に近いレベル）」と社会が発信しないといけないと思う。私自身、育児と家事をしながら仕事をする男性ですが、「常に男性は足りていない」と言われ続けます。それは、社会がそう言い続けているからだと感じます。	男性	30歳代
女性が働くには育児などで限界があります。保育園を利用しても保育料も高い、時間も限られている。育児休業も経営者は(夫婦ともに)とることができません。制度の見直しをお願いします。	男性	50歳代

男女平等教育・学習の充実（12件）	性別	年代
男女平等について考える時、どちらかの性に傾くのではなく、男性なら家事・育児へ積極的に呼びかけつつも、女性も経済的に自立した女性、大人になるように、考え方や自分の人生に責任を持つことを、小さい時から教育現場で伝えた方がよいと思います。	女性	40歳代
大人の意識改革は困難なことが多いと思われる。教育現場、子供のうちからの教育が重要だと感じる。	女性	50歳代
男女平等についてですが、私が子どもの頃は祖父が満州に行き戦争経験者だったので、「女は家庭を守れ」という大人の中で育ちました。子どもの頃の環境というか、そういう刷り込みもあり、母の世代も専業主婦（女性が）ばかりでした。私が就職の頃は氷河期世代なので、友人も皆専業主婦が多いです。今、政治を動かす人たちが自分と同じ年代になり、もう少し世の中をよくしてもらいたいと願うばかりです。子どもの教育で男女平等をもっと教えていけば、暴力や戦争差別の連鎖は止められると思います。学べる環境をもっと増やすことが大事だと思います。	女性	50歳代
夫は女性（母・妻・妹）を軽く自分は男でそれだけでえらいと思っているように感じる。父から受け継いだ感覚で、こういった価値観は学校教育で変えることは難しい。家庭教育がどうあるかだと思う。	女性	50歳代
今の社会人は頭の中では理解していても、その時になったら問題をおこす事がある。それをなくしてくためには、学校教育（小学校から）を行い、自然と身に付ける事が必要と考える。子供達が大人になる15年後には浸透する（行動や考え方）。次にその人々が先生となり、次の子供達を育てていく。30年後には変わると思う。マンガ等も暴力をなくして、若者の意識を変えるようにしてほしい。	男性	70歳以上

性別にかかわらず個人の能力尊重の促進（11件）	性別	年代
むやみに男女平等だけを目的として活動するのではなく、積極的に仕事面などやりたいと望んでいる人の希望が叶えられるように、その人たちのために、男女平等を進めた方がよいと思いました。	女性	10歳代
国が企業に対して女性の管理職比率目標を課していることにより、私の会社では逆差別が生じています（某大手メーカーです）。就職時も女子学生を優遇しており、とても不快です。能力に応じた平等社会を目指すべきだと思います。また、男性の家事育児参加を啓発だけでなく、男性にも担う責任があると思います。その意識を持てるように取り組んでもらいたいです。介護もです。	女性	40歳代
男性・女性それぞれ身体的な違いがあるので、一概に平等を目指すべきじゃない。男性・女性と分けるのではなく、個人を尊重する社会を目指してほしい。女性だって能力に応じて活躍している人はすでにたくさんいる。	女性	50歳代
性別に囚われずに様々な職業や役職で意欲や能力のある人が活躍出来る社会を目指したい。	男性	30歳代
男女平等とか掲げている時点で、男女差別。人一人に対して、性別はあくまでも1個性でしかない。その個性を無くそうという取り組みが無意味。その人の人間性を伸ばせる教育と社会が必要。諸外国での取組みを日本でやろうにもスタート地点の違いや本質を理解していないのではゴールにたどり着くことはできないと考えます。	男性	40歳代
男女平等はとても大事な考え方ですが、個性差はあっても男女それぞれの特性はやはりあります。それぞれの立場を尊重し、その個性を活かせる社会を目指すことだと思います。	男性	70歳以上

男女平等社会の進展の実感（10件）	性別	年代
質問の内容自体にまだまだ差別を感じる。特に LGBTQ に関しては、このアンケートを作った方自体まだまだ理解が足りないのではと感じる。これは町田市ではなく、国に対してになります。私は夫より収入が高く、育休手当の上限を優位に越えており、育休の収入が普段の半分以下になってしまいます。大学院まで出て自己投資をし、必死にここまで収入を上げて来たのに、月収40万程度の女性と同じだけの手当しか貰えないことが本当に腹立たしいです。不公平で理不尽。私の収入を考慮してローン含め普段の生活を送っているのだから、かなりキツイ状態です。まだまだ月収40万以上稼ぐ女性が少ないと思われているのだと感じます。育休中、都民税などの税金も免除にならないし、これでは女性は産休育休に入れず、少子化は止まらないだろうと思います。	女性	30歳代
男女平等や多様化等の時代。最近選挙公約でも流行語のように扱うことが多くなった。少数派の人を重く取り上げるのではなく、ここを大切にしよう、という言葉の方は、私はすっかりしていいと思います。	女性	50歳代
戦後教育を受けていても、いまだに社会、法律、個人の意識（教育）の中に男女の差が残っています。どうしても生まれた時に2つの性によって社会の中に組み込まれて生きているので、なかなか変わらないと思います。	女性	60歳代
色々なことが平等になってきている気がしますが、昔ながらのような古い考えはまだまだ多く、そういう方の考えも変えていければと思います。	女性	60歳代
昭和で生まれて70年以上、ずいぶん男女関係も変わりました。よいことだと思います。男性がやさしく、思いやりがでてきました。	女性	70歳以上
細かくみるとまだまだ男女平等の意識は低いと思います。他の国より遅れています。	男性	70歳以上

性的マイノリティについて（7件）	性別	年代
<p>LGBT理解増進が昨今異常な方向に進んでしまっている事に町田市でも気付いてほしいです。「体が男で心が女」と言い張る男性が女性のスペースに入ろうとする人が増えました。女性の体と性に違和感があるとしても、生まれ持った体の性でスペースは分けるべきです。ただ、私自身同性が好きな女性であるので、同性愛への差別は無くなってほしいですし、同性婚は認められてほしいですが、何より現状、女性が男性の所有物のような結婚制度や家父長制は見直すべきです。国が度の過ぎたLGBT法案が進んでしまっていることに今一度見つめ直してほしいです。</p>	女性	30歳代
<p>男女平等、性的マイノリティの人々への配慮、男女平等をやっている感を出すために、普通の女性や男性の声を無視するのだけは絶対にやめてほしい。性別に関わらず誰でも利用できるトイレなどがいい例だが、それはすなわち、たとえ心が女性だろうと、身体的特徴が男性である人にトイレに入ってきてほしくない普通の女性の意見を無視している。少数派の意見を聞き入れるのも大事だし、そういう時代だとは思いますが、普通の女性が安心して生活し続けられる節度は保ってほしい。男女平等というのは、雇用や生活の負担割合に対して使われるもので、身体的には決して男女平等ではないということをどうして無視するのかとても疑問である。学校教育でも、まちがったことを教えないでほしい。</p>	女性	30歳代
<p>私は50代の未婚の女性です。私は40代のころに自分がLGBTQ+、この「+（プラス）」にあたりとわかりました。性的マイノリティ問題は難しいと思いますが、相談できる窓口や生活しやすくなる環境になればいいなあと思います。まだまだ私にとっては誰にでも相談できる環境ではないので、男女平等とLGBTQ+についても扱ってもらえると嬉しいです。</p>	女性	50歳代
<p>男女平等の議論をする時、男性特有の優位点と女性特有の優位点を認め合い、その上で平等の議論を進めていく事を望みます。LGBTについては、本人が病的に悩んでいるのか、嗜好かでは違いが出てくると考えます。LGBTを一つの括りにすることには疑問を感じます。病的な悩みの方に対しては、充実したサポートが必要になると考えます。</p>	女性	60歳代
<p>すべてを同じ扱いにするのが平等だと考えないでほしい。それぞれの特徴を活かせる方法を考えるべき。性的マイノリティに関しても、昨今はマイノリティ優先に思える。変質者かどうか見分けますか。いくら本人が心が女性と言っても、明らかに男性と分かる人が女性専用場所に入ってくる恐怖、もっと配慮すべきだと思う。</p>	女性	70歳以上

DVや性差別への対策（6件）	性別	年代
<p>社会や地域で男女格差の意識が薄まっていますが、各家族内では格差があると思います。家族内の問題なので改善は難しいと思いますが、それぞれが男女平等という認識を持たない限り改善はされないと思います。暴言や大声で相手を罵倒するなど実害がない被害についてもしっかりと支援をしていくべきだと思います。精神被害を受けて相談しても「実害がないのに、普通に話しているのに何が辛いのか？」と言われてしまう方が多いと感じます。そのような方々に対してもほかの方と同じようにケアしていかないと、相談する人は減って益々精神被害で悩む方や自ら命を絶ってしまう方も増えてしまうと思います。男女平等は深刻な問題ですが少しでも改善されることを願っております。今回はこのようなアンケートの機会をいただきありがとうございました。</p>	女性	10歳代

## ▼DVや性差別への対策（つづき）

<p>弁護士による相談窓口をもっと広げて欲しいと思う女性は、大勢居ると思います。私も両親が他界したので、何かおきても相談する人が皆無です。経済的支援（離婚訴訟、その後の生活支援など）をもっと充実してくれたら、老後の家庭でのパワハラに悩む人や世代に関わらず、救われる女性は大勢居ると思います。私の職場にも何十人といらっしゃいます。どうか、誰にも言えず悩んでいる方々を救ってくれる治世であってほしいと望みます。</p>	女性	50歳代
<p>長女が配偶者からのDVで離婚し、子ども（孫）を連れて町田に戻ってきました。離婚時は様々なサポートが全在住だった市は手厚かったため、町田もそうあってほしい（まだまだ弱者へのフォローが少ない）と感じています。また、このような案件によるひとり親は（ある意味被害者ですので）もう少し支援があれば生きやすいと感じています。</p>	女性	60歳代
<p>DVなどで悩み市に相談するも、子育て支援など受けるには全て主たる夫の名前・保険証が必要で、それをもらうことに苦勞した。相談しているのに、そのような点で手使い助けてもらえないことに悩む日々でした。DVで悩み苦しむ人が声をあげた時に市、国は1市民に何が何をしてくれるのですか、と今でも今でも思っています。</p>	女性	未回答

その他（21件）	性別	年代
町田はとても住みやすい所だと思っています。	女性	60歳代
町田に引っ越して3年足らずです。子育ても終え、年金暮らしの老女です。孫もいないので、世代間のことは分からず疎いです。男女平等そのものも考えたことはないです（若い時は色々思うことはありましたが…）。	女性	70歳以上
私が居住している地域であるにも関わらず、あまりの無知ぶりに自身閉口しております。猛省。	男性	50歳代